

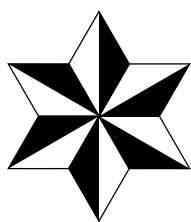
創部80周年記念部史

闘魂

Where there is a will, there is a way.

《攻めの10年》

平成7年度～16年度



平成17年3月

福岡県立修猷館高校ラグビー部

關 魂

目次

ラグビー部誕生（大正14年度）

追憶 初代会長 故溝口 博（平成13年10月13日没）

父、溝口 博（昭和41年卒業） 溝口 知行

1 ご挨拶 おめでとう80周年

「80周年を迎えて、今こそ」（昭和14年卒業）

OBクラブ名誉会長 古川 博……………1

「彼の群小」を高らかに」（昭和32年卒業）

OBクラブ会長 柴田 忠敏……………2

「修猷にはラグビー部が良く似合う」

福岡県立修猷館高校 第26代館長 古田 智信……………3

2 歴代主将・リーダーのメッセージ（平成7年度～16年度）

圧力十分「全く別件」 平成7年度 主将 川崎 拓生……………5

（九州電力）

大切なもの、人間力 平成8年度 主将 川尻 圭介……………6

（東京電力）

つらさに流されるな 平成9年度 主将 南蘭 浩……………7

（UFJ銀行）

結束したチームの怖さ 平成10年度 主将 北原 大吉……………8

（カルピス株）

ぶっ飛ばされた、あの夜 平成11年度 主将 佐藤 忠相……………9

（テレビ西日本）

倒れるまで走れ 平成12年度 主将 児島 真吾……………10

（同志社大学）

悔い残るワンプレー 平成13年度 主将 三角 公志……………11

（早稲田大学）

負けるたびに強くなった 平成14年度 主将 伊藤 輝之……………12

（米国留学）

やれば何かが見えてくる 平成15年度 主将 川崎 耕大……………13

（同志社大学）

ディフェンスに活路あり 平成16年度 主将 時枝 将……………14

タックルと組織プレーで 平成17年度リーダー

山口 和也、山本 宗弘、吉松 拓郎、石橋勇次郎……………15

3 カラー特集 I

卒業生紹介 あの顔この顔（年度別集合写真）……………17

4 活躍するOBから 現役へひとこと

「家内円満、ラグビー万歳!!」 東大で唯一のU23代表候補

平成7年卒業 片桐 巖……………23

（三菱商事）

「信じ合える関係を」 公式戦未勝利校の指導者

平成8年卒業 真鍋 健治……25

(福岡県立香椎工業高教諭)

「勝ちへのこだわりこそ」 現九電主将・日本代表

平成8年卒業 川寄 拓生……25

(九州電力)

「敵を分析、己に生かす」 プロ第1号・日本代表

平成8年卒業 阿久根 潤……26

(東京ガス)

「勇気、そして行動力」 創部100年・大学日本一

平成9年卒業 川尻 圭介……27

(東京電力)

「赤白ジャージと国歌」 現ジャパンセブン代表

平成10年卒業 山本 英児……27

(九州電力)

「役目をまず自問自答」 九大1部復帰の立役者

平成12年卒業 荒神 佳人……28

(九州大学院)

「勝つための評価方法」 大学日本一チームの主務

平成12年卒業 田原 伸洋……29

(東京海上日動火災保険)

「泳ぎ、踏み、走る」 アイアンマンレースの日本トップ級選手

平成12年卒業 佐藤 忠相……29

(テレビ西日本)

「高い目標あきらめず」 プロップで3年目にレギュラー

平成13年卒業 児島 真吾……30

(同志社大学)

「案けラグビー関係」 大学日本一のセンター

平成14年卒業 三角 公志……31

(早稲田大学)

5 カラー特集Ⅱ

・百道原頭修猷の庭に……(平成16年秋)……33

・強かった東福岡——全国大会福岡県決勝……34

6 指導の現場から 監督・顧問・コーチ

『闘魂』から得たもの

本物の男133人 素晴らしき女性14人

修猷館高教諭 ラグビー部監督 岡本 圭吾……35

(昭和56年卒業)

・花園を意識し続けた10年間

・文武両道の難しさ

【10年間の歩み】(私的な回想)

〔平成7年〕川寄(拓)チーム「勝って兜の緒を締めきれず」

〔平成8年〕川尻チーム「部員難・春以降の伸び悩み」

〔平成9年〕南園チーム「最後の詰めが甘さ」

〔平成10年〕北原チーム「目標と現実のギャップ」

〔平成11年〕佐藤チーム「苦しみと最高の頑張り」

〔平成12年〕児島チーム「最高にチャンスの年・厳しき欠如」

〔平成13年〕三角チーム「決勝の場で舞い上がる」

〔平成14年〕伊藤チーム「試合内容は10年で最高」

〔平成15年〕川寄(耕)チーム「個にあった戦術・トレーニングの継承」
 〔平成16年〕時枝チーム 「修猷最強FW・強かった東福岡」
 【わがままな私論】

・人工芝のグラウンドを

(1) 有能な人材の獲得と部員の確保

(2) 練習環境の充実

(3) 練習・コーチングの充実

(4) 花園へ福岡県2校の実現

・「本気」が「本物」を生む

強化はディフェンスから

修猷館高教諭ラグビー部顧問 瀬尾 博栄……………38

・経験者わずか2割

・知的判断と攻撃システム作り

若い時期に何を学ばせるか

修猷館高教諭ラグビー部顧問 清水 嘉隆……………40

宿る「Law」の精神

修猷館高教諭ラグビー部顧問 御領 昭彦……………41

・1級レフリーとして

・ラグビー憲章を読む

・「安全性」支える倫理

7 父母会と共に

1粒で何度もおいしい楢田形

拓生(平成8年卒)、耕大(平成16年卒)の父

(昭和44年卒)川寄 隆生……………43

8 マネジャーの目

あの「東」に勝った

平成8年卒業 秋永 奈々美……………45

(西日本シティ銀行)

輝いていた3年間

平成16年卒業 松本 砂小莉……………46

(明治大学)

日本一幸せなマネジャー

平成17年卒業 三ツ木 志織……………46

(早稲田大学)

青春☆ラグマネジャーの今

平成17年チームマネジャー (3学年) 麻生 知里……………48

(3学年) 中村 詩織……………48

9 取材現場から 若き戦士たちへ

なぜ修猷ラグビーは期待されるか

昭和54年卒業 松瀬 学……………49

(早大共同通信社フリーライター)

伝統の遺伝子?

勝負に弱い修猷ラグビー

昭和58年卒業 森田 博志……………50

(早大朝日新聞社)

10 資料篇 I

・部歌……………53

・修猷館ジャージ変遷……………53

・80年間の役員及び部費一覧……………54

・卒業部員名簿(平成8年卒業〜平成17年卒業)……………59

・物故者名簿(平成7年以降)……………60

11 資料篇 II

- ・平成7年度対戦一覧表(部員数付き、以下同)……………61
- ・平成8年度対戦一覧表……………61
- ・平成9年度対戦一覧表……………63
- ・平成10年度対戦一覧表……………64
- ・平成11年度対戦一覧表……………65
- ・平成12年度対戦一覧表……………66
- ・平成13年度対戦一覧表……………67
- ・平成14年度対戦一覧表……………68
- ・平成15年度対戦一覧表……………70
- ・平成16年度対戦一覧表……………71

12 資料篇 III

主要大会の戦績表及び出場メンバー

- ・平成7年度……………73
- ・平成8年度……………75
- ・平成9年度……………79
- ・平成10年度……………82
- ・平成11年度……………85
- ・平成12年度……………88
- ・平成13年度……………91
- ・平成14年度……………94
- ・平成15年度……………97
- ・平成16年度……………100

13 あの日のあの時(新聞、雑誌の紙面で再現)

- ・第57回全国高校ラグビー大会福岡県決勝……………103
- 修猷館高4ー3福岡工
- (修猷館は18年ぶり8回目の全国大会出場)
- ・プロ契約日本代表に阿久根潤(平成8年卒業・東京ガス)……………107
- ・第84回全国高校ラグビー大会福岡県決勝……………108
- 修猷館高12ー44東福岡高
- ・天理高との対戦再び 創立80周年同士が52年ぶりに……………109

14 福岡県高等学校ラグビー部 創部年一覧……………111

15 関係年表(平成7年〜同16年)……………113

16 I R Bラグビー憲章抜粋 序文・ラグビーの目的……………125

17 随想 守田基定先生のこと 昭和41年卒業 安部 直幸……………127

18 80周年記念行事実行委員会報告……………129

- ・募金400万円超える……………129
- ・祝賀行事 記念試合 記念式典……………130
- ・委員会の構成……………131

19 編集後記……………132



提供・毎日新聞社

第84回全国高校ラグビーフットボール大会

福岡県予選決勝 対東福岡高
平成16年11月13日 博多の森球技場

ラグビー部誕生（大正14年度）

大正13年9月16日付、福岡日日新聞（現・西日本新聞）の紙面に次の様な記事が掲載されている。これが九州における最初のラグビー公式戦である。出来るだけ原文に近い姿で転載してみたい。

ラグビー大蹴球戦

23日1時から 春日原運動場で

新たに組織された九州ラグビー倶楽部では、その発会式を兼ね、斯界の権威たる慶応大学蹴球部を迎えて23日午後1時から九鉄沿線（現・西鉄大牟田線）春日原グラウンドで、九州に於ける初めての蹴球大試合を行う事となった。試合番組は慶応大学対全九州軍、大分高商（現・大分大学経済学部）対全福岡軍であるが、慶応大学蹴球部は日本において最も古い歴史を有し、ラ式に於いては常勝軍の名を欲しままにして居る強チームである。

これに対する全九州軍のメンバーは稗田幸三郎、高地萬里、白田六郎等、何れも同大学の旧選手連で意気颯爽たるものがあるから、目ざましい白熱戦を演ずるであろう。大分高商は九州に於ける斯界の新鋭。全福岡軍は福岡連隊、福岡中学（現・福岡高校）、九鉄（現・九州電力）の猛者を選びすぐったもの。これまた前者に劣らぬ試合振りを見せるであろう。九州ラグビー倶楽部の組織と共に比較的九州方面に疎外せられていたこの競技が、芽生えする事は九州運動競技界のために喜ばしい事である。

試合が近づくにつれ、連日関係記事が紙面を賑わしている。この様なことが当然のことながら、修猷生の心を揺

さぶるきっかけになったことは、確かなことであろう。そのことは、次年度における部の誕生に繋がっていったものと思われる。

そもそも九州の地とラグビーとの出会いは、明治44年10月鹿児島高等農林学校（現・鹿児島大学農学部）に講師として赴任した、慶応OB松岡正男によってもたらされた。大正4年同校を離任するまでの3カ年余は、自身グラウンドに出て、直接学生を指導したが、種子の散布はおろか、開花すらしなかった。

この7年後、即ち大正11年4月、大分高商が開校と同時に、第1回生の伊藤進三郎（京都一商（現・西京商高）出）・森忠太郎（初代主将）等が中心となり部の誕生を見た。福岡ではこの年、慶応の先輩である海東要造（九州鉄道）の誘いで、横山通夫が入社した年でもある。12月1日には1年志願兵として宇都宮連隊に入隊したので、実際の活動は1年後福岡に戻ってから始まるのである。そこには、阿部大六・高地萬里・白田六郎・富田某等の学友が待っていた。

彼等は上司海東の物心両面による援助に支えられ、福岡にラグビーを広め、大いに楽しむことを考えていた。手はじめに各学校を回り、ラグビーの普及に務めた。

大正13年、福岡中学に部が生れたことや、横山さん達の活動などを通じて、体育教官長三熊先生は、本館の運動部精神に共通する点が多いと、共鳴するところがあった。このことが、大正14年1月16日の2・3年生を対象に開かれた、白田六郎氏による「ラグビー講演会」となったのである。

これがどの様な風の吹きまわしか、修猷のワルソウ連中が大感激。ついに、新年度早々正式に部として産声をあげたのである。

4年生・梅崎忠亮、梅津一敏、浜崎越郎、安東久夫、高島彌一郎、藤野種生。3年生・鎌田昌義、橋爪（現・高橋）長矩、田代貯蔵、等によってルールの解説を受け、一方では横山さん所有の原書を廻し読みしながら、コーチをお願いし練習に励む。グラウンドは、野球部や陸上競技部など、既成各部の練習の合間をぬって走る状態であった。

やがて、ジャージも薄水色と黒の横縞模様になり、次第に部も活発になってきたが、部員数不足で、陸上競技部の川津網友、柔道部の松井清孝などの応援を得て、やっと対外試合が出来る有様であった。

4月17日には早くも福岡中学と修猷のグラウンドで対戦。0-28と完敗した。創部早々のこの出来事は、無鉄砲に等しい。これもラグビーに対する情熱の旺盛さが成せる業である。これが対外試合の、しかも福中との初ゲームであった。同月29日には再度福中に胸を借り、3-8で返り討ちにあった。1トライをものにしたことは、直向きな努力の現れである。

3度目の顔合わせは、福中創部一周年記念に招待され、同校グラウンドで対戦。0-20とワンサイドゲームに終わっている。はじめたばかりの修猷と、1年早く発足した福中とでは、当然の結果であろう。再三再四の言葉の様に4度目は、11月20日修猷グラウンドで行なわれ、6-11のスコアに終わってしまった。

第9回全国中等学校大会からは、名実共に全国各地の予選を勝ち抜いたチームにより、甲子園球場で行なわれるようになった。しかしこのときの九州代表には、大阪毎日新聞社（現・毎日新聞大阪本社）の推薦で福岡中学が出場している。修猷生としては、何回負けてもきっちり白黒を決めたかったにちがいない。

これを機に、部の強化をはかるため、部員募集をする。溝口博、植村修などの新鋭を加え、練習に精進する。

追憶



ラグビーと修猷館をこよなく愛した男
故 溝口 博 初代会長

(昭和4年卒業・平成13年10月13日没)

父、溝口博



昭和41年卒業

溝口知行

（溝口外科・整形外科病院
理事長）

私は父親にあまり親近感がなかった。父は明治生まれで厳格だったこともあり、また開業医をしていた父は多忙な生活を送って、家庭をあまり顧みられなかった。家庭内で団欒（だんらん）はあまりなかったように思える。

思い返すとそれでも、いくつかのエピソードがある。

修猷館入学時、勧誘されラグビーに入学した事を報告すると、「よくやった、別の世界が始まるぞ。」といわれ、福岡中学（現福岡高）がラグビーを創部した時、それに対抗して作ったこと、自分は野球をしていたがやめてラグビー部に応募したこと、神宮大会で活躍したことなど、楽しそうに話したのを思い出す。

母がパキスタンで客死した時、ちょうど父も同行していた。母は時々海外旅行に行っていたが、シルクロードがブームの始まりの頃で中国からトルコまで、ほぼ一通り行き、アフガン、フンザ付近が残っていた。父はあまり同行しなかったのだが、どうしてもとせがまれ、あの事故に遭った。

バスが転落しインダス川の崖（がけ）の上に止まったので、川床までの転落は免れた。だが死亡数人の中に母が入ってしまった。

父は怪我した者数人をギルギッドに送り、みんなの初期治療をし

ている。

わたしは、2、3日後に現地に行ったが、その時はすでに父がギルギッドからラウルピンジまで遺体を連れ帰った後で、そこでいろいろと話を聞いた。

ギルギッドで町じゅうの水を集めさせたこと、旅行会社との現地での話し合いで、旅行が成立しなかったと認めさせたこと等々。妻を失い、自分も顔面、頸（けい）部をけがしている中で、よく冷静にいられるものと、感心した。

父はその後、よく旅行するようになった。一人旅で世界中、年1回程度行っていた。1人がつまらなくなったら職員を連れて出掛けた。森山前婦長、砥綿前事務主任らとニュージーランド旅行した時の写真が今も仏壇に飾ってある。ちょうど85歳の誕生日で皆に祝ってもらい嬉々としていた。写真立ての額の枠に「このの大学で走ったよ。」と書き込みを入れて。

その後1度中国に行った。86歳が最後であった。後はひざが立たなくなり、寝て過ごすことが多くなった。

88歳の時、皆様より米寿の祝いをしていただいた時が元気な姿の最後だったように思える。その後は足、腰の力が萎（な）え、また思考が衰え、人前に出なくなってしまった。

よく「情け無や」とこぼしていた。

父は結局90歳を1ヶ月越えた所で亡くなったが、明治、大正、昭和、平成と生き天寿を全うしたと思う。また、他界した時皆様に叩き叩き、またラグビー追悼試合までして頂いて感謝しております。

1

ご挨拶
おめでとう80周年

80周年を迎えて、今こそ



OBクラブ名誉会長

古川 博

(昭和14年卒業)

大正14年に創部して本年80周年を迎えることになった。うれしい極みである。しかも決して80年間はただ坦々たるものではなかった。戦前戦中戦後と急速な世の中の変化に廃部になった学校もあった。修猷館も部員が減り廃部寸前の危機もあったが、そのつど皆が頑張り継続して本年の喜びを迎えることが出来た。

私の修猷ラグビーとの出会いは昭和11年の入部。あれからもう70年近くになる。

私の修猷ラグビーに対する思い出は3周年ごとの記念史に書いているので今回は割愛して今感じている事を書いてみよう。

まず第1は応援における女子生徒の「いけいけ修猷！勝て勝て修猷！」とのきれいな乙女の応援の声である。OB、特に戦前の我々にしてみれば想像もつかぬうらやましいシーンである。

次には試合中保護者の方々（特にお母さん）の声援の多いこと。これまた昔のOBにしてみれば隔世の感である。毎年恒例の初蹴（け）り会（1月2日）は保護者の方々の協力で、あの寒い時期に盛大に行われている。あれこそ学校側は無論のこと、現役、OB、それに保護者の四者が一体となっているほほ笑ましい光景である。

そして最後に特筆したいのはこの数年の間に急速に部員数が増えていることだ。今や60人を越える勢いになっている。以前は1チームを作るのさえ苦労した時代もあったのに、今では4チーム出来る勘定になる。

なぜこのように増えたのか。それは部員がお互いに仲良く、全校生徒から愛されていること。次に先生たちの愛情あふれた指導。それが保護者から信頼されているからだろう。ローマは一日にして成らずと言う諺（ことわざ）があるが、これこそ積年の努力のたまものである。

近年のルール、指導法の変化は著しい。OBでラグビーで教師。これが理想だ。そしてそのチャンスが訪れた。昭和30年、修猷館ラグビー部出身の故淵本武陽君（昭和25年卒）が教官として就任した。それから28年間退官するまでラグビー部顧問として努力をしてくれた。退官後これまた修猷ラグビー部出身の岡本圭吾君（昭和56年卒）が引継ぎ心魂をそそぎ現在に至っている。その間高校ラグビーのベテラン瀬尾先生、それにレフリーとしても有名な御領園先生が加わりまさに完璧の体制となった。

いやまだある。清水先生が顧問として援助し、それに修猷ラグビーのOBであり母校の先生でもあった守田基定君（昭和14年卒）。それに昭和28年卒の森部信二君がグラウンドで常に裏方に回って指導してくれた。

そしてOB会もかつて実業団として活躍全国制覇をした、新日鐵釜石の名選手柴田忠敏君（昭和32年卒）が会長となり若返り、活気を呈している。

私は80周年を迎えた今、修猷館ラグビー部は積年の努力が報いられる時が来たと思っている。進学校としての色々なハンディキャッ

ブはある。だが現役、OB、保護者そしてうれしいことに学校特に館長までが試合の応援に来てくれる。今こそ皆が一体となってハンデキャップをはね返して勝利に向って進んでいこう。

最後になったがOB会設立時より長年会長を務めて頂いた故溝口博初代会長より私が2代目会長を引き継いだ時申し送りの言葉があった。

「古川君、修猷ラグビーはファイト。そして何よりもフェアプレー精神でやってほしい。修猷ラグビーがファイトと品位をなくしたらそれはもはや修猷のラグビーでは無い」と。

これからも長く引き継いでいきたい重い言葉である。

『彼の群小』を高らかに



OBクラブ会長

柴田忠敏

(昭和32年卒業)

今は亡き溝口会長と、現古川名誉会長の後を受けて平成15年度から会長に就任いたしました。この伝統と誇り高さOBクラブの会長就任には、諸先輩の多い中、また今年は特に創部80周年という節目の年でもあり、記念行事も控えて、正直に申し上げていささか重いものを感じざるを得ませんでした。しかしながら修猷ラグビーを通して受けた数々の教えを思う時、これを機にいささかでもお返し

出来るのではとお引き受けした次第です。

私自身昭和32年卒業以来、学生時代、社会人と選手生活を送りましたが、皆さんもそうでありますようにそこで知り得た多くの友との出会い、物事との遭遇は何ものにも変え難く、得難いものでした。その根底には常に軸となり技となって修猷ラグビースピリットがありました。43年振りに故郷に戻りグラウンドに立った時、いい知れぬ感情に襲われ、ここで走っていたことが昨日のように懐かしく思い出されるのでした。

また、現役の練習風景を見て安堵（あんど）したことも覚えておられます。そこには今も変わらぬ質実剛健のもと、闘魂あふるる姿がありました。昭和30年代の後半には進学の波高まる中、部の存続さえ危うい時代もありましたが、今では総員60余人と全校男子生徒の1割強の者がラグビー部に所属するという素晴らしい状況が続いております。

私の就任も若返り策の一つでもあると思われませんが、それでも現役の諸君とは50年の差があります。就任に際し今の修猷ラグビーの目指しているもの、現代の学生気質など、早急に理解する必要があるりました。グラウンドに出向き彼らの多くと接するうち、「高い理想と人格を兼ね備えた全国に誇り得る人材の育成。」を目標にした部の存在理由が明確に分りました。部員自身も文武両道を旨とし、それを実行し達成して行きました。

ややもすると「今時の若い者は……。」と論拠のない批判めいた根拠的な話も聞こえますが、決してそうではない。むしろ我々の時代よりも自分の考えなりしっかりとしたものを持っていると思います。校内の活動のあらゆる場でリーダー的な役割を果たし能力もいかに発揮されているやに聞いております。それだけに学校サイ

ドの部員に対する関心もより一層高いものがうかがえます。

そんな中で最近の高校ラグビーを考える時、日本ラグビー界のプロ化や、ルールの大変革はさておき、保護者の存在と関心の高さが顕著なのではないでしょうか。これからのより良い部の発展と継続を望む時、学校全体の高い認識と理解のもと、保護者の協力とOBクラブの温かい思いやり。この三位一体となった活動こそが必要不可欠であろうと考えます。

このところの勝敗は全国大会をかけて県大会決勝までは再三にわたり駒を進めながら今一步のところまで終っています。しかし県立高校として何かと制約の多い中、毎年他校もうらやむほどの好成績を残していると見て良いでしょう。部の在り方として、ラグビーの強さだけを求めるのではなく、高校教育を基盤に修猷の目標「剛毅にして誠実なる人間の形成」を目指すものであれば、それに向って、またその一助として立派に機能し達成されているのでないでしょうか。これはひとえに学校サイドの取り組みと指導の先生諸氏の熱意と並々ならぬ努力にほかなりません。

このような時の流れの中で折しも創部80周年という記念すべき年を迎えました。今年こそ皆なで「彼の群小」を高らかに歌おうではありませんか。

また、今後のラグビー部とOBクラブのより良い発展のためには、社会人の第一線で活躍中の現代感覚あふれる40代、50代の本当の若年ですべてをリードされることが肝要かとも考えております。しかも、後輩の指導に傾倒でき、若手OBが更に集いやすいクラブへへますますの脱皮を期待してやみません。

終わりにになりましたが、創部80周年を迎えるに当たり全国のOB諸氏からの熱き御支援と、特に東京修猷ラグビーOB会（平島正登

会長、岩田至道実行委員長）の御協力、斉藤雄80周年実行委員長ほか各委員の御尽力に対し厚く御礼を申し上げる次第です。

修猷にはラグビー部が

よく似合う



福岡県立修猷館高校
第26代館長

古田 智 信

修猷館のラグビー部が創部80周年を迎えたことは、本当に喜ばしいことであります。明治18年の修猷館再興以来120年ですから、その3分の2の期間、修猷館のグラウンドには、練習に汗と涙を流すラグビー部員の姿があったということです。80年間毎年毎年、生徒たちのひたむきな努力と顧問教師の熱心な指導、そしてOBや保護者の方々の厚いご支援が重ねられたからこそ、ここまで来ることができたのだと思います。

これまで多くの修猷館関係者が一様に感じてきた思いは、修猷にはラグビー部がよく似合うということではないでしょうか。私自身も、昨年4月以来何度かグラウンドや体育館で運動部の練習の様子を見学しましたが、ラグビー部の生徒たちの姿が1番印象的です。修猷館の学園風景にとけ込み、修猷館らしさを感じます。生徒たちがお互いに叱咤（しつた）激励しながら動き回り、ときどき顧問教師の厳しい声が飛ぶ情景を見ると、修猷館は元気に頑張ってい

る、と何故か胸が熱くなるのです。

実際ラグビー部は、修猷館教育の中核に位置づいていると思っています。生徒たちが自ら身に付けたスポーツマンシップは、修猷魂そのものであります。文に武に懸命に努力して、学校生活のあらゆる分野で結果を出し、学校行事の企画運営リーダーとなつて生徒全体を引っ張っています。そればかりではなく、例えば年末には黙々と学校の大掃除をするなど、目立たぬところでも貢献しています。

このようなラグビー部の在り方は、一朝一夕でできたものではなく、まさに80年にわたって培われた伝統の力だと思っています。創部からここに至るまでには、さまざまなことがありました。10年前に編集された『修猷館ラグビー部七十年史』を読ませていただきましたが、存亡の危機ともいふべき厳しい時も何回かあったようです。しかし、修猷館ラグビー部に寄せる多くの方々の情熱と英知によって、部は窮地を救われ、修猷館を代表する今日のラグビー部となったのです。ラグビー部の生徒はもちろん、私たち修猷館関係者全員がそのことを忘れてはならないと思っています。

今年も東福岡高の壁が厚く、花園の夢は実現しませんでした。しかし、この1年間の戦いぶりについては、多くの方々から評価を頂いていますし、生徒も顧問教師も私も悔いはありません。勉強も学校行事も手を抜くことのできない本校の日常生活の中で、少ない練習時間を最大限に活用し、自分たちのモチベーションを極限まで高め、顧問の指導によって効果のあがる練習方法を工夫し、すばらしい結果を出してきました。

しかし、まだまだこれに満足することなく、一層精進して欲しいと思っています。ラグビー部がさらに力をつければ、修猷館全体が伸びるのです。慢心と油断は大敵です。気の緩みさえも許されませ

ん。多くの方々が、修猷にはラグビーがよく似合う、と思っていることを大いなる誇りとして、これまで以上に努力することを願っています。

ラグビー部OBの方々のいつも変わらぬご支援には、言葉に尽くせぬほど感謝しています。後輩だから支援してやろう、ということではなく、多くの方々が修猷館教育の帰趨(きすう)を決する存在として、ラグビー部をしっかり守ってほしい、と思われていることを何よりも心強く感じています。今後ともよろしくお願いします。



新校舎完成予想図

2

歴代主将のメッセージ

(平成7年度～16年度)

(平成17年度リーダー)

圧力十分「全く別件」



平成7年度 主将

川 崎 拓 生

(九州電力)

修猷館ラグビー部創部80周年おめでとうございます。OBの一員として、この場に参加できることを心よりうれしく思います。

さて、私たちの現役時代を振り返ってみますと、大きく3つの要素に分けることができます。

まず1つ目は、3年間岡本先生を怒らせ続けたこと。ラグビーはもちろんそれ以外でも、怒られることの多かった私たちは、本当に迷惑をかけた学年だったのではないかと思います。今はどうか知りませんが、当時岡本先生の決まり文句でもあった練習後の「全く別件」と「死ぬまで走れ」(もちろん死んだ人はいません。)はワンセットで、今思い出しても「全く別件」という言葉にはその言葉以上の圧力を感じます。

2つ目は、たくさん仲間を得たこと。前に書いたように岡本先生の考え出す練習にはへとへとになりながらも、練習が終われば、百道浜やMのPルームといったほぼ自分たちのためにあったとしか考えられない場所が集まり、ラグビーの練習と同じぐらいの時間を費やして、たくさん話をしたことは、ラグビーの練習とはまた違った意味で貴重な時間だったと思います。

そして3つ目は、ラグビーのこと。特に、最終学年の1年間は1

番印象深く鮮明に思い出されます。1回戦で東福岡に勝って、勢いまかせに県大会を制し、そのまま九州大会で準優勝までしてしまった新人戦。慢心か本当の実力だったのか、あつという間に1回戦で敗退した夏の大会。最後の花園予選は今でも思い出すだけでくやしいベスト8。勝つことも、負けることも、すべてを経験できた最後の年は、花園に行けなかったことを差し引いても、十分に充実した1年間でした。

その中でも、ベストゲームは新人戦の対東福岡。試合前は肩を脱臼しながらも、「ここで出らんでいつ出るとや」の一言で強行出場したロックの阿久根がラインアウトを取り、平均体重で10キロ以上劣勢だったFWが走り勝ち、BKが必死にタックルして勝ち取ったこの試合は大げさでなく、素晴らしいチームだったと自負しています。まだまだ、思い出せばきりのない現役時代ですが、これだけの財産を与えてくれた修猷館ラグビー部と岡本先生、数多くの先輩、後輩、同級生に本当に感謝しています。ありがとうございました。

大切なもの、人間力



平成8年度 主将

川尻圭介

(東京電力)

私が主将として過ごした1年は特別華やかなものではありませんでしたが、今でも古き良き思い出として鮮明に心に残っています。ラグビーとは不思議なもので、主将として過ごした時期に限らず、どんなに過去のことでも一シーン一シーンが鮮明に記憶に残り続けています。

私がまだ1年生のころはいわゆる古い風土があって、3年生など気軽に話せる存在ではありませんでしたが、私が3年になった頃から変わり始めたと思います。昔は精神論による一見不可解な？トレーニングも、もしかしたらあったかもしれないが、私のころくらいからできるだけ実質的なものを追及するようになっていったと思います。これはラグビーにとどまらず、日常のさまざまな部分でも起きはじめていた変化だったかもしれません。

そのような流れもあってか、やや「理屈」に走る人間が増えたように私は感じていました。それまでは何か理屈ではない、熱くたくましい部分が強かったように思います。私が3年になったころからその古き良き部分が薄れ、物事をすぐ合理的に考えたり、理屈に走ったりする人間が増えてきたように思います。

私自身もどちらかといえば新潮流世代の走りですから、それが決

して悪いとは思いませんでしたが、主将としてチームを引っ張る立場になったとき、正直どこか「もどかしさ」を感じていました。その原因がどこにあったのか、今ははっきりわかりません。チームに「大切なもの」を染み込ませることができなかったのです。

風土的な変化が起きても本質的に変わらない「大切なもの」、それは競技の勝敗うんぬんを超えて、いつもそのことを教えんとしていました。私は結局主将としてチームにそれを染み込ませることはできませんでした。

私は修猷館での主将時代を思い返すと、真つ先に「申し訳なかつたな」という気持ちがいってきます。同期のマネージャーに対してあまりいい思いをさせてあげられなかったし、部員に対して怒りをダイレクトに伝えたりしていましたので、主将としてはあまりいい器ではなかったと思います。

もちろん感動もたくさんありました。例えば、そんな弱小チームが新人戦の決勝まで進み、強豪の東福岡を相手にひけを取らなかったこと。高校からラグビーを始めた素人の選手が、タレント集団の東福岡を相手に唯一のトライを奪った時には心から感動したのを覚えています。

一つひとつの思い出は、時が経ち、あまりチームメイトと顔を合わせなくなってしまうでも決して色あせることない共通の価値観であり、宝であり続けます。いつまでも過去にすがり続けていては前進できないと思いますが、常に先を見据えて前進しているとき、ふと思いつける貴重なシーンがあるというのは非常に幸せなことであり、ありがたいことです。そのことをいつも感じ、感謝しながらこれからも前進し続けようと思います。

つらさに流されるな



平成9年度 主将

南 蘭 浩 二

(UFJ銀行)

ノースサイドの笛が鳴った時、頭が真っ白になったことを今でもよく覚えています。筑紫丘高にロスタイムの逆転負けを喫し、僕等の3年間は終わりを告げました。

なぜ僕等は花園に行けなかったか。最後の日々、悔いのない練習をして来た自負がありました。常に「自分は今、全力で取り組んでいるか」を意識しながら練習していました。仲間たちにもそう呼びかけて、一緒に頑張っていました。それでも結果は出なかった。

ただ、1年間通してそれが出来たか。花園出場という目標を見失い、目の前のつらさに流されたことはなかったか。今振り返って見れば、否定できません。主将としての1年間を振り返る時、その後悔だけは今でもぬぐいきれません。

今、修猷ラグビー部で日々花園を目指して頑張っている後輩たちに伝えたいことは、目の前のつらさに流されることなく、常に目標を見失わずに、一瞬一瞬全力でプレーしてほしいということです。後で振り返った時に、決して後悔することのないように。そうすればおのずと結果はついてくると思っています。僕らの果たせなかった夢を実現してくれることを心より応援しています。

花園出場という夢は果たせませんでした。修猷ラグビー部で過

ごした3年間は、私の人生において忘れられない思い出です。3年間同じ夢を持って、共に頑張ってきた1人の仲間は、私にとって欠けがえのない財産です。仲間たちの支えがあったからこそ、3年間目標に向かって努力していったと思うし、そんな信頼できる仲間だからこそ、卒業して7年たった今でも変わらずに親友でいられると思います。

皆、今ではそれぞれの道に進んで、会う機会も減りましたが、盆正月には必ず集まって、高校時代の話で大いに盛り上がります。また、それぞれの近況を聞くと刺激を受けて自分ももっと頑張ろうという気持ちになります。

僕ら平成9年の仲間たちは、修猷ラグビー部80年の歴史の中でも1番個性的で、1番深い絆(きずな)で結ばれた、最高の学年だと思います。

現役の皆さんも、卒業してそう思えるように、仲間たちと充実した日々を送って下さい。

最後に、3年間お世話になった、岡本先生、瀬尾先生、清水先生、守田先生、OB、父兄の皆様、皆様のご支援があったからこそ、僕ら平成9年の12人は、伸び伸びと、ラグビーに打ち込みました。ありがとございました。今でも、皆、それぞれの道で7年前と変わることなく、明るく元気にやっています。そして、修猷ラグビー部の花園出場を心から願っています。

結束したチームの怖さ



平成10年度 主将

北原 大吉

(カルビス株)

私たちの代の新入部員は当時では異例の22人と多く、活気に満ちあふれ、仲良く練習に励んでいました。春の大会が終わり、夏の走り込みが本格的になってきたころから仲間たちが部を辞めはじめ、1人辞めると辛くなる式に退部者が増えていき、当初22人いた新入部員はあつと言う間に9人になってしまい、気持ちもバラバラになっていました。私たちが1年時の花園予選では県大会1回戦で敗退し、岡本圭吾監督からその敗因の一つとして、「敗北の原因は1年生にもある。お前らは史上最低の1年生だ。」と言われ、大変ショックを受けたことを覚えています。私たちはこの言葉を背負って3年間ラグビーをしていかなければなりませんでした。

私たちの代になると、最初の新人戦では1、2年生合わせて15人しかおらず、試合自体できるかどうかのレベルであり、部の存続すら危うい状態でした。それは花園出場を目指す以前の問題でした。

スター選手やエリート選手はいませんでした。県内の強豪高校に打ち勝つには、私たちはチームワークを磨き、「最高のチーム」になることを目指す以外手はありませんでした。練習から全員で馬鹿みたいに出し、お互いにコミュニケーションをとり、自分たちを奮い立たせ、時には意見が食い違いぶつかり合うこともありました。

今思えば、チームが一つになることだけを常に追い求めたチームだったと思います。

最後の花園予選では県大会1回戦で東福岡高との対戦となりました。東福岡高はスター軍団、つまり私たちとは全く正反對の相手であり、私たちが3年間追い求めてきた「最高のチーム」の力を試すには絶好の相手でした。試合は今まで培ったチーム力を十二分に出し切り、前半はワントライ差と東福岡を苦しめることができました。最後は力及ばず完敗しましたが、個人で戦うスター軍団に対し結束したチームの怖さを味わわせることができたと思います。試合に負けて最後に部員全員で円陣になり私たちが後輩たちに最後の話をしている際に、私たちが3年ではなく後輩の1人が試合に負けたことと、このチームが終わることに対して泣きじゃくる姿を見た瞬間、このチームは一つにまとまった最高のチームだったと確信しました。

素晴らしい選手が揃い、どんなに強い最強のチームであろうと、魂が一つにまとまった最高のチームには及ばないと思います。魂が一つにまとまった「最高のチーム」を目指すラグビーこそが、修猷館のラグビーであると信じています。

「史上最低の1年生」からスタートした私たちですが、その史上最底軍団が最高のチームワークを持った、最高のチームだったと今では思っています。修猷ラグビー部で、このチームでラグビーできたことを誇りに感じています。ここまで育ててくれた諸先生方、先輩方、そして一緒に頑張った仲間たち、後輩たちに感謝の気持ちでいっぱいです。本当に有難うございました。

ぶっ飛ばされた、あの夜



平成11年度 主将

佐藤 忠 相

(テレビ西日本)

平成11年10月10日、県大会1回戦、22-60という大差で私たちは敗れ去りました。対戦相手は福岡高。春の定期戦では49-10という結果で勝っていただけに、当時の私たちには受け入れがたい現実でした。

私たちの代は、最後まで残った3年生は6人です。敗因？は3年生の数でしょうか。試合後、私たちは無気力のまま更衣室となっていた体育館にずっと座り込んでいました。これから先どうすればいいのか、考えることができませんでした。

その夜、私たち6人は学校に集められました。「お前ら悔しくないのかあ！」先生にそう言われ、悔しいと答えると、「俺も悔しい！」先生はそう言い、1人ずつ殴っていききました。私はものすごく感動しました。殴られ終わった後、私たちは先生の胸に抱かれていました。涙が止まりませんでした。その後、一緒にご飯を食べ、私たち6人は1人の家に集まりました。その場では、今まであった事や、これから先のことをずっと語り合いました。試合当日の夜なので疲れており、電気をつけたまま1人、また1人と寝ていききました。私も疲れて横になりましたが、なかなか寝付くことができませんでした。ふと隣りに寝ていた副将をみると、彼は仰向けのまま、涙をぼろぼ

ろこぼしていました。

「おれの3年間は何やったとかいな……。」これが私たちの高校ラグビーの最後です。彼の涙は今でも私の脳裏に焼きついています。

あの日から今日までの5年間、私はよく修猷館でのラグビー時代を振り返ることがあります。時がたつにつれて冷静に分析できるようになり、今、最も強く思うことが、私たちはラグビーを自分たちでやっていかなかったということです。当時の私たちにはもちろん一生懸命やっていたのですが、まだ甘かったと思います。どこか先生に頼っていて、自分たちで何とかやってやろうという強い志が欠けていました。もちろんそれは主将であった私の責任であります。自分たちでやるからこそ楽しさが生れてくるのであり、成長も著しくなります。言葉で言うのは簡単ですが、これを本当に実践するのは難しいことだと思えます。私たちは先生にもっとぶつかっていきべきでした。いい子に成り過ぎました。

試合後の夜、先生にぶっ飛ばされた経験は、これからもっと長い人生を送っていく中で、良い起爆剤となりました。高校3年間のラグビーは非常に有意義なものでしたが、これは私たちのスタートです。先ほど紹介した副将は、小さいころからの夢である早稲田へ行き主務として活躍しました。また1人は幼稚園から現在までラグビーを続けており、だれよりもラグビーを楽しんでいます。九大へ行った3人は同ラグビー部の再建に貢献し、私はトライアスロンでトップを目指しています。個性が強い者ばかりなので、これから先が楽しみです。きっと何かやらかしてくるでしょう。今でも皆で集まる時はあの夜の出来事の話で盛り上がりがあります。(笑)

「倒れるまで走れ」



平成12年度 主将

児島 真吾

(同志社大学)

私の代のラグビー部は戦後数10年ぶりに九州大会Bリーグ優勝を果たしました。その県大会予選では、決勝戦で宿敵東福岡高を10-19と後1歩のところまで追い詰めました。本校に入学して1度も優勝というものには縁がなかったので、Bリーグとはいえ、試合を終えた私たちの気持ちには格別のものがありました。本校の歴史の1ページに私たちが残した成績を刻むことができたことを心から光榮に思っています。

本校のラグビー部に入部する生徒の大半は初心者で、東福岡高などの私立校に入部する選手とは入学の時点ですでに大きな能力の差があります。その差を埋めるため、私たちは日々ハードな練習に取り組みました。スキルの面での差は簡単に埋めることはできませんが、ウエイトトレーニングによって体を大きくすること、走り込みによるフィットネス強化は努力次第で大きな力になります。基礎的なことを徹底的に鍛えることでこそ野を広げ、しっかりとした土台を作り上げようと努力しました。

幸い私の代から、福岡県の公立高校強化指定チームに選ばれましたので、無償でプロのトレーナーの方にウエイトトレーニングやフィットネスのご指導を受けることができました。その結果、フイ

ジカル面で大きくレベルアップできたと思います。

精神面では特に、地獄の夏合宿を経て皆強くなりました。校内に1週間ほど泊り込んで、朝と昼の2部練習を行い、1年を通して一番厳しくハードな練習でした。夏の強い日さしの下行われる朝のランパスは、今でも思い出すと吐き気がするほどで、岡本先生がよく「倒れるまで走れ」と言われていた姿が印象的です。自分の限界に挑戦する厳しい練習を乗り越えることで、皆強い精神力を養うことができました。

夏合宿を経てしばらくすると、あつという間にシーズンに入りました。花園出場を目指し1年間練習してきたことの集大成である全国大会予選。1回戦で八幡高、準々決勝で福岡高を下し、準決勝で筑紫高と対戦しました。筑紫高とは、ひごろからよく練習試合をしていたので、相手の力量は把握していました。その年に行われた練習試合ではすべて大差で全勝していましたし、私を含めてだれ1人、その結果を予想できた者はいなかったでしょう。前半、後半とも自分たちの思うような試合運びができずに、気付いた時にはノーサイドの笛が鳴っていました。結果は29-30の1点差。私たちは皆グラウンドに倒れこみました。皆それぞれ思う気持ちは違ったのかもしれませんが、私は現実を受け止めることができずにいました。決勝で東福岡高を下し、花園に行くことしか頭にありませんでした。今思うと、そこにスキがあったのかもしれない。

私たちは最大の目標であった花園出場を果たすことはできませんでしたが、3年間皆と共に一つの目標を目指し走り続けることができ、幸せでした。

悔い残るワンプレー



平成13年度 主将

三角 公志

(早稲田大学)

自分は、幼稚園の時からラグビーを続けてきましたが、最も充実して、熱く過ごせたのが修猷でラグビーをやっていたころだと思います。あの3年間は毎日いろんなことがあって、楽しかった事ばかりが思い出されます。しかし、高校生活の中でたった一つだけ後悔していることがあります。それは、手の届くところで、届かなかった花園出場です。

2年の時は準決勝で筑紫高にまさかの敗北を喫し、3年では東福岡高に決勝で敗れました。その中でも筑紫高戦のことは今でも鮮明に覚えています。後半残り1、2分で、トライが決まれば逆転という場面でした。私は相手のラインを抜き去り、インゴール5メートル前まで迫ったところでのまさかのパスミス。そのままボールを奪われてノーサイドという、私がラグビーをやってきた中で最も責任を感じたプレーでした。自分のそのワンプレーのせいですべて失ってしまい、先輩方に本当に申し訳ないと、悔やんでも悔やみきれませんでした。

しかし、その苦い経験が、3年で主将を務めることになった自分を変えました。今までやっていた練習をもう1度見つめ直しながら、より実戦に近い練習を増やして、基盤と呼ばれる部分を強化しまし

た。練習メニューはFW、BKリーダー、先生方と共に考え実践し、チームの方向性を話し合いながら練習に反映していました。勝つためにはどうしたらいいのか、なにをすべきなのかを常に考えながら取り組んでいたと思います。

そして、ラグビーをしていく上で何より苦労したものは、勉強との両立でした。入学する以前からレベルの高さにはある程度は覚悟していたものの、いざすべてをやってみて、学校を間違えたとも感じました。あんな難問の数々、これから先の人生で出会うことはまずないでしょう。

しかし、そういった中でも勉強をおろそかにせず、ちゃんとやっていくのが修猷のラグビー部でした。岡本先生、瀬尾先生、清水先生、よく言われてましたね。ラグビーだけができて、勉強だけができてもつまらんと。僕も含め、みんな本当に頑張ったと思います。きついけど充実した生活でした。そして先生方には、ラグビーの事だけでなく日々の生活、自分たちを支えてくださる、たくさんの人々への感謝の気持ちを大切にしろ、と何度も言われたのが今でも強く印象に残っています。

今こうして大学に通っていますが、どの教授の、どの講義をとっても、今のような言葉を口にする教授は1人もおらず、修猷にいたころに体験した中身のある、心に響くものを得ることは難しくなっていました。おそらく、高校時代にして最高の教育環境にあったのではないかと思います。

これから社会に出て行く上で、修猷館で学び得た多くのものはきっと役に立つと思います。それらを自信に変えてこれからも頑張っていきたいと思えます。

負けるたびに強くなった



平成14年度 主将

伊藤輝之

(米国留学)

僕たちの代のラグビー部は博多の森で前年流した涙で生まれた。先輩たちの前で誓った来年のリベンジ。それが僕らの原点だった。とはいえ2年生で踏んだ晴れ舞台の芝にすこし舞い上がっていたかも知れない。

本当の意味で僕たちが自分たち自身を足下から見直すきっかけになったのは新人戦県大会1回戦の小倉高戦だった。屈辱的な大敗。本当に打ちひしがれた試合後、部員一人ひとりとリーダー4人が個人面談して課題を出し合い、先生たちに強制されることなく自分たちでメニューを作り昼の自主トレーニングを始めた。先輩からただ受け継いだチームから自分たちから育てていくチームへと徐々に自分たちの意識を変えていった。しかし相次ぐけが人のためにチーム作りに時間がかかり、新人戦でも九州大会でもワールドユースでも思うような結果を出すことはできなかった。

ただ、僕らが少し変わっていたとか前向きだったのは、そういういくつかもの敗戦の度にチームが一つにまとまっていたことだった。小倉高戦の後はもちろん5月のワールドユースでも1度は破れた韓国に最後の最後に逆転の勝利を飾り、喜びをチーム全員で分かち合った。負けるたびに強くなっていった。

運動会では大幹をせずに、ラグビーに打ち込むと誓った僕らの夏は本当に熱かった。夏休みの練習スケジュールを受け取ったとき目標としてただ一言「走れ、走れ、走れ」と書いてあるのを見た時は部員の誰もが覚悟を決めた。そして、ただひたすら走った。先生たちの言葉とただ一つの合い言葉である「東」へのリベンジを胸に、ひたすら走った。走っただけでなく、部員の絆(きずな)も深めあい、合宿最後のタックル練習では感極まって泣きじゃくりながらタックルバックに飛び込んでいくシーンも見られた。みんな胸が熱くなった。先輩との約束以上に、純粹に「東」を超えたいと思った。そしていよいよよ秋の大会。

1回戦から「東」と当たるといふ周りから見れば不幸な組み合わせだったが、なぜか僕らはある程度それを予想していた。どのみち戦わなければならない相手だし、先輩に必ずリベンジすると誓った相手だけに、いつ当たっても構わないという気持ちでいた。組み合わせが決まってから部員を集めて先生が「今日からお前らを洗脳する」と宣言し、それからは本当に「東」と戦うこと、「東」に勝つことしか考えていなかった。けが人も次々に復帰し、一日一日自分たちの集中力を東戦に向けていった。そして、その日が来た。

本当に僕らの代は、「東」戦が始まり、「東」戦で終わった代だった。「東」の背中と先輩との約束を追いかけて追いかけて、ついに届きはしなかったが、一つだけ僕らの自慢がある。この年の「東」を相手に20点以上とったのは、県大会から花園の決勝まで全部含めて僕らと、優勝校である啓光だけだった。小さな記録だが、僕らを象徴する大事な記録だ。しかしそういう数字や実績以上に、僕らが3年間かけて培った結束とラグビーを愛する気持ちは、何にも代え難い財産であり、僕らの3年間そのものだ。そのことを今、誇りに思う。

やれば何かが見えてくる



平成15年度 主将

川 寄 耕 大

(同志社大学)

私たちの代は新人戦、九州大会と満足のいかない結果に終わりました。私たちは、夏の練習にすべてをかけました。合宿までの期間、チームの方向性を決めるのにかなりの時間を費やしたため、夏合宿に入る時はこれで間に合うのかと正直不安でした。しかしそんな迷いも、合宿名物のアレをやってからは吹っ切れました。

「とにかくやろう、精一杯ラグビーのことを考えよう、走ろう、やれば何かが見えてくる」。

非常に原始的な考えではありますが、合宿も中盤に差しかかるころには、チーム全体にその雰囲気広がっていました。そして最終日の部内試合、荒削りではありましたが、自分たちが求めていた形になりつつありました。

それから、予選までの1ヶ月間の練習中は3年生の個性が光りました。

二ノ坂が勝利への執念を、池島が爆発力を、山口はBKの柱としてまとめあげ、藤島がセットプレイを支え、西方がチームの底上げを、高橋がひたむきなプレイを、比屋根が気迫と根性を、宮地が体を張ったプレイを、尾花が縦に走り、緒方が急成長を見せる。それに下級生がついてくる。練習が終われば、原口がアフターケアをし、

松木、諸隈マネジャーがチームを支えてくれました。

そして、チームがまとまり、仕上がりかけたころ、予選が始まりました。初戦、香椎高。まだ自分たちに甘さはありませんでしたが、手ごたえを感じることができました。次の九国大附高戦ではチームに磨きがかかると同時に自分たちの可能性に気づき、次の東福岡高戦までの1週間という短期間に成長することができました。

最後の練習で、全員が泣きながらタックルダミーに思いをぶつけ、ジャージーをもらい、岡本先生、瀬尾先生、御領園先生、清水先生の言葉をもらったことは今でも鮮明によみがえります。

秋の花園予選準々決勝、対東福岡高0対40

冬から春までひたすら基礎を反復し、積極的にウエイトトレーニングに取り組んだ成果が出て当たり負けはしませんでした。夏の合宿の中で鍛えられた精神と体力で最後まで攻めの姿勢で戦い抜くことができました。ただ、甘さが出ました。いや、自分では気付くことはできませんでしたが、きつと甘さが出たのだらうと思います。

この試合を思い出す度に後悔の念は募ります。確かに完全燃焼でした、ただ、どうしてもあきらめをつけることが今もできません。これは78期生全員の思いであると思います。この思いはこれからの長い人生、大切にしていこうと思います。

最後になりましたが、修猷館ラグビー部80周年おめでとうございませう。私たちがこの長い歴史の中の、78期生という形で恵まれた環境の中ラグビーができた事に一同感謝をしております。

ありがとうございました。

ディフェンスに活路あり



平成16年度 主将

時 枝 将

ディフェンス——今年のチームはそれが全てだった。相手にトライを取らせなければたとえ自分達に攻撃力がなくても勝てる。だからディフェンスにたくさん時間を費やした。今考えると、1日の練習が全てディフェンスだったこともあった。その中で、ウェイトトレーニングやランメニューも例年より力を入れて、相手に負けることのない体力、また、どんなに大きな相手でも当たり負けない体を作ることを目指した。ディフェンスの練習をすることにより、体をたくさんぶつけ、それがチームの自信、また一人ひとりの自信となった。

しかし、その時自分はタックルができず、スランプに陥っていた。今までは、他の面でカバーしていたが、ディフェンスを柱とする今年のプレースタイルでは、それが最大の欠点となり、チームを引っ張ることはおろか、周りに目を向けることさえできなくなってしまうていた。

それから自分は、何でもできる選手ではなく、タックルだけは絶対に誰にも負けない選手になろうと思った。そして挑戦を重ね、少しずつタックルができない自分を克服していったことで初めて、タックルの重要性和楽しさを知り、自信と信頼を取り戻すことがで

きた。

チームの話に戻ると、今年は3度にわたる佐賀工業遠征など、例年はないほど遠征に行った。その数多くの遠征の中で、他のチームでは決して味わうことができない素晴らしい経験をすることができた。また、正直な話、そのような経験をすることで、皆今年は期待されているということが分かっていた。でもそのような待遇を、ただ調子に乗るのではなく、集団単位のプライドや自信につなげられたこと、それに感謝できたことが今年のチームの良かったところだと思うし、それが自分の誇りだ。だから、先生を始め、このような素晴らしい体験を支えてくれた人たちに、本当に感謝している。そしてそれらは決して無駄になることなくチームの向上の大きな糧となったはずだ。

ディフェンスを信じ、それに全てをかけた今年のチームに間違いはなかったと思う。決勝まで確実に勝ち進み、東福岡と試合をしたということがそれを証明している。「泥臭くても本当の意味でかっこいいラグビー」。それができたと思う。

最後に先輩に伝えたいこと。上にはあのようにいったが、勝てなかったことは事実。まだごまかしていたことがあったのだろうし、足さないといけないことがあったのかもしれない。今年はそんなに妥協したとは思えない。皆必死で練習した。それでも駄目だった。

花園は甘くない。これぐらいでいいんじゃないかくらいの気持ちで試合に臨んだところで、絶対に勝てないだろう。まずは、自分の信じるものを何でもいっから見つけて、それに全力をかけてほしい。そうすることで他の誰にも真似できない強い自分を見つけることができるはずだ。

タックルと組織プレーで

17年度ラグビー部リーダー

山口 和也 山本 宗弘

吉松 拓郎 石橋 勇次郎

80周年を迎えて僕たちは、1、2年とマネージャーを含めて50人という、今までのラグビー部には大所帯で練習しています。練習の時間が他校に比べて短いので、1回の練習をより密度の濃いものにしなければなりません。さらに僕たちは文武両道を目指し日々の学校生活にも各々が真剣に取り組んでいます。

このような環境で全国でも有数の激戦区である福岡で勝ち抜くためには、チーム全員がどの学校にも負けない力強いプレーと低く激しいタックルが必要になります。修猷は個々の能力では、練習に時間を長く費やす強豪校には及ばないかもしれませんが、しかし組織プレーではどこにも負けない自信があります。

そして、その組織プレーを強化しているものは、部活のときだけではなく普段の学校生活でのまつまりやリーダーシップにあると思います。これらのおかげだけではなく、文章では語りつくせない多くのことをラグビーを通して得ています。

今年の目標は東福岡を倒して花園に出場することです。昨年の決勝で敗れたときの悔しさを晴らすために昨年11月にスタートした新チームは過去最大の部員数となっています。一人ひとりが高い志を持ち、互いに修練しています。そうしていくことでチームの器が大



平成17年度 新人戦・準決勝から。(上、下とも)
撮影・吉村公介氏(昭和32年卒)

きくなり、タレントぞろいのチームにも組織プレーで勝負し勝利することができません。今年は体格では恵まれていない分、僕達の最大の武器はアタックではなくディフェンスだと考えています。ディフェンスといっても単に止めるだけではなく相手を破壊するタックルをすることです。ディフェンスからターンオーバーしてトライを奪うという戦い方を目指しています。相手に点を与えないで勝つことを1年間追求していきます。

いつも素晴らしい環境でラグビーができることに感謝し、今年こそ花園出場という自分達の夢を実現させたいと強く思います。

そして最後には、3年間のラグビー部での経験を糧にして本当の意味での『カッコいい男』になります。

3

カラー特集 I
卒業生紹介



平成8年卒業生



平成9年卒業生



平成10年卒業生



平成11年卒業生



平成12年卒業生



平成13年卒業生



平成14年卒業生



平成15年卒業生



平成16年卒業生



平成17年卒業生

4

活躍するOBから
現役へひとこと

家内円満、ラグビー万歳!!

東大で唯一のU23代表候補



平成6年卒業

片桐 巖

(三菱商事)

僕の人生において絶対に欠かせないものがいくつかありますが、ラグビーもそのひとつです。修猷でラグビーを始めてから15年になります。自分にとってその魅力は色あせることはありません。

ひと口に15年といっても、高校、大学、社会人の3つのステージで、それぞれ違った目的意識を持ってラグビーに取り組んだし、そこから得たもの、感じたことも様々でした。

高校時代、修猷でのラグビー生活は、ラグビーの楽しさがわからないまま、練習のための練習をこなす毎日でした。がむしやりに打ち込める対象があることを誇りに感じる一方、午後の授業はその日の練習メニューを想像して胃が痛くなるのを耐え、最初のメニュー「ランパス」を残り本数を数えながら計算どおり走り切れば、その日の練習も半分は終わりという無意識に気が緩む。そんなことの繰り返でした。強豪チームに復活した今の修猷と比べれば、当時は練習内容も選手の意識も劣っていたかもしれません。それでも、仲間と一緒に何かに熱中する「部活」という意味で、非常に充実した3年間でした。

修猷館卒業後、1年間の浪人を経て東京大学に進学することができました。浪人中に湧き上がってきた、体を動かしたいという欲求

と、合格発表の時から新人勧誘に走る先輩の熱さに何かを感じて、入学後1ヶ月ほどでラグビー部に入部していました。

正直言うと、東大までラグビーをするとは思っていませんでした。大学生は、社会人になる前の4年間を自分の意思で自由に設計することが出来、それが許される地位と特権を与えられています。

初めて大学のキャンパスに立った新入生は、まるで無限の可能性を与えられたかのように錯覚します。しかし、「大学に入ったからやりたいことリスト」の中から、「大学ではこれをやりました。今の自分があるのは大学でこれに打ち込んだからです。」と死ぬ際まで言えるようなものを選ぶとしたら、せいぜい一つか二つしか選べません。

もちろん、僕も、ラグビー部に入ることを決めたときにそこまで考えていたわけではなく、3、4年生になったころ、「やりたいことリスト」を毎日いじりながら、結局何もやっていない同級生たちを見たときに、気付いたわけです。「ああ、自分にはラグビーがある」と。

東大のラグビー部は、半数は大学からラグビーを始めた選手という素人集団でありながら、特待枠を持たない国公立大学の中では全国最強、そして早稲田、明治、慶応等と同じ関東大学対抗戦Aに所属する、「意外と頑張っている」チームでした。

チーム運営は学生首脳陣中心で行い、練習も、4年生の主将・副将・パトリック・ガーが、ガチンコ系のきついメニューを中心に組み立てていました。強豪校に対しては、早い出足のディフェンスと足首へのタックルでぶつかっていききましたが、結局僕がいた4年間に対抗戦上位校に勝利することはできませんでした。

なぜ、勝てないか？この問いに対して僕は、個々の選手の運動能力の差だと答えてきました。それが違うということに気付いたのは、

4年生で主将を務めてからでした。みんな自分のことで精一杯の東大に絶対に欠けていたもの、それは「責任と信頼の伝染」。味方のいいプレーを受けて、さらに体を張ったいいプレーをする。自分が手にしたボールは、最低でもマイボールになるように処理する。そんな気持ちだが、他チームに比べて足りませんでした。それがあつたら勝てたとは言いませんが、足りなかったから負けたんだ、と思うことが重要です。

「運動能力に劣る」「半数の選手がラグビー未経験者」「スクラムが押されたらBKがブレッシャーを受けた」「BKがいつも後ろで捕まるからFWはマイボールをキープできない」等の言い訳は、言っても何も生み出さないから言わない。周りがどうであろうと、常に自分が最大限の貢献をすればいい。言い訳が言えるなら、努力の余地がある。

この2つ、「責任と信頼の伝染」と「言い訳の数だけ可能性がある」という真理は、僕が大学で学んだことの中で一番大切な宝物です。思わず熱くなってしまいました。ラグビーについて書き始めるといつもこうなってしまうので、お許し下さい。

さて、社会人になってからもラグビーを続けていると、2つの新たな楽しみを発見します。1つは、ラグビー・プレーヤーとして、もうひとつは、ラグビー・マンとして。

ラグビー・プレーヤーとしては、まず、会社のラグビー部にしてもクラブチームにしても、今までの所属チームと異なるラグビー・スタイルを知っている選手が集まるので、プレーの幅が広がったり、ラグビーの奥深さや楽しさを再発見したりすることです。もうひとつは、(一流選手を除いて)皆体力が落ちて走れなくなってくるので、しっかりと走りこんで試合に臨めば学生時代の実力差を軽く跳ね返す

パフォーマンスが出せることです。

ラグビー・マンとしての楽しみとは、所属チーム、世代、時には国境を越えたラグビー人脈の恩恵にあずかることができることです。ラグビーをやっているというだけで、初対面でも打ち解けて盛り上がることもあれば、(何故か?)信頼してもらえぬこともあります。

修猷ラグビー部も創部80周年を迎え、現役、OB、先生方、御父兄ほか関係者の方々の支えによる益々盛況ぶり、心から嬉しく思います。将来、現役の皆さんと何かの機会でお出合った時、「お、君ラグビーか?僕もだ」と言える様、OBの一員として、これからもラグビーを続けていきたいと思えます。

☆

最後に、我が家のある日の会話から。

妻「ラグビー好きでしょう。アイロン掛けてラグビーと似てるって知ってた?」

私「形がボールに似てるってこと?」

妻「それもそうだし、ここのボタンとボタンの間なんか、内から外に一人ずつ、タックル、タックル、タックル。ほらね。やってみる?」

私「何じゃそれ。でも、確かに。タックル、タックル、タックル……」

妻「いい感じだねえ。じゃあ最後にここ、襟のところパシッとやってみて。そうそう、いいねえ!ナイス・トライ!!」

それからです。家事をしない私が、ラグビーなら家でもするようになったのは、ラグビー万歳!!

信じ合える関係を

公式戦未勝利校の指導者



平成8年卒業

真鍋 健治

(福岡県立香椎工業高教諭)

修猷館高校を卒業して10年がたとうとしています。「教員」という高校時代からの夢を実現して、現在は福岡県の高校で保健体育を教えています。また、幸いなことに、ラグビー部の監督をさせていただき、まだ2年目ではありますが、指導者としてラグビーに携わることができ喜びも感じています。

チームは公式戦未勝利で、まだまだこれからのチームですが、監督となって今一番感じていることは「信頼する」ということの重要性です。自分を信じ、仲間を信じることで、そしてお互いが信じ合える関係であることにより、個々が自分自身の力を試合で出すことができ勝利へと近づくのだと感じています。

最初は「自分が自分が……」だった私のチームも今少しずつ変わってきていると感じています。試合でも個々の力を出し合い、勝利まであと1歩のところまできました。しかし、そのような気持ちは試合で初めて生まれたものではなく日々の練習の成果が自分を信じ、チームを信じる「信頼」へとつなげていったものだと思います。卒業生として花園で修猷館の応援ができる日を待っています。ぜひ、強い信頼関係をもったチームをつくり、チームが一つになり「花園」という目標を達成できるように頑張ってください。

勝ちへのこだわりこそ

現九電主将・日本代表



平成8年卒業

川崎 拓生

(九州電力)

修猷館ラグビー部創部80周年おめでとうございます。私は、高校卒業後、同志社大学へ進学し、5年間の学生生活を経て、九州電力に入社。現在も九電ラグビー部の一員としてラグビーを続けています。

大学時代は3年の選手権からレギュラーとなり、4、5年時に選手権ベスト4まで進み、その間に、日本学生代表、日本A代表、日本代表に選出され、同級生だった阿久根潤や後輩の山本英児らと学生ワールドカップ、NZ遠征、パシフィックリム選手権など国際試合も数多く経験しました。社会人になってからは、日本ラグビーが、世界にならないプロ化への道を進む中で、九電ラグビー部として、あくまでアマチュアにこだわりトップリーグへの昇格を目指し日々練習に励んでいます。

今回は、私のラグビーを通じた体験をもとに、大切だと感じたことのひとつを記し、現役選手へのメッセージにしたいと思います。それは「勝つこと」へのこだわりです。このような書き方をすると悪い意味で勝利至上主義と誤解されがちですが、そうではありません。勝つためにはなんでもしていいのではなく、勝つためにはすべてをしなければならぬという意味です。実際に私が接したトップ

の選手は必ずと言っていいほど、事の大小にかかわらず勝負に強くこだわります。

負けることに全く意味がないとは言いませんが、勝つことで得る可能性は無限です。私が日本代表として世界と戦ったことや、現在九電ラグビー部としてトップリーグを目指していることは、すべて勝つことの産物だといえます。

現役選手にとつての勝つことといえば、やはり花園に出ることだと思いますが、本当に勝ちにこだわられたなら、練習試合や部内マッチにもそのこだわりは出てくるはず。そしてその小さなこだわりの産物が積み重なれば、それは必ず花園につながります。

最後は「OBとしての願望になってしまいました。ぜひ「勝つこと」にこだわり、花園を目指してください。その先には必ず大きな可能性と貴重な経験があるはず。」

敵を分析、己に生かす



プロ第1号・日本代表

平成8年卒業

阿久根

潤

(東京ガス)

慶応大学での4年間は自分の人生にとって非常に大きな経験の場であったと思う。普通の学生では得られない経験を山ほど積むことができた。大学1、2年次の低迷から3年で大学選手権ベスト4。

そして4年で大学選手権優勝。低迷からのV字回復は高校のときも経験したが、高校の時とは一味違った感動があり、格別だった。

では、なぜ慶応は長期低迷から2年という短期間で大学選手権優勝にたどり着いたのであろうか。100周年に向けての選手の補強が成功したから。それも大きな要因かもしれない。しかし、私が現場において一番感じたことは、選手同士が目的を持って練習に取り組んでいるということだった。公式戦に突入すると、試合後皆でその試合を分析し、個人のタックルの回数、タックル成功率、ボールタッチの数、ハンドリングミスの数を数え上げ、ミスを反省し次の試合までの練習に生かしていった。

また、対戦相手の分析も徹底して行い、敵チームのゲームプランの傾向と対策を練り、これも練習に生かした。最初は分析作業を面倒だと感じていたが、分析どおりに試合が運ぶと、必然的に分析作業に熱が入った。相手を知り、自分を知ることがチーム力、個人力を飛躍的に伸ばしていったのだと思う。個人は自己分析の結果を踏まえ、弱点を克服すべく目的をもって練習に取り組んだ。チームは対抗戦優勝、大学選手権優勝という大目標のもと、目標達成に向けて日々努力した。

今まで書いたことを簡単に書くと、

大きな目標設定↓小さな目標設定↓自己分析↓課題設定↓練習
↓課題の克服(小目標達成)↓新たな課題設定↓練習↓課題の克服(小目標達成)———↓大きな目標達成

ということだ。

目標をもつことは夢を実現するためのスタート地点だと思う。目

標を持つことが大きな推進力を生む。

修猷ラグビー部のみなさんは日々の生活から学び、感じ、自分達の立てた目標に向かって邁進（まいしん）してほしい。目標を立てたら、その目標に向けて強い信念で行動してほしい。

修猷ラグビー部が2005年のシーズンに大活躍できることを期待しています。

勇気、そして行動力

創部100年・大学日本一

平成9年卒業

川尻圭介

（東京電力）



私は現在、東京電力株式会社で人材ビジネスに関する社内ベンチャー企業の拡大に携わっています。慶応大学時代は創部100周年、つまり日本ラグビー発祥から100年という記念すべき年に大学選手権優勝を果たし、そのメンバーとして国立競技場でプレーしました。

現役の皆さんはまだ人生十数年という若さであり、いろんな意味で未知数の可能性を秘めているわけですが、将来自分の人生を自分にとって満足のいくものにする事ができる人間力というのは、実は皆さんくらいの若い時期に培われるものであると思います。

その人間力はどうやったら培われるのかというと、何かに対して

全身全霊を注ぐ経験によって培われるのだと思います。ラグビーに限らず、学問でも芸術でも、仕事でも同じです。何かに全身全霊を注いでいる人には、あらゆる情報を敏感に察知し、凄まじい思考力と行動に移せる力がおのずと備わるものです。

自分が全身全霊を注いでいるかどうか、自ら全身全霊を注いでいると思っている人は傍らからみると大体注いでいないというのが私の経験則です。

本当に全身全霊を注いでいる人は、傷つきやすく、常に自分の未熟さを感じる事ができ、その克服に努力を怠ることはありません。あるのは向上心と苦難に真っ向から立ち向かう勇気、そして行動力です。

一人の修猷館OBとして、現役の皆さんが将来の人生を素敵なものにすることが出来る人間力を獲得できるよう、心より祈念しています！

赤白ジャージーと国歌

現ジャパンセブン代表

平成10年卒業

山本英児

（九州電力）



80周年おめでとうございます。私が在学中にちょうど70周年を迎える年にあたったので、高校時代から約10年間の中で、ラグビーを

通じて経験した2つのことを紹介したいと思います。

・慶応大学2年時、大学日本一になったこと。

これは、前の年度に14年ぶり日本一になって大学選手権出場するも、準決勝でロスタイム逆転負け。しかし、この悔しさを、翌シーズン中に何度もビデオで逆転トライシーンを繰り返し見て、悔しさを思い出し、厳しい練習に取り組み、優勝を勝ち取ったという経験。また、ほぼ満員の国立競技場のスタンドをチームメイトとウイニングランしたことは一生忘れられません。

・日本代表に選ばれたこと。

これは、憧れとしか思っていなかったことであり、実際にあの赤白のジャージを着て国歌を聞いたときは、感慨深かった。そして、今は代表から少し離れて、7人制代表、日本選抜等に選ばれている。これから、また日本代表としてグランドに立てるように、まだまだ努力をしていきたい。

最後に、ラグビーを通じて一生の仲間と言える友を得たこと、いろいろな国で試合を経験し、いろいろな国の選手と出会い、プレーをしてきたことは、私の一生の財産です。

役目をまず自問自答

九大1部復帰の立役者



平成12年卒業

荒神 佳人

(九州大学院)

九大ラグビー部に入学した年、よく監督がおっしゃっていたのは「新しい歴史をつくる。」という言葉だった。

入学した当時九大は福岡県3部リーグの最下位をさまよっており、部員数は少なく、歯学部ラグビー部と合同チームを作らないと試合もできない惨状であった。そのラグビー部になぜ入学したのか。それはそのような最悪な状況においても、1部復帰を目指し、熱くラグビーをやっている先輩がいたからである。落ちるとこまで落ちてしまったラグビー部が、経験したことのない1部復帰への階段をかけるのぼること、これこそが新しい歴史のはじまりであり、部員の熱い気持ち無しでは成し得ないものである。

弱いチームには、トライに対する執念の欠落と自分達への甘さというものが必ず存在する。それらを粉砕するには、まず自分がチームの勝利のために何をすべきか、という問いを自問することから始める必要があると思う。修練で培ったがむしやらかなプレースタイルでチームを引っ張ることが当時の私の役目だと思っていた。

自ら変わろうとすることが部員全員の共通の思いとなった九大は私が最終学年のときに1部復帰を果たした。1部復帰が決まった試合後、自然に流れ出た皆の涙には3部をはいずり回っていたころか

らの思いが込められていたと思う。
はい上がろうとする気持ちを忘れなければ、最悪な状況になろうとも、それを乗り越えることは可能だろう。何ごとともこの思いだけは忘れたくないものである。

勝つための評価方法

大学日本一チームの主務



平成12年卒業

田原 伸洋

(東京海上)

「相手より強い部分で勝負する」
戦いにおける常套（じょうとう）手段である。私がよく岡本先生から言われた言葉だ。

私は昔からの強いあこがれと納得できない高校ラグビーの敗戦から早稲田大学でラグビーを続けた。4年生時には選手をしながら、主務という部のマネジメントを行う役職に就いた。そこでは、監督、コーチ、スタッフと共にチームの強化などにもかかわった。勝てない早稲田に、ある監督がやって来た。

監督が就任時、初めに行ったのは、選手に強みと弱みを認識させることであった。全部員に対してチームの強みと弱みに関して、アンケートを行った。

強みには、「素晴らしい伝統と環境」、「どこよりも多い練習量」、

「伝統のBK」など。弱みには、「トライまでの確立した戦術がない」、「ボールをターンオーバーできない」、「連続攻撃ができない」などがあった。

これを見て、あなたはどのようなチームだと思うだろうか？

「強みが全く具体的ではない。良き伝統を否定はしないが、伝統がラグビーのプレーそのものに関係することはない。」と監督は言った。対抗戦終盤を迎えた時期に同じアンケートを行った。弱みは強みに変わっていた。

チームと自分の強みと弱みを認識し、目標に対しすべきこと、練習の意図を具体的に示す。客観的に具体的に評価できれば、勝利に近付くだろう。イメージを具体的に。数カ月後、1年後の自分をチームを。

しかしながら、最後に勝負を分けるのは「情熱」だということをお忘れしないで欲しい。

泳ぎ、踏み、走る

アイアンマンレースの
日本トップ級選手



平成12年卒業

佐藤 忠相

(テレビ西日本)

アイアンマンレース（鉄人競技）。それは水泳3・8キロ、バイク180・2キロ、ラン42・195キロを続けて行う苛酷なレース

です。私は現在、アイアンマンに全力で取り組んでいます。幼いころからラグビーをしていた私は、別の世界も知りたいと思いトライアスロン界に飛び込みました。部やサークルがなく、何から始めていいのか分からない状態でしたが、今では24歳以下というカテゴリーで、アジアの大会では上位に食い込めるようになってきました。個人スポーツを始めて、気付いた事は、私は多くの人に支えられているということです。団体競技をしている時は、チームの仲間や身近な人しか見えなかったのですが、実際は数多くの人たちのおかげで自分が競技できていくわけです。また、「結果」という概念についても考え方が変わりました。

アイアンマンレースはとてつもなく長いので、試合だけ頑張ればいいというのは通用しません。「結果」というものには内向的結果と外向的結果の二つがあります。前者は、目標とする大会までにどれだけの取り組みができたか、またその大会で自分の納得できるパフォーマンスができたかということ、後者は順位です。私は前者のほうがとても大事なことだと思います。

現役の皆さん、ラグビーを心から楽しんで下さい。そうすればおのずと良い方向に向かうはずですよ。お互い人生を楽しみましょう。

高い目標あきらめず



フロップで3年目にレギュラー

平成13年卒業

児島 真吾

(同志社大学)

私は本校を卒業し、関西の同志社大学に進学しました。高校での部活動引退後、大学でラグビーを続けるべきかどうか悩みましたが、高校時代にならざるを得なかった日本一になる夢をかなえたかったし、自分の力がどこまで通用するのか試してみたかったので挑戦することにしました。

実際に大学に入って、大学ラグビーを肌で感じた時に、想像以上にレベルが高く、上級生の背中がとて大きく見えたことを覚えています。ワンプレーワンプレーのヒットの強さやスピードの違いはもちろん、特にフロントローの私を感じた「スクラム」に関して言えば、高校時代のものとは比べ物にならないくらいの迫力でした。しかし、修験館で培った体力や精神力は大学でも十分通用するという確信が持てたのも事実です。

大けがをしたり、壁にぶつかって自分を見失いそうになったりした時期もありましたが、その後の努力の甲斐あってか3年目でようやくレギュラーに定着しました。今になって考えると、けがや自身自身に負けず必死に努力し続けた自分からこそ、今の私がいえると思います。

現役の皆さんもこれから先、私のように何かの壁にぶつかったり、

けがで挫折を味わったりすることがあるかもしれません。そんな時、弱気になるのではなく高い目標を掲げて突き進んでください。あきらめずに努力した人には必ず自分にとってプラスになることが返ってきます。これは私が今まで生きてきた中で身をもって経験した教訓です。それはラグビーに対してだけではなく、今後の人生においても同じ事が言えると思います。

最後に、現役の皆さん、悲願の花園出場目指して頑張ってください。

築けラグビー関係

大学日本一のセンター



平成14年卒業

三角 公志

(早稲田大学)

早稲田に入って3年目になり、ようやく自分本来の動きを取り戻しつつあり、今年こそはテレビの前で会えるはず。現役のみならず、大学に入ってから何度も一緒に練習をして、多くの事を教えてきたので、これから始まる大会にとっても期待しています。必ず東福岡に勝って花園に行ってください。そのためには何よりも自分たちが行くんだという気持ちを強く持てばやれるはず。今までやってきた練習や仲間を信じて、目の前の目標を一つずつ突破して行って下さい。強い時期だからこそ、足元をすくわれぬよう、しつ

かりと見据えていて下さい。必ず結果はついてくるはず。

これから現役のみんなは、進路について色々悩むと思います。ラグビーを続けるか、普通に学生するか。自分が思うのは、絶対にラグビーそのものからは離れてほしくないという事です。どんな形でもどんな場所でもいいから、常にラグビーにかかわれる環境にいてください。3年かけて培ったものを、ここで終わらせるにはもったいない気がします。

上を目指して大学でも続ける人はさらに努力をして頑張ってください。部活ではする気はない人は、サークルでもクラブチームでもどんな場所でもいいから自分が打ち込める場所を持ってください。ラグビーがもたらす人間関係は普通に生活していても得られるものではないのです。自分が改めて気づくのは、ラグビーによって築かれた人間関係は本当に大きなものだということでした。

5

カラー特集Ⅱ

百道原頭修猷の庭に……… (平成16年秋)



背後にマンション群 (上)



岡本監督の指示を聞く (上、下)



新校舎をのぞむ (上)



闘魂碑 (左) と銘板 (下)



強かった東福岡・全国大会福岡県決勝

(平成16年11月13日・博多の森)



執念のモール

修猷館高 12

7	—	24
5	—	20

 44 東福岡高



「修猷最強のFW」と岡本監督



あっぱれFW、「東」を押し切る



後半にも一矢報いる



提供・毎日新聞社

6

指導の現場から
監督・顧問・コーチ

『闘魂』から得たもの



本物の男133人
すばらしき女性14人

福岡県立修猷館高教諭
ラグビー部監督

岡本圭吾

(昭和56年卒業)

花園を意識し続けた10年間

「修猷プライドと最高の悔しさ」。この10年間のラグビー部を振り返ると、この言葉に言い表せる気がします。

本当にやったからこそ自尊心があるからこそ……超くやしい！
激しく・熱く燃える戦士、またある時は頭をかき・眠たい目をこすりながら頑張る生徒。そんな彼らと共に目標に向かうことができた幸せを誰よりも感じた10年間でした。

彼らは、ラグビーで勝つという環境としては決して恵まれていない場で、絶えず本気で花園を意識し、できるだけのことを精一杯実践したすばらしき若者です。

本当に良くやったとほめてあげたい思いでいっぱいです。それと同時に、目標を達成させてあげられなかったことに最高の悔しさを感じています。今思えばあつという間に過ぎた10年でしたが、振り返るといろいろなことがあります。(特に苦しかったことは鮮明に思い出します、日本人ですね！)。

文武両立の難しさ

【10年間の歩み】(私的な回想)

過去数年間の先輩たちの努力が大きなた台となつてこの10年がある。「感謝」(ほとんど悔しさばかりの結果、今思えば一番苦しかったが懐かしい)。

〈平成7年〉川寄(拓)チーム「勝つて兜の緒を締めきれず」

(岡本、清水)

・新人戦優勝 無敵の東福岡高を破る(前年度ベスト4の勢いにのつて)。

・全国大会予選では決勝に進んだ筑紫丘高をノートライに抑えるが惨敗。

*絶えず勉強居残り(ラグビー部主催)・・・大変やつた！

〈平成8年〉川尻チーム「部員難・春以降の伸び悩み」

・新人戦九州大会出場(けが人が立っているだけでグラウンドに在る状況)。

*文武両立の難しさ。

〈平成9年〉南園チーム「最後の詰めのかさ」

・決勝に進出した筑紫丘高にまさかの逆転負け。

*強豪チームとしての成長段階(基盤から成長)。

〈平成10年〉北原チーム「目標と現実のギャップ」

・個々の能力的には苦しい状況プラス部員減であったが、最後の試合(対東福岡高)では魂のタックル(成長度はすばらしかった)。

*生徒(退部者多し)・学校の変化(女生徒急増)。

〈平成11年〉佐藤チーム「苦しみと最高の頑張り」

・3年生6名という状況で目標を維持できた頑張り。結果がでなかった分最高の悔しさ（今のチーム状況があるのは彼たちの力が大きい）。

〈平成12年〉児島チーム「最高にチャンスの年・厳しさ欠如」

・10年間で1番バランスがとれたチーム

・九州大会Bリーグ優勝

・東福岡高との全試合において小差の敗退、全国大会予選では打倒「東」を意識しすぎて（戦術も）、準決勝で筑紫にまさかの1点差負け（決勝は筑紫が3点差負け）。

*福岡県のトレーニング強化プロジェクトに指定（3年間）

〈平成13年〉三角チーム「決勝の場で舞い上がる」

・ワールドユース大会で大活躍。

（盛岡工高、東農大二高、オーストラリアの高校に勝利。全国レベルの証明）

・全国大会予選決勝対東福岡高14対24（東は全国準優勝）。最強BKで挑むが前半の緊張が挽回できず。

〈平成14年〉伊藤チーム「試合内容は10年で最高」

・トレーニング強化プロジェクトの完成年度だからの基盤作りができた。

・全国大会予選では全国準優勝の東福岡高に21対36で惨敗（東福岡高グラウンド）

修猷館高グラウンドなら勝ってたかも？…（甘さ）

〈平成15年〉川寄（耕）チーム「個にあった戦術・トレーニングの継承」

（御領園）

・メンバー的には苦しいチームであったが攻めの組織DFで活路。

*ベスト電器から活動補助。

〈平成16年〉時枝チーム「修猷最強FW・強かった東福岡」（中富）

・選抜大会で優勝した天理高と交流戦 前半リードするも敗退。

・九州大会Bリーグ準優勝。

相撲を軸とした格闘で闘う基盤強化（徹底したコンタクト練習）

・全国大会予選決勝では持っている力は発揮したが本当に「東」は強かった。

☆

泣いたり・笑ったり、落ち込んだり・自信持ったり、たまにはぶつかつたりと数多くの思い出がこの10年間にはありました。最大の目標の一つである「たくましい人間力作り」という点では、彼らの学校での存在感、修猷館ラグビー部員としての誇りと感謝、すばらしい仲間の獲得という面をみても、いい男・すばらしい女性になったと確信しています。修猷館ラグビー部の伝統継承と新たな躍進は、部員の成長である程度達成できたと考えられますが、もう一つの大きな目標の達成がまだできていません。

花園出場です！このことは簡単な事と思いません。しかし、夢で終わらせてしまうものでもありません。彼らはどの年のチームであっても修猷プライドで本気でチャレンジしました。結果の多少の違いはあっても目標の未達成という点では皆悔しい思いをしています。では、花園を具現化するために今後どうすべきかをあげてみたいと思います。

人工芝のグラウンドを

【わがままな私論】

(1) 有能な人材の獲得と部員の確保。

*魅力ある修猷ラグビー部

*中高一貫、全県1区制、推薦制度改正など

*留学制度の活用

*中学生時代の他競技からの勧誘

*修猷生としての充実と進路実績

現在、修猷館でラグビーをしたいと熱望している中学ラグーマン・一般中学生は多くいます。しかし、そう簡単に修猷館に入学できるものでもありません。

そこが、修猷館ラグビー部の弱点でもあり、良さでもあるので難しい問題だと思います。(無理をすると長期的には存続の危機へ)

(2) 練習環境の充実。

*練習時間の確保

*用具・遠征等の資金・グラウンドの整備(照明・人工芝等)

(3) 練習・コーチングの充実。

*生徒のモチベーションアップ

*コーチング組織の充実(外部専門コーチ・コーチング学習者・社会人選手等)

*OBの協力と活用

(4) 花園へ福岡県2校の実現。

*協会への具体的要請(福岡県の実際の予選参加チーム数・レ

ベルから)

東福岡の次のような現状を考えるとスタート時点で状況が違
いすぎる。

・毎年30人程度の有能な中学経験者が入学

・練習環境面(時間、施設、資金)での充実

・全国トップの人材とトップクラスの実力

☆

右の項目は一つひとつに多くの課題や壁があります。しかし、これらの問題を解決し、充実しなければ、なかなかそう簡単に花園が実現するものではありません。責任逃れにとられる内容かもしれませんが、現場だけの力では解決が難しいことが数多くあるためいろいろな方々の力が必要などころです。頑張っている生徒に目標達成をさせてあげたい思いでいっばいです。

「本気」が「本物」を生む

最後に、すばらしい環境がいくらか提供されたとしても、現役の「本気」がなければ何の役にも立ちません。修猷ラグーマンであるならば、まず個々が自信を持った戦士とされるよう自らが修行し、たくましく・個性豊かで負けず嫌いの「本物」となってほしい。敵を破壊するタックルができるぐらい!

意識の統一だけなされ、個が集団に隠れ、頼る小さなチームでは最後は勝てません。本物の戦士の集合が本当に強い集団となっていくと思えます。私たちはそんな場の雰囲気強化していきたいと思っています。

この10年間だけでも男女147人の顔・思い出がいっぱいあります。

それが修猷ラグビー部の力であり、私的には最高の宝物です。修猷ラグビー部に本当に感謝しています。

☆

今後10年間での更なる躍進を願っています。

・小・中学生には・・・憧れの修猷館ラグビー部

・修猷ラグーマンには・・・勇気・誇りそして花園

・大学、地域、社会には・・・伝統校として有能な人材を輩出した実績の認知

強化はディフェンスから



福岡県立修猷館高教諭
ラグビー部顧問

瀬尾 博栄

現在我々はチーム強化の柱をディフェンスに置いて指導している。点数を取らなければ勝てないラグビーの指導で、何故「攻撃ではなくディフェンス」なのか？多くの方が疑問に思われるであろう。それは何故か？

経験者わずか2割

まず1番目に、我々がゲームの際に個人の能力・判断力よりむしろ、

集団の能力・判断力を前面に出して闘いたいと考えているからである。今回の新人戦ベスト4に進出している4チームにおける高校以前のラグビー経験者の割合はH高校90%以上、FT高校80%以上、C高校70%以上・本校20%である。入学時点で部員の経験値にこれだけの歴然とした差が存在している。攻撃では当然ボールは一つであり、ボールを持つ選手はモール形成時以外は1人である。したがって攻撃はボールキャリアーの個人の能力・判断力に依る部分が多い。それに対してディフェンスは、システムの構築とその実践レベルの向上で、より多くの人材がボールに対して働きかけられる。つまりはシステムの実践次第で常に1対多の状況を作り出すことができる。

入学前の経験値にこれだけの差がある現状で、彼らに個人の能力・判断力の差が歴然とする攻撃力を3年間で他校並みに強化することより、むしろ、本校に入学して来る生徒の知的レベルの高さを有効に活用し、ディフェンスシステムの理解や実践レベルの向上を図り、ゲームの中でより有効な1対多を作り出し続けることが勝利への近道だと考えるからである。

知的判断と攻撃システム作り

2番目に攻撃権の奪取（ターンオーバー）時が一番相手チームの陣形が崩れており、その際に意思統一された素早い攻撃ができれば、その攻撃は非常に有効に機能する。なぜなら、ラグビーの性質上、常に攻撃側の選手はゲインラインより後方に位置している。したがって、ターンオーバー時の素早い攻撃は容易に、ゲインラインを超越することができるのである。

また、攻撃時にはポイント付近以外の選手は、フェーズの変化を想定して移動している。視点を変えて考えれば、次のフェーズを想定して移動しているが故に、選手の循環の逆側には必ず薄い部分が存在する。具体的に言えば、オーブン攻撃時に広く展開すれば、当然次のフェーズを想定して他の選手は逆目に待機しており、その際チャンネル3でターンオーバーが実現出来れば、順目のショートサイドは容易に攻略出来、大きくゲインすることができるのである。

確かにターンオーバー時の攻撃までのシステム作りは容易ではない。しかし、前述の本校生徒の知的レベルの高さを活用すれば、システムの構築とその実践レベルの向上は不可能ではない。また、ターンオーバーは相手チームが想定不可能な状況下であるが故に、セットからの攻撃よりもより有効な機会となり得る。したがって、本校ではターンオーバー時の攻撃までのシステム作りを、時間を割いて行っているのである。

一般的にはディフェンススピンチのような認識があり、消極的にとらえがちである。しかし、前述のように現在の修猷館ラグビー部にとってディフェンスは、勝つ上で最も重要な要素であり、最大の武器である。今後、この武器に更に磨きをかけ、今年こそ「花園」出場を実現したい。

ゲームの中で本校の生徒達が「アップ——ゴーゲット」とディフェンスのコールを発したら、それはチャンスの訪れであり攻撃の始まりだと思って頂きたい。そしてともに声を出して頂きたい

「アップ——ゴーゲット——トライ！」



平成12年（2000年）校舎全面改装竣工写真

若い時期に何を学ばせるか

福岡県立修猷館高教諭
ラグビー部副顧問

清水嘉隆

淵本先生、今村先生のあとを受け、OBの岡本先生と時を同じくして、修猷館高校ラグビー部の顧問となって14年が経ちます。戦績としては、中部支部予選敗退もあれば、新人戦で東福岡高校を破り県で優勝、九州大会で2位、あるいは花園を目指す県大会の決勝進出まで、さまざまなものがありました。

最初の4年間は、県大会までが遠い道のりでした。当時は現役プレーヤーとしても活躍していた岡本先生は若く、とても力強い存在だった。

その頃ほぼ毎日のようにグラウンドに足を運んだのは、ラグビーそのものの魅力、岡本先生の指導に対する興味、そして岡本先生の手足がまずいことをしてかさないように見守るためだったように思います。夏の強化練習中、部員を病院に運ぶために1日に2度、救急車に乗ったことが強く印象に残っています。

1度県大会へ出場してシード権を手にし、県大会の常連校となつてからは、戦果として花園に出場するという目標がぐっと身近なものになりました。部員が厳しい練習に耐えるのは当たり前前になりました。部員たちに「技術、戦術、精神を教えるのは岡本先生だが、その岡本先生を支えているのが私だ」と言っていたのはそ

の頃のことでした。

その後指導スタッフが充実し、OBコーチ陣、岡本先生の教え子たちに、瀬尾先生、御領園先生が加わって盤石の状態となりました。こうなるともうグラウンドにほとんど行かなくなり、部員には試合に引率してくれる先生、応援してくれる先生と思われるようになりました。が、今でも自称「名誉顧問」としてラグビー部と関わっています。こんな私にも「清水先生がグラウンドにいるときがもっと気合いが入る」といつてくれる部員もいたりするのは教師冥利に尽きます。

14年の間には、古川名誉会長、守田先生、柴田会長をはじめとする多くの魅力溢れる先輩方と出会うことができました。私は修猷の卒業ではありませんが、大先輩方のお話を聞き、お気持ちに触れると、修猷への愛情が増します。母校愛に近い感情を抱かせてもらえるのはラグビー部を通じてです。何十年後かにこのようなOBになるようにというのが私の修猷での教育の原点になっています。

数ある素晴らしい先輩方を世に送り出して80年。若き日のラグビーがその根幹にあるでしょう。

修猷ラグビー、イヤサカ！ イヤサカ！！ イヤサカ!!!

宿る「Lawの精神」



福岡県立修猷館高教諭
ラグビー部副顧問

御領園 昭彦

1級レフリーとして

ラグビーに接して30年以上がたちます。体育科の教員ではない私にとつては、たまたま巡り会ったラグビーではあるけれど、今はいつもキングオブスポーツだと思っています。教員として生徒を指導しながら、30歳を過ぎてからレフリーの世界にも首を突っ込んできました。イギリス生まれのラグビーは、基本的にはドウ(Do)スポーツであり、プレーすることで楽しさを味わう競技です。だからラグビーにおいては、最初はレフリーなどというものは存在せず、毎試合互いのキャプテンがその試合のルールを決めていました。

しかし、歴史の中で、「競技」としてのラグビーが求められるようになり、勝負を競うということになると、どうしても審判が必要になってきました。そして時間の経過と共に現在のような形態が整えられたのです。

ラグビー憲章を読む

ラグビーのプレーは複雑多岐にわたっています。それは手足が自

由に使えるからというだけでなく、身体全ての機能を使うといっても過言ではないことから理解できます。ラグビーの競技規則はLawと呼ばれます。ruleではないところに、多くの人たちが言う「Lawの精神」がそこに宿っています。ラグビーの中では複雑な動き(自由な動きといってもよいでしょう)が多くあるため、全てを規制、コントロールすることはできないのです。そのため各プレーヤーには、規則になれば何をしてもよいということではなく、ラグビーの特性を理解した上で、フェアプレーが求められているのです。当然ですがレフリーが見ていないところで相手をだましたり、けがをさせたりすることはプレーヤーとしての資格はないのです。これが「Lawの精神」です。

競技規則の条文は22条、そして今は競技規則の前にラグビー憲章(Playing Charter)というものがあって、ラグビーという競技の特性が書かれています。1度読んでみることを勧めます。単純な文章ですが、奥は実に深いものがあると私は思っています。

「安全性」支える倫理

さてワールドカップが始まって以来、ラグビーの世界は大きく変容しています。日本でもプロ化が進行し、観客にとって見て面白い、いわゆるスベクターター(Spectator)スポーツになってきています。同時に競技規則も攻撃側に有利なように変化してきました。ラグビーが他のスポーツに比べ面白く感じるのは格闘技としての激しさにあり、スクラムトライやドライブングモールといった鍛えられた力をみせることにありますが、一つのボールが15人のプレーヤーに次から次に渡され、流れるように展開された後トライ

になるという「継続性」にもあります。60分あるいは80分のゲームが、全てスクラムやモールであつては、決して人気は高まらないでしょう。だからこそ現在の規則が、継続性を重視し、それを妨げるような行為については厳しく罰しているのです。

前後しますが、ラグビーにおける最優先項目は「安全性」です。これはプレーのいかなる場合においても適応されます。身体接触する競技だから当然であるのですが、それ以上に相手と接触することにおいて、人間としての倫理を問うているのだと思っています。スポーツマンシップの原点でもあるでしょう。いかに不利な状況においても、決してしてはならないことはあるのです。

このように今は「安全性」「継続性」を掲げ所に行っているラグビーに対し、プレーヤーには最初に述べたように「Lawの精神」が求められています。たった22条しかない競技規則が増えて、規制を加えていくことは、ラグビーにとっては進化とはいえません。私は学校や社会においても規則やルールが増えることは、健全で豊かな社会とはいえないと思っています。

昨今のラグビーはプロ化の進展と共に、勝負にこだわってか、規則の解釈、レフリングなどについて多くの議論と批判がみられます。プロ化が進んでいるから仕方がないというのではなく、プロ化を進めるからこそラグビーだけの持つ特性を大切にすべきではないでしょうか。スポーツマンシップとは競技を尊重し、相手を尊重し、そしてすばらしい敗者 (Good loser) をつくることにあるといわれています。レフリーの経験を通じ思うことは、このスポーツが真のスポーツマンシップを伝えるにふさわしい競技であり、指導者としてそれを大切にしていかなければならないということです。



平成12年（2000年）校舎全面改装竣工写真

7

父母会と共に

1粒で何度もおいしい楢円形



拓生（平成8年卒業）
耕大（平成16年卒業）の父

川 壽 隆 生

（昭和44年卒）

創立80周年、おめでとございます。長男と次男が8年の時差をはさんで丸6年、お世話になりました。保護者の1人として、また修猷館同窓の1人として、長い歴史を積み重ねてこられたみなさまに心からのお祝いと感謝、そしてエールを送らせていただきます。

☆

最初に断っておきたいことがある。私は体育の授業で数回スクラムを組んだだけのラグビー門外漢である。ラグビー部の同級生に入部を誘われても「いまの世の中、ラグビーより面白いものがたくさんある」と、今思えば生意気で鼻持ちならない理由で逃げ回った男である。

そんな親を持つ子供が2人ともラグビー部に入り、泥まみれの3年間を過ごした。試験直前、「せめて一夜漬けても」と机に向かった心意気はいいが、あえなく沈没。不精ひげが浮いたニキピ面の下からチームメイトの名前とポジションを書いたメモがのぞいていたことがあった。試験を気にしながら宿敵との対戦に思いをめぐらしているうちに「夢の中へ」だったのだろう。たたき起こそうかと思っただが、今の世の中でそこまで熱中できることがあることがうらやましくもあり、そっとふすまをしめた。そんな経験をした保護者は多

いはずである。

練習試合や公式戦にはできるかぎり出かけた。20代後半にスポーツ記者を経験したせいも、応援するというより取材するような気持ちでグラウンドの隅から試合を見ていたこともあったが、ゲームが緊迫すると、つい大声が出る。単なる「親ばか」である。

ラグビー部の先輩諸氏がよく言われるように、保護者、とくに母親が子供のゲームを見に来ることは少なかつただろう。今の親が、昔に比べて過保護な面は否定できない。また、大半は子供がラグビー部に入って初めてラグビーに関心を持った素人である。子供たちにとっては時として、うっとうしい存在かもしれない。だが、ラグビーを見ること、応援することはだれかに多少煙たがられてもやめられないほど面白いのである。

その理由はたくさんある。私が1番気に入っているのは、15のポジション一つひとつに強烈な個性、役回りがあることだ。体が小さくても、足が多少遅くてもできる「仕事」があり、チームに欠かせぬ存在になれる。さらに、格闘技の宿命としてケガが多く、交代要員もいつ「お前の番だ」と背中を押されてもいのようにゲームに集中する。

そして、チームが違っても、ラグビーをしなくなっても、あの楢円形を追いかけた仲間たちは、部外者からすれば嫉妬したくなるほど親しい。

長男は高校を卒業した後も大学から社会人、次男は大学でプレーを続けている。彼らのチームメイトや先輩、後輩などの応援に出かけ、その親父たちと話すのも楽しい。

グリコじゃないが「1粒で何度もおいしい楢円形」にこれからもお世話になりそうである。

8

マネジャーの目

あの「東」に勝った



平成8年卒業

秋 永 奈々美

(西日本シティ銀行)

修猷館を卒業してからも随分年月が過ぎましたが、今でも修猷時代のことはよく思い出します。修猷館で過ごした3年間は、私にとって今までの人生の中で1番輝いていた3年間でした。楽しいことばかりではなく、辛くて苦しい事もたくさんありましたが、今ではそのすべての思い出が宝物です。修猷館での3年間でこんなにも充実していたのは、やはりラグビー部のマネジャーを経験することができたからだと思います。ラグビー部のマネジャーになったことで、数多くの貴重な体験をすることができました。あまりにたくさん思い出がありすぎてすべてをここで語ることはできませんが、特に印象深い体験を一つだけ話したいと思います。

高校2年生の冬、3年生の先輩が引退して私達の学年が1番上の代になってからの初めての公式試合、新人戦に出場しました。その県大会で、福岡県内での連勝記録を更新し続けていたあの東福岡を倒し、見事優勝することができたのです。東福岡に勝った時は、みんなで飛び上がって喜び合いました。本当に驚きと感動でいっぱいでした。

その後、新人戦九州大会へ出場し、順調に決勝戦まで勝ち続けることができました。最後の試合相手は花園常連の佐賀工。平和台陸

上競技場のグラウンドで行われたので、修猷の在校生やOBの方々が大勢応援に駆けつけて下さいました。試合は残念ながら負けてしまいました。東福岡を倒しての新人戦九州大会準優勝という成績は、一生忘れられないものとなりました。その時に全員で撮った記念写真は、今でも大切に部屋に飾っています。私は、あまりいいマネジャーだったとは言えませんが、素晴らしい部員たちのおかげでこのような貴重な体験をすることができて、本当に幸せ者です。

ラグビー部は、他の部活と違い引退時期が運動会後の秋になるので、大学受験に不利だと思う人もいるかもしれませんが、私は、他の人たちよりもずっと長くラグビー部のみんなと一緒に過ごす事ができて、逆にとっても幸せだったなと思っています。3年間毎日一緒に過ごしたみんなは、今でも大切な仲間です。マネジャーという仕事は、部員達の活躍の影に隠れてあまり目立ちませんが、部員を応援する強い気持ちはきつと周りに伝わっていると思います。

現役のマネジャーさん、どんなに忙しい時でもいつも明るい笑顔だけは忘れずに、これからも仲間のために精一杯頑張ってください！

輝いていた3年間



平成16年卒業

松木 砂小莉

(明治大学)

私の3年間のマネジャー生活を振り返ってみると、あつという間だったなあ、という感じですよ。きつかったことやつらいこともあつたはずなのに、なぜか思い出すのは楽しかったことばかりです。

私の高校3年間は、ラグビーでいっぱいでした。毎日部活に行くのが楽しくて仕方ありませんでした。放課後、ウインドブレーカーに着替えてからが、自分が一番輝けるような気がしました。マネジャーの仕事は地味できつい仕事もあったけど、どれもやりがいのある仕事で、毎日相方マネのちひろと一緒に一生懸命がんばっていました。がんばっている自分が好きでした。がんばっているうちに仕事を覚えてきて、だんだん部員から頼られてくるのがとってもうれしかったです。

よく保護者の方から、「なんでマネジャーなんかになったの？勧誘されて断れなかったの？」といったことを聞かれることがありましたが、私は本当に好きでラグマネをやっていたので、逆にどうしてそんなことを聞かれるんだろうと思っていました。

私は正直1度も嫌だとかやめたいとは思ってありません。きついときやつらいときは確かにありました。色々あってちひろと2人で泣いたこともありましたが、でも、マネの仕事が大好きだった

から、2人で一緒にのりこえられたのです。

夏の暑いときに何度も何度も重い水を運んだり、真冬に水仕事をあかぎれができたたり、合宿中毎日朝4時に起きたり……。今思うと、こういうことを心底楽しくやってこれたというのは、本当に幸せなことだったんだと思います。

ラグマネの経験を通して、私はたくさんものを得ました。それは友情だったり信頼関係だったり忍耐力だったりと様々ですが、その得たものすべてを今後の人生に生かしていきたいと思っています。

日本一幸せなマネジャー



平成17年卒業

三ツ木 志織

(早稲田大学)

私たちマネジャーは「マネジャー」というよりも、どちらかといえば「部員」といったほうが近いのかもしれない。この3年間、私たちは部員のみんなと嬉しいこと、楽しいこと、そして苦しいこと、全てを皆で分かち合い、体験、感動を共にしてきました。チームの中で各々ポジションや役割が違うように、私たちもマネジャーという1ポジションで一生懸命プレーしてきたので、部員のみんなと本当に何も変わりはないように思います。水分の管理や事務的な仕事などマネジャーとしての仕事はもちろんですが、今思い出

すと、時にはみんなと一緒にグラウンド整備をしたり、練習に入っ
て球出しをしたことなどもありました。私たちがその時ウインドブ
レーカーを着ていなかったら、きっと誰もマネジャーだとは気づか
なかったのではないのでしょうか。また、練習が終わった後の部屋
は毎日本当に賑やかでまるで動物園のようだったので、はたから見
れば私たちはその中で楽しく過ごす動物の一員、あるいは時々飼育
係、という感じだったに違いありません。

普段はそんな私たちでしたが、以前マネジャーの先輩から、「マネ
ジャーというのは本来無くてもやっていけるもので、現に部員が仕
事を分担して、それで十分成り立っている学校もある。だからいな
かったとしても部にとってマイナスになることはない。それをいか
にプラスにもっていくかが私たちの役割」という内容の言葉を受け
継いだことがあります。それまで私はそのようなことなど考えたこ
ともなく、ただ毎日楽しみに部に活に来ていただけだったので、この
言葉は私の心に強く響きました。

それからは私も部にとっての「プラス」とは何かを少しずつ考え
るようになりましたが、自分達の代になって、いろいろな経験をし
ていくうちに自然と自分なりの答えを見つけ出していったような気が
します。うまく言えませんが、マネジャーはただ試合や練習の時
に仕事をしてサポートするということだけではなく、自分たちの持つ熱
い気持ちをラグビーで表に出すことができな分、それをどこかで
必ず反映できるように日頃からみんなと一体となり、チームの一部
となり、部全体を下からグッと支えられるような存在になれればい
いのではないか、というのが私なりの考えです。

最終的に私達がどれだけそれに近づくことができたかはわかりま
せんが、私達の気持ちはきっと部員のみんなにも伝わっていたら

うし、チームの仲の良さや団結力は日本一だったといえます。

修 献ラグビー部での3年間で私が得たものは計り知れず、いくら
言葉にしてもすべてを言い尽くすことはできません。しかし一つ確
実に言えることは、やはり私には「ここ」しかなかった、というこ
とです。これほど温かくて居心地の良い場所で過ごせたこの3年間、
その日々を共に過ごしてきた最高の仲間たちは私の一生の宝物です。
本当に私は日本一幸せなマネージャーだったと思います。

同じ代のマネージャーの今岡さんや部員のみんなをはじめ、先輩
や先生方、保護者の方々など、これまでは周りの人にたくさんの愛
をもらってばかりだったので、これからは逆にその愛をたくさんの
人に注いでいけるような人になろうと思います。私達をいつも支え
て下さった皆さん、本当にありがとうございました。

最後になりましたが、先輩の皆さん、一瞬一瞬を大切にこれから
も頑張ってください。普通ならここで「陰ながら応援しています」と
言うべきなのでしょうが、きっと私は陰などに隠れてはいられな
いと思うので私なりに精一杯応援していきたいと思えます。

青春☆ラグマネ人生の今!!



17年チームマネジャー

麻生 知里

(3学年)

17年チームマネジャー

中村 詩織

(3学年)

私たちが修猷館ラグビー部に入部し、もうすぐ2年がたとうとしています。今まで部活を通して多くの事を学び、多くの人と出会うことができました。

マネジャーは周囲に気を配ったり、いつも部員のためを考えたり、簡単そうで難しい仕事です。今まで指導してくださったマネジャーの先輩方にはとても感謝しています。今までは先輩方についていけばよかったことが、今は自分たちで考え行動しなければならなくなり、改めて先輩方の偉大さを実感しています。こんな私たちですが日々先輩方を目標として頑張っています。

では、ここで修猷館ラグビー部マネジャーの主な仕事を紹介したいと思います。

①練習中……お茶作り☆夏は水くみが大変で、冬はとても寒いです。グラウンドの小さな片付け☆コンタクトスーツやお茶

のボトルなどを練習の邪魔にならない所へ移動します。
②合宿中……部員の健康チェック☆みんなよく熱がでます(笑)

差し入れの管理☆そのまま放置しておく、あつという間になくなってしまいます。

写真撮影☆部員の意外な一面を撮ったりして、仲良しになります。

③試合中……スコア☆試合の流れなどを書き留めます。

応援☆部員がもつと頑張れるように、保護者の方々と黄色い声援を送ります。

飲み物☆エネルギーとお茶を作ります。大事な試合のときは、秘密兵器のトリプルカーボを作ります。マネジャーは全試合出たような錯覚に陥りとても疲れます。

④その他……マネの交流☆他校のマネさんとも試合のときなどに仲良くなり、交流の輪を広げています。

このようにマネジャーの仕事は想像以上にたくさんあり大変です。1学年、男だらけの中に女2人。こんな状況でも、きつなくても、つらくても私たちは部活をやめたいと思つたことはありません。むしろ、この部活に入って本当によかったと思つています。それはOBの方々を始め、先生方、先輩方、保護者の方々、そして何よりラグビーに対して素直で一生懸命な部員が仲間いてくれるからだと思えます。

私たちはこれからもこの伝統ある修猷館ラグビー部のマネジャーとして、少しでも部員の力となるようしっかりとサポートしていきます。そして今年こそ花園へ行けるようどこにも負けない修猷館ラグビー部を作っていきたいと思つていますので、これからも応援よろしくお願いします。

9

取材現場から
若き戦士たちへ

なぜ修猷ラグビーは 期待されるか



昭和54年卒業

松瀬 学

(早大共同通信社
フリーライター)

「おや」と思った。

2004年11月23日。伝統のラグビー早慶戦。秩父宮ラグビー場の記者席にいた私はちよつと驚いた。

早稲田のメンバー交代のアナウンスが秋空に響きわたったときである。

「***に代わり、三角公志くん、3年、修猷館高校、背番号22」。

「***に代わり、三原拓郎くん、1年、修猷館高校、背番号21」

「シュウユウカン」のところで、満員のスタンドがざわつく。記者席の後ろに座っている年配の記者はふと、つぶやいたのである。

「ほう。シュウユウか」と。

ノスタルジーを醸し出すのか、あるいは関東の大学ラグビーでは希少価値となった高校に反応したのか。そりゃ、気分は悪くない。

修猷ラグビー部OBとして、どこか誇らしくもなる。

当初、頂戴した原稿のこのタイトルには抵抗があった。傲慢なおいを感じ、書く気がおきなかった。でも、やはり「修猷は修猷」だったのである。

一目置かれる理由は一応「学業優秀」であり、ラグビーの名門と

しての伝統があるからだろう。いわゆる「文武両道」の高校との認識がある。

伝統？ 余談をいえば、早慶戦の夜、修猷OBの早稲田ラグビー部員は修猷の最後の花園出場を聞かれ、「戦前ですかあ」と真顔で答えたが。オー・マイ・ガアッ！

修猷OBは馬鹿ではない。偏差値はともかく、比較的、教養があると思う。また自我が強い。自信、信念を持っている。

だって『關魂碑』の立つ砂地のグラウンドで3年間、きつくて痛いラグビーをやり切ったのだから。

熱く生きる。例えば、仲人をしていただいた修猷ラグビーの先輩、故結城昭康さん（昭和30年卒）には、こんなエピソードがある。

早稲田の対外試合中のこと。OBでタッチジャッジを務めていたところ、タックルしない学生に腹を立て、フラッグ片手に相手に頭突きタックルをお見舞いしたのだ。

結城さんは生前、こうおっしゃっていた。

「試合も人生も、1度や2度は体を張ってやるべき時がある。根性入れてタックルせなイカン時があるったい」と。

むろん、結城さんは単なる無鉄砲男ではなかった。理論家だった。独学で1級建築士の資格を取った。スクラムを運動力学で解析し、効果的な姿勢、押し方を教えてもいただいた。詳細は忘れたが……

つまり、修猷ラグーマンの特徴とは頭で考え、勇気を持って行動するところにある。しかも周囲に流されない。少数派を恐れぬ勇氣、その孤独に耐えられる気概を持つ。

つねに思索し、自ら動く『プロアクティブ』（先読み、率先垂範型）である。だれかの指示や状況変化を待つ『リアクティブ』（事態対応型）とはちがう。思想の根源にフェアをおく。実はこれ、社会

のリーダーの資質である。

いわば人間力。ゆえに修猷ラグビーは期待されるのだ。最後に。

ことしの修猷は惜しかった。花園まであと1歩。願わくは、早く、ふたたび花園の土を踏んでほしい。そうすれば、よか酒が飲める。最後の花園出場がいつだったかもよみがえる。

恩師、守田基定先生のご健康を祈りつつ。

略歴

松瀬 学（まつせ まなぶ）

1960年長崎生まれ。77年度全国大会出場。83年早大を卒業し共同通信社入社。スポーツ畑を歩み、96年から4年間NY勤務。02年同社を退社し東大研究生となる一方、フリージャーナリストに。著書に『汚れた金メダル』（文藝春秋）『早稲田ラグビー再生プロジェクト』（新潮社）『宇津木妙子・麗華物語』（集英社）などがある。

伝統の遺伝子？

勝負に弱い修猷ラグビー



昭和58年卒業

森田 博志

（早大朝日新聞社）

もし、04年度のチームが全国大会へ出ていけば、新年を花園ラグビー場で迎えられベスト8に届くぐらいの結果は残せただろう。福岡の高校ラグビーのレベルは全国的にみてもかなり高い。しかし、勝負の世界に「たら」「れば」は禁物だ。東福岡に12対44で敗れ、また、あと1歩、届かなかった。

もう、28年も前になる。1977年12月3日、平和台の空に歓喜の声と「彼の群小」がひびき渡った。今、大学で活躍する若手OBにそんな話をして、想像がつかないようだ。前半のワンチャンスで挙げた虎の子の1トライ（当時は4点）を守りきって全国大会をつかんだ瞬間を。全国大会は過去8度の出場だから、単純計算すれば9割のOBが最上級生としてその感激に浸ったことがない。

例えば、1948年度のチームは初めて「全国制覇」を成し遂げた。11月の東京国体決勝で村野工（兵庫）を9対6で下して優勝した。しかし、全国大会福岡県予選では準決勝で伏兵の東筑に敗れた。この年度の全国大会で優勝したのは、修猷が国体の準決勝で破っていた秋田工だった。日本一に値する実力はあった。近くの駄菓子屋のおばちゃんが「子供ば犬のごと走らせてから」と驚くほどの練習

を積んでも全国大会は遠かった。

昨年（2004年）の全国大会福岡県予選決勝のビデオを見たある関東在住のOBは言った。「向井さん、間違えとおぼい」。中継を解説した前日本代表の向井正昭監督が試合前にコメントを求められ、「修猷は強力FWのできがカギになる」というようなことを話した。「逆やろうもん」このOBは福岡の高校ラグビー事情を知らない人の適当な発言と思った。

それが、違った。修猷の大きな岩のようなモールが力強く動き、相手を粉砕していった。バックスに素早く回してトライを奪ったのが東福岡だった。

修猷は「犬のごと走らされる」以前から、80年のほとんどの期間がよく走ってポールを展開し、粘り強いタックルをするのがチームカラーだったと思う。昨年度のスタイルは首脳陣と現役が自分たちのチームの強みを理解して練り上げた結果だった。毎年、学生が入れ替わる中では当然の選択で、我々OBが理想のように思い描く「姿」は幻に過ぎない。

文武両道とは、ある一時期は「武」を極め、別の時に「文」に精進すればいいと思う。限られた時間の中で、文武を同時並行的に行うことは多くの人には無理がある。そして、何かにつけいわれる「福岡県内有数の進学校」という枕ことばは、15人の男たちがしのぎを削るグラウンドの中では全く意味を持たない。

創部50年でグラウンド横に建てられた闘魂碑は「聞け、見よ、感得せよ。この碑建立の精神を」と語りかけている。現役選手がこのスポーツを考えて実践し、失敗を繰り返して成長することが、「伝統」をさらに引き継いでいくと信じている。我々OBはそれを静かに見守りたい。

略歴

森田 博志（もりた ひろし）

1964年福岡生まれ。82年度主将。

87年早大を卒業し朝日新聞社入社。スポーツ畑を歩み、主にプロ野球やラグビーを取材。



10

資
料
編
I

部歌

(戦前)

玄洋の波

作詞 松原伍藤 (国語教諭)
作曲 横田三郎 (音楽教諭)

一、玄洋の波 天うつ威力
百道の松の緑の栄え
これぞこれ我が修猷

二、我が雄叫びの心の響き
如何なる敵もおののき降る
これぞこれ我が修猷
ラグビー ラグビー ラララ

(戦後)

二本木並木

作詞 昭和22年部員合作
作曲

一、二本木並木にそよ風吹いて
からすさえずる日本晴
にっこり笑ってスクラム組んで
押していこうよトライまで
修猷 修猷 ラララ ラグビー

二、百道原頭修猷の庭に
今日も駆けるよボールもて
ぐつとにらんでダッシュをすれば
我に飛びつく敵はなし
修猷 修猷 ラララ ラグビー

修猷館ジャージー変遷

1、大正14年〜昭和2年
薄水色と黒の横縞

2、昭和3年〜昭和5年
ダークブルーに2本のライトブルーの
線入り

※第11回全国大会では、赤色、胸に
星とローマ字でSYUYU(紺色)、
襟なし丸首

3、昭和6年〜現在
ライトブルーと白の横縞

※戦後 i、昭和21年第1回団体で
は、紫一色、胸に星
ii、昭和23年国体、全国大
会では黒一色、胸に星

各年度役員及び部費一覽

年度	館長	部長	副部長	主将	部費(円)
大正14	白坂 栄彦	長 三熊	宮内源太郎	第1代 浜崎 越郎	不詳
大正15	白坂 栄彦	長 三熊	宮内源太郎	2 浜崎 越郎	三〇〇
昭和2	白坂 栄彦	長 三熊	宮内源太郎	3 鎌田 昌義	三五〇
3	白坂 栄彦	小林 静夫	宮内源太郎	4 溝口 博	三〇〇
4	白坂 栄彦	小林 静夫	田中又四郎	5 青柳惣三郎	三七〇
5	白坂 栄彦 (11月11日)	小林 静夫	田中又四郎	6 藤野 勝 (現・小山)	三五一
6	古賀 毅	小林 静夫	田中又四郎	7 長谷川盛一	四三〇
7	古賀 毅	小林 静夫	田中又四郎	8 不破 修平	四五〇・一〇
8	古賀 毅	小林 静夫	田中又四郎	9 今泉 正毅	四六〇
9	古賀 毅	小林 静夫	田中又四郎	10 田村 仁吾	四六〇
10	古賀 毅	小林 静夫	田中又四郎	11 郡 淳 (現・敏孝)	四一六・八五
11	古賀 毅	園部 暢		12 宮崎 茂美	四三六・八五
12	古賀 毅 (8月16日)	園部 暢		13 河原 武彦	四三〇
13	隈部 以忠	園部 暢		14 弓崎 輝明	四三〇

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	昭和14
13	13	13	13	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12	12	11	第11代
井上孝太郎	井上孝太郎	井上孝太郎	井上孝太郎	井上孝太郎	井上孝太郎	井上孝太郎	井上孝太郎	大内覚之助 井上孝太郎 (4月1日)	大内覚之助	大内覚之助	大内覚之助	大内覚之助	大内覚之助	大内覚之助	大内覚之助	大内覚之助 以忠 (5月31日)	限部 以忠
12	11	11	10	9	9	9	9	8	8	7	7	6	6	6	5	4	第3代
江崎 忠	阿部 謙一	阿部 謙一	石橋 哲郎	古澤 慶造	古澤 慶造	古澤 慶造	古澤 慶造	佐久間弘毅	佐久間弘毅	江崎 忠	江崎 忠	飯田 昌男	飯田 昌男	飯田 昌男	本間 治一	藤 和典	園部 暢
								江崎 忠	江崎 忠			本間 治一	本間 治一	本間 治一	森部 一三		加月 秋芳
32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	第15代
相浦 弘二	金谷 弘	平島 正登	橋詰 博	内藤 勇策	石橋 学	長 浩司 (現・大山)	佐々倉千秋	松本 安造	松本 安造	宮原 敬典	野崎 庫利	山下 昭平	大塩 勇	堀 博俊	福沢 充	牧 仰	白井 俊次
一一五、〇六〇	一一五、〇六〇	一一〇、〇〇〇	一〇九、〇〇〇	一一〇、〇〇〇	一一〇、〇〇〇	一一六、四〇〇	一四〇、〇〇〇	四二、〇〇〇	一一、〇〇〇	不詳	不詳	不詳	四五〇	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇

年度	館	部	主	部費(円)
昭和32	第13代	第12代	第33代	
33	井上孝太郎 (4月1日)	江崎 忠	藤井 章三	一三〇、〇〇〇
34	井上孝太郎 (4月1日)	江崎 忠	保木 正和	一二五、〇〇〇
35	山田 茂	石橋 哲郎	柴戸 敬史	一三〇、〇〇〇
36	山田 茂 (5月1日)	石橋 哲郎	原田太七郎	一〇〇、〇〇〇
37	山田 茂 (5月1日)	石橋 哲郎	戸川 忠彦	九九、〇〇〇
38	重藤市之丞	石橋 哲郎	三宅 俊樹	一〇〇、七〇〇
39	重藤市之丞	石橋 哲郎	工藤 泰伸	九二、〇〇〇
40	重藤市之丞	石橋 哲郎	納田 純一	九一、〇〇〇
41	重藤市之丞	山本 哲也	里見 隆彦	一二九、〇〇〇
42	重藤市之丞	石橋 哲郎	星野 順一	一二七、五三〇
43	重藤市之丞 (4月1日)	石橋 哲郎	守田 雅利	一二七、九〇〇
44	石橋 茂	江崎 忠	安川 裕行	一三八、九〇〇
45	石橋 茂	江崎 忠	原田 隆	一三八、〇〇〇
46	石橋 茂 (4月1日)	小西 直行 (現・武内)	尾中 澄夫	一一九、三〇〇
47	石橋 茂 (4月1日)	奥田 義郎	池田誠一郎	一三一、六五〇
48	石橋 茂 (4月1日)	奥田 義郎	平野 英夫	一三九、〇〇〇
49	石橋 茂 (4月1日)	奥田 義郎	田代 博之	一三八、〇〇〇

3	2	昭和 平成 元64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	昭和 49
22	22	21	20	20	20	20	20	20	20	19	19	19	19	18	18	18	第17代
吉田 秀男	吉田 秀男	亀谷 陽三 (4月1日)	原岡 鉄二 (4月1日)	原岡 鉄二	原岡 鉄二	原岡 鉄二	原岡 鉄二	原岡 鉄二	原岡 鉄二	原岡 鉄二	湊 博文 (4月1日)	湊 博文	湊 博文	湊 博文	佐村 和春 (4月1日)	佐村 和春 (4月3日)	榑木 昇一
19	18	18	18	18	17	16	16	16	16	16	15	15	14	14	14	14	第14代
岡本 圭吾	渕本 武陽	渕本 武陽	渕本 武陽	渕本 武陽	堺 靖也	渕本 武陽	渕本 武陽	渕本 武陽	渕本 武陽	渕本 武陽	守田 基定	守田 基定	渕本 武陽	渕本 武陽	渕本 武陽	渕本 武陽	渕本 武陽
清水 嘉隆	今村 徹之	今村 徹之	今村 徹之	堺 靖也	渕本 武陽	堺 靖也	堺 靖也	藤山 正紹	藤山 正紹	藤山 正紹	渕本 武陽	渕本 武陽	守田 基定	守田 基定	守田 基定	加来野 靖	加来野 靖
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	第50代
菅田 一基	古江健太郎	和田謙太郎	鶴丸秀一郎	結城 愛作	阿部 哲也	前田 夏洋	井田 智之	真鍋 恭	森田 博志	広佐古 勉	河野 進	国武 直信	空閑 毅	奥山 清隆	渕本 千陽	後藤 恭徳	亀岡 友樹
二九九、八五〇	二九五、一〇〇	二六七、〇〇〇	二七一、二〇〇	二六五、〇〇〇	二六二、四〇〇	二七六、二〇〇	二五八、〇〇〇	二四九、五〇〇	二五八、〇〇〇	二三五、〇〇〇	二二七、〇〇〇	一九二、〇〇〇	一八五、〇〇〇	一八四、〇〇〇	一七五、〇〇〇	一六八、〇〇〇	一四〇、〇〇〇

年度	館	長	顧問	副顧問	監督	主将	部費(円)
16	26	古田 智信	瀬尾 博栄	御領園 昭彦・清水 嘉隆	岡本 圭吾	時枝 将	三八二、〇〇〇
15	25	末永 照元	瀬尾 博栄	御領園 昭彦・清水 嘉隆	岡本 圭吾	川寄 耕大	三八四、三〇〇
14	25	末永 照元	瀬尾 博栄	岡本 圭吾・清水 嘉隆	岡本 圭吾	伊藤 輝之	三五五、六〇〇
13	24	前川 昭治	瀬尾 博栄	岡本 圭吾・清水 嘉隆	岡本 圭吾	三角 公志	三五七、九八九
12	24	前川 昭治	瀬尾 博栄	岡本 圭吾・清水 嘉隆	岡本 圭吾	児島 真吾	三四三、七〇〇
11	24	前川 昭治	瀬尾 博栄	岡本 圭吾・清水 嘉隆	岡本 圭吾	佐藤 忠相	三三五、〇〇〇
10	23	船津 正明	瀬尾 博栄	岡本 圭吾・清水 嘉隆	岡本 圭吾	北原 大吉	三三五、〇〇〇
9	23	船津 正明	瀬尾 博栄	岡本 圭吾・清水 嘉隆	岡本 圭吾	南 浩二	三三三、六〇〇
8	23	船津 正明	岡本 圭吾	清水 嘉隆・新飼 友一	岡本 圭吾	川尻 圭介	三二六、〇〇〇
7	23	船津 正明	岡本 圭吾	清水 嘉隆・新飼 友一	岡本 圭吾	川寄 拓生	三〇六、〇四〇

年度	館	長	部	副部長	主将	部費(円)		
6	23	船津 正明	19	岡本 圭吾	—	70	吉田 貞信	三〇五、五〇〇
5	23	吉田 秀男 (4月1日)	19	岡本 圭吾	—	69	上村 聡	三〇四、八六一
4	第22代	吉田 秀男	19	岡本 圭吾	—	68	吉住 信哉	三〇一、二〇八

卒業部員名簿 (平成8年卒業) (平成17年卒業)

※ Mはマネージャー

平成8年卒業
 秋永 奈々美 M
 阿久根 潤
 衛藤 耕平
 尾崎 晋吾
 川崎 拓生
 木下 健太郎
 倉光 大太郎
 酒瀬川 裕太
 中曾根 一豊
 野村 俊一
 原田 優子 M
 廣崎 洋平
 松尾 芳和
 松岡 幹平
 松田 健太郎
 真鍋 健治
 光井 勇貴
 湊新也
 浅田 大輔
 安西 志豊
 狩生 健志
 狩圭 介
 北尻 圭介
 北林 卓也
 北石 直浩
 熊石 直浩
 佐座 健太郎

平成10年卒業
 河手 一央
 田中 智史
 田村 嘉浩
 徳島 圭典
 中村 昌弘
 藤原 昌弘
 増田 和宏
 南蘭 浩二
 深山 順司
 山本 英児
 一和 瑠美子 M
 江田 健一郎 M
 梅北 拓郎
 河手 想志
 北原 大志
 小坪 大志
 佐座 酒蔵

平成12年卒業
 川尻 洋平
 荒神 佳洋
 佐藤 忠相
 篠原 伸達
 田原 伸洋
 長谷川 毅
 秋本 泰行
 印丸 由希子 M
 押淵 絢子 M
 児島 真吾
 下池 亮吾
 鈴木 勝也
 田中 啓太
 谷中 優太
 段隆 太郎
 中本 和也
 橋本 隼人
 平岡 祐一

平成14年卒業
 阿部 亜季美 M
 井上 大志郎
 岩永 洋暁
 大迫 亮平
 坂本 祐二
 スウエイン・エウソウ
 徳満 龍太郎
 野中 洗太郎
 林下 志剛
 松井 志郎
 水原 健介
 三角 健志
 南角 洋志
 山本 哲也
 渡辺 真五
 伊藤 輝之
 井口 邦隆
 岩本 悠介
 片桐 悠介

平成16年卒業
 池島 陽太郎
 緒方 洋平
 尾花 一樹
 川崎 耕大
 高橋 勉
 西方 亮祐
 二ノ坂 悟志
 原ノ口 智希
 比屋根 智希
 藤島 雄介
 吉川 純史
 山中 雄一郎
 山田 達夫
 宮内 雄一
 宮川 公太郎
 三原 拓太郎
 前原 大輔
 星野 集平
 平川 勝哉
 東山 慧悟
 林田 佳祐
 成富 宗智
 田中 健太郎
 高橋 俊作
 川橋 俊作
 片瀨 裕大
 片瀨 裕大

平成17年卒業
 石川 隆成
 伊藤 貴博
 井上 貴博
 今岡 結博
 浦上 慎一郎
 片瀨 啓一郎
 片瀨 啓一郎
 児島 慎平
 坂田 航平
 白田 克典
 関屋 雄太
 関屋 雄太
 近木 俊介
 寺本 健二
 時枝 健将
 中井 康詞
 波多江 武寛
 平塚 秀晴
 馬場 大介
 三ツ木 志織
 山口 健太郎
 山本 武生
 宮地 洋嗣
 山口 高史
 山木 砂小莉
 松熊 千尋
 諸熊 千尋 M
 宮地 洋嗣 M

物故者名簿 (平成7年以降)

卒業年	氏名(五十音順)	没年月日
昭和3年	鎌田 昌義	平成10年8月6日
昭和3年	高橋 長矩	平成13年12月24日
昭和3年	中村喜太郎	平成9年5月31日
昭和3年	日高 信義	平成8年6月21日
昭和3年	藤田 稔	平成12年10月25日
昭和4年	郡司 盛久	平成7年12月28日
昭和4年	溝口 博	平成13年10月13日
昭和5年	大里 政信	平成8年7月21日
昭和5年	下川 啓一	平成15年4月8日
昭和5年	古武 静夫	平成8年5月 日
昭和6年	高瀬 弘	平成14年11月 日
昭和6年	山崎 惣吉	平成12年1月4日
昭和7年	大神 和敏	平成12年9月8日
昭和7年	長谷川盛一	平成13年9月20日
昭和8年	下破 修平	平成7年4月28日
昭和9年	大石 秀生	平成10年1月10日
昭和9年	森原 幸彦	平成11年3月16日
昭和10年	田村 仁吾	平成16年1月20日
昭和10年	松永晋一郎	平成16年6月13日
昭和11年	守田 三義	昭和25年1月21日
昭和12年	早田 昌武	平成11年6月 日
昭和12年	山部 治邦	平成12年3月6日
昭和13年	大神 祐彦	平成15年5月29日
昭和14年	中村 政彦	平成10年8月6日
昭和15年	松岡 正導	平成10年6月4日
昭和16年	高松 光彦	平成11年5月25日
昭和16年	皆島 萬作	平成9年12月26日
昭和17年	吉村 英彦	平成11年11月7日
昭和18年	井川 芳夫	平成8年12月7日
昭和18年	島田 正三	平成9年11月11日
昭和20年	新免 昭彦	平成15年1月9日
昭和22年	久保 房雄	平成16年4月6日
昭和23・24年	松本 安造	平成9年8月12日
昭和23・24年	森(榊) 明	平成15年4月25日
昭和25年	高武 昭夫	平成9年5月2日
昭和25年	佐藤 英彦	平成8年10月23日
昭和25年	湊本 武陽	平成11年2月20日
昭和25年	堀 練士	平成11年3月23日
昭和27年	大野 浩	平成14年5月6日
昭和27年	藤井 浩一	平成9年7月31日
昭和27年	藤島 勇一	平成14年9月24日
昭和27年	藤田 義雄	平成15年7月28日
昭和28年	内藤 勇策	平成15年6月18日
昭和28年	堀内 秀夫	平成14年10月8日
昭和29年	来嶋 昌司	平成16年4月4日
昭和31年	小林 浩之	平成9年5月24日
昭和37年	豊福 信之	平成16年1月22日
昭和39年	福井 浩一	平成16年3月11日

11

資
料
編
II

平成7年度対戦一覧表

主将 川寄 拓生

3年 部員：16名 マネージャー：2名
 総計 部員：39名 マネージャー：5名

タイトル	月日	勝敗	スコア (修猷館-相手チーム)	勝敗	相手チーム名	試合場所
第16回修猷福高定期戦	4月29日	○	29 (17 12)	●	福岡高	修猷館 G
第48回全九州高校大会中部支部予選	5月14日	○	84 (45 39)	●	福岡工大附高	香椎工業 G
第48回全九州高校大会福岡県予選	5月21日	●	18 (18 0)	○	筑前高	東福岡 G
第75回全国高校大会県中部支部予選	10月8日	○	106 (50 56)	●	柏陵高	福岡工業 G
第75回全国高校大会福岡県予選	10月29日	○	17 (14 3)	●	西南高	修猷館 G
特記事項 国体少年の部第3位 高校ジャパン 高校ジャパン候補	11月5日	●	10 (10 0)	○	筑紫丘高	平和台舞鶴 G
中心選手として 阿久根(ロック) 川寄(スタンド)						
川寄、阿久根、真鍋出場 イングラウンド遠征						

平成8年度対戦一覧表

主将 川尻 圭介

3年 部員：12名 マネージャー：2名
 総計 部員：32名 マネージャー：5名

タイトル	月日	勝敗	スコア (修猷館-相手チーム)	勝敗	相手チーム名	試合場所
第18回全九州高校新人大会県中部支部予選	1月14日	○	22 (10 12)	●	宗像高	筑前 G
第18回全九州高校新人大会福岡県予選	1月21日	○	9 (3 6)	●	筑紫高	福岡工業 G

特記事項 国体少年の部優勝 中心選手として 川尻出場 4月の練習試合で大分舞鶴に勝利	第18回全九州高校新人大会福岡県予選	1月28日	準々決勝	○	51	27	24	7	10	17	●	北九州高	久留米大学医G	
	"	2月3日	準決勝	△	20	10	10	17	3	20				
	"	2月4日	決勝	●	5	0	5	7	28	35				
	第18回全九州高校新人大会	2月17日	1回戦	●	20	13	7	10	15	25			長崎北陽台高	長崎大村工業G
	第17回修猷福高定期戦	4月29日	定期戦	○	48	36	12	0	0	0			福岡高	福岡高
	第49回全九州高校大会中部支部予選	5月12日	2回戦	○	64	22	42	0	0	0			福岡舞鶴高	福岡高
	第49回全九州高校大会福岡県予選	5月19日	1回戦	○	32	15	17	10	0	10			明善高	城南高
	"	5月25日	準々決勝	○	13	5	8	5	3	10			中村三陽高	本城高
	"	5月26日	準決勝	●	14	3	11	14	19	33			筑紫高	"
	第76回全国高校大会中部支部予選	10月6日	2回戦	○	75	34	41	5	0	5			香椎工業高	福岡工業G
	第76回全国高校大会福岡県予選	10月27日	1回戦	●	6	0	6	7	12	19			中村三陽高	修猷館G

平成9年度対戦一覧表

主将 南 蘭 浩二

3年 部員：11名 マネージャー：1名
 総計 部員：26名 マネージャー：3名

タイトル	月日	回数	勝敗	(修猷館ス コ 相手チ ア ーム)	勝敗	相手チーム名	試合場所
第19回全九州高校新人大会県中部支部予選	1月12日	2回戦	○	48 — 24 24	●	宗 像 高	筑 前 G
第19回全九州高校新人大会福岡県予選	1月19日	1回戦	○	69 — 40 29	●	八幡中央高	東 福 岡 G
"	1月26日	準々決勝	●	10 — 5 5	○	東 福 岡 高	久留米大学医 G
第18回修猷福高定期戦	5月3日	定期戦	○	10 — 10 0	●	福 岡 高	平和台陸上 G (クラシッククラブビル前座)
第50回全九州高校大会中部支部予選	5月11日	1回戦	○	102 — 52 50	●	早 良 高	香 椎 工 業 G
第50回全九州高校大会福岡県予選	5月18日	1回戦	●	12 — 5 7	○	東 福 岡 高	福 岡 工 業 G
第77回全国高校大会県中部支部予選	10月12日	2回戦	○	119 — 57 62	●	筑 紫 台 高	筑 紫 丘 G
第77回全国高校大会福岡県予選	10月26日	1回戦	○	19 — 12 7	●	福 岡 高	西 南 G
"	11月2日	2回戦	●	20 — 12 8	○	筑 紫 丘 高	"

特記事項

4月瀬尾教諭 転任
 高校ジャパン候補 山本

平成10年度対戦一覧表

主将 北原 大吉

3年 部員：9名 マネージャー：2名
総計 部員：30名 マネージャー：4名

特記事項	タイトル									月日	回数	勝敗	スコア			勝敗	相手チーム名	試合場所	
	第20回全九州高校新人大会県中部支部予選	第20回全九州高校新人大会福岡県予選	"	第19回修猷福高定期戦	第51回全九州高校大会中部支部予選	第51回全九州高校大会福岡県予選	"	第78回全国高校大会県中部支部予選	第78回全国高校大会福岡県予選				月日	回数	勝敗				5
										1月11日	2回戦	○	55	17	0	0	●	筑前高	筑前G
										1月18日	1回戦	○	80	41	0	0	●	嘉穂高	東福岡G
										1月25日	準々決勝	●	19	12	12	14	○	小倉高	久留米大学医G
										4月29日	定期戦	●	得点不明				○	福岡高	福岡G
										5月17日	2回戦	○	32	22	5	0	●	香椎工業高	光陵G
										5月24日	1回戦	○	26	12	21	0	●	中村三陽高	東福岡G
										5月31日	準々決勝	●	5	0	0	12	○	明善高	本城G
										10月4日	2回戦	○	103	50	0	0	●	福岡工大附高	筑紫丘G
										10月11日	1回戦	●	5	5	26	14	○	東福岡高	西南G

平成11年度対戦一覧表

主将 佐藤 忠相

3年 部員：6名 マネージャー：0名
 総計 部員：35名 マネージャー：3名

タイトル	月日	戦型	勝敗	スコア	相手チーム名	試合場所
第21回全九州高校新人大会県中部支部予選	1月17日	2回戦	○	100 (52 48)	香椎高	糸島 G
第21回全九州高校新人大会福岡県予選	1月24日	1回戦	○	67 (24 43)	八幡高	東福岡 G
"	1月31日	準々決勝	○	45 (24 21)	明善高	久留米大学医 G
"	2月6日	準決勝	●	10 (7 3)	東筑高	"
"	2月7日	3位決定戦	△	10 (5 5)	中村三陽高	"
第20回修猷福高定期戦	4月29日	定期戦	○	49 (27 22)	福岡高	修猷館 G
第52回全九州高校大会中部支部予選	5月16日	2回戦	○	137 (78 59)	福岡工大附高	福岡工大附 G
第52回全九州高校大会福岡県予選	5月23日	1回戦	○	74 (33 41)	九州産業高	東福岡 G
"	5月30日	準々決勝	○	41 (17 24)	福岡工業高	本城 G
"	6月5日	準決勝	●	24 (12 12)	東福岡高	"
"	6月6日	3位決定戦	○	23 (8 15)	筑紫高	"
第79回全国高校大会県中部支部予選	10月3日	2回戦	○	94 (44 55)	福岡舞鶴高	筑紫 G
第79回全国高校大会福岡県予選	10月10日	1回戦	●	22 (12 10)	福岡工業高	福岡工業 G

特記事項

平成12年度対戦一覧表

主将 児島 真吾

3年 部員：15名 マネージャー：2名
総計 部員：49名 マネージャー：3名

タイトル	月日	回戦	勝敗	スコア	相手チーム名	試合場所
第22回全九州高校新人大会県中部支部予選	1月16日	1回戦	○	60 17 43	西南高	〃
第22回全九州高校新人大会福岡県予選	1月23日	1回戦	○	64 26 38	福岡高	東福岡G
〃	1月25日	準々決勝	○	71 36 35	香椎工業高	久留米大学医G
〃	1月30日	準決勝	●	18 3 15	東福岡高	〃
第21回修猷福高定期戦	4月29日	定期戦	○	36 22 14	福岡高	福岡G
第53回全九州高校大会中部支部予選	5月14日	2回戦	○	106 34 72	西南高	福岡工大附G
第53回全九州高校大会福岡県予選	5月21日	1回戦	○	54 12 42	福岡工業高	グローバルG
〃	5月28日	準々決勝	○	24 12 12	中村三陽高	〃
〃	6月3日	準決勝	○	25 15 10	東筑高	〃
〃	6月4日	決勝	●	10 0 10	東福岡高	〃
第53回全九州高校大会	6月17日	1回戦	○	37 15 22	都城高	熊本県総合G
〃	6月18日	準決勝	○	24 12 12	海星高	〃
〃	6月20日	決勝	○	52 14 38	鹿児島実業高	〃
第80回全国高校大会県中部支部予選	10月1日	2回戦	○	95 47 48	糸島高	グローバルG

平成13年度対戦一覧表

タイトル	月日	回数	勝敗	スコア	相手チーム名	試合場所
第23回全九州高校新人大会県中部支部予選	1月14日	1回戦	○	69-33	宗像高糸島	G
第23回全九州高校新人大会福岡県予選	1月21日	1回戦	●	10-17	東福岡高	G
第22回修猷福高定期戦	4月29日	定期戦	○	31-17	福岡高修猷館	G
ワールドユース大会予選プール	4月30日		○	36-0	盛岡工業	G
"	5月3日		○	22-17	ST. Joseph. College	"
"	5月3日		○	15-14	大津	"
"	5月4日		●	14-32	東福岡	"
カップトーナメント	5月5日		○	15-5	東京農大二校	"

主将 三角 公志

3年 部員：14名 マネージャー：1名
 総計 部員：46名 マネージャー：3名

特記事項	月日	回数	勝敗	スコア	相手チーム名	試合場所
第80回全国高校大会福岡県予選	10月8日	1回戦	○	78-40	八幡高	"
"	10月29日	準々決勝	○	41-14	福岡高	"
"	11月5日	準決勝	●	29-12	筑紫高	"

平成14年度対戦一覧表

第24回全九州高校新人大会県中部支部予選	タイトル	月日	シード校戦	○	勝敗	70 (36 34)	相手チーム名	試合場所
						7 0	糸島高	中村三陽 G
					●	7		

主将 伊藤 輝之

3年 部員：20名 マネージャー：0名
 総計 部員：50名 マネージャー：4名

特記事項	第54回全九州高校大会中部支部予選	第54回全九州高校大会福岡県予選	第81回全国高校大会県中部支部予選	第81回全国高校大会福岡県予選	第81回全国高校大会福岡県予選	第81回全国高校大会福岡県予選	第81回全国高校大会福岡県予選	第81回全国高校大会福岡県予選	第81回全国高校大会福岡県予選
アクシオンンによるウェイトトレーニング指定校	U19日本代表	三角	高校ジャパン候補	南蘭					
	11月10日	11月4日	10月28日	10月7日	9月23日	6月2日	5月27日	5月20日	5月13日
	決勝	準決勝	準々決勝	1回戦	シード校戦	準決勝	準々決勝	1回戦	2回戦
	●	○	○	○	○	●	○	○	○
	14	48	32	48	47	5	35	110	96
	(14 0)	(36 12)	(22 10)	(24 24)	(26 21)	(5 0)	(14 21)	(63 47)	(48 48)
	10 14	21 7	7 0	14 5	0 12	12 15	19 5	0 0	0 0
	(24)	(28)	(7)	(19)	(12)	(27)	(24)	(0)	(0)
	○	●	●	●	●	○	●	●	●
	東福岡高	東筑高	筑紫高	明善高	九州産業高	東福岡高	筑紫高	浮羽高	宗像高
		博多の森陸上 G	グローバル G	福岡 G	筑紫 G		グローバル G	東福岡 G	福岡工大城東 G

特記事項	第24回全九州高校新人大会福岡県予選	1月20日	1回戦	●	10	10	0	10	24	14	38	○	小倉高	光陵G
	ワールドユース大会予選プール	4月28日		●	10						34		ポラント農業高校(南アフリカ)	グローバルG
	"	4月29日		●	0						55		仙台育英	"
	第23回修猷福高定期戦	4月29日	定期戦	○	34	7	27	22	0	22	22		福岡高	福岡G
	ワールドユース大会予選プール	5月1日		●	5						24		仁川機械工業(韓国)	グローバルG
	ボウルトーナメント	5月2日		●	14						17		高級職業学校	"
	ボウルコンソレーション	5月4日		○	38						7		札幌山の手の手	"
	"	5月5日		○	27						22		仁川機械工業(韓国)	"
	第55回全九州高校大会中部支部予選	5月12日	2回戦	○	67	36	31	0	0	0	0		光陵高	福岡工業G
	第55回全九州高校大会福岡県予選	5月19日	1回戦	○	18	3	15	7	7	7	14		福岡高	福岡G
"	5月26日	準々決勝	●	14	14	0	10	14	24	24		福岡工業高	グローバルG	
第82回全国高校大会県中部支部予選	9月29日	2回戦	○	111	61	50	0	0	0	0		筑前高	筑紫丘G	
第82回全国高校大会福岡県予選	10月6日	1回戦	●	21	14	7	21	15	36	0		東福岡高	東福岡G	

平成15年度対戦一覧表

主将 川寄 耕大

3年 部員：12名 マネージャー：2名
総計 部員：57名 マネージャー：6名

タイトル	月日		勝敗	スコア	相手チーム名	試合場所
第25回全九州高校新人大会県中部支部予選	12月22日	シード校戦	○	44 — 22 22	中村三陽高	中村三陽 G
第25回全九州高校新人大会福岡県予選	1月19日	1回戦	●	14 — 0 14	九州産業高	光陵 G
第24回修猷福高定期戦	4月29日	定期戦	○	50 — 33 17	福岡高	修猷館 G
第56回全九州高校大会中部支部予選	5月4日	2回戦	○	24 — 12 12	福岡工業高	福岡工業 G
第56回全九州高校大会福岡県予選	5月18日	1回戦	○	50 — 29 21	鞍手高	中村三陽 G
"	5月25日	準々決勝	●	6 — 0 6	筑紫高	グローバル G
第83回全国高校大会県中部支部予選	9月28日	2回戦	○	39 — 17 22	香椎高	筑紫 G
第83回全国高校大会福岡県予選	10月5日	1回戦	○	59 — 21 38	九国大附高	東福岡 G
"	10月12日	準々決勝	●	0 — 19 21	東福岡高	グローバル G

特記事項

ベスト電器補助金

平成16年度対戦一覧表

主将 時枝 将

3年 部員：18名 マネージャー：2名
 総計 部員：67名 マネージャー：6名

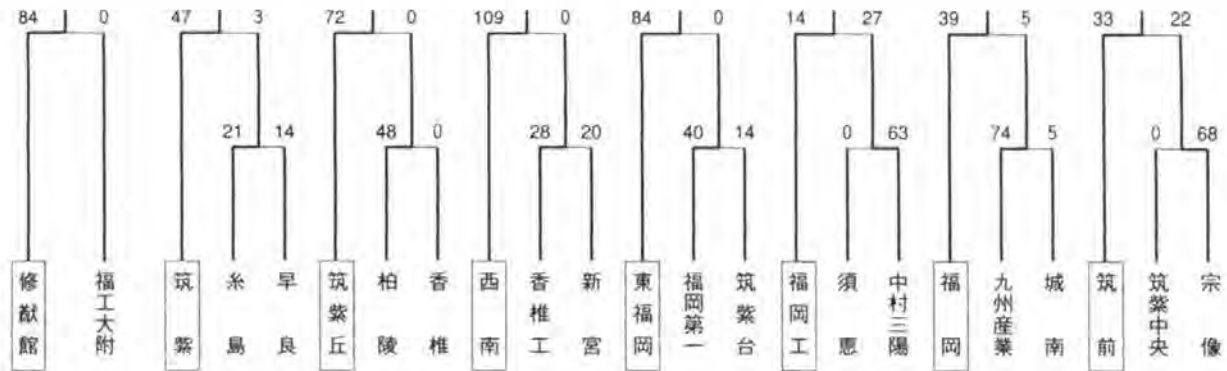
タイトル	月日	試合	勝敗	スコア (修猷館-相手チーム)	勝敗	相手チーム名	試合場所
第26回全九州高校新人大会県中部支部予選	12月21日	シード校戦	○	15-10 5-10	●	九州産業高	修猷館 G
第26回全九州高校新人大会福岡県予選	1月18日	1回戦	○	26-19 7-19	●	東筑高	グローバルG
"	1月25日	準々決勝	○	28-14 14-14	●	筑紫高	"
"	1月31日	準決勝	●	17-12 5-12	○	東福岡高	"
天理高校交流戦	4月25日	定期戦	●	12-0 0-12	○	天理高	修猷館 G
第25回修猷福高定期戦	4月29日	定期戦	○	47-32 15-0	●	福岡高	福岡岡 G
第57回全九州高校大会中部支部予選	5月9日	シード校戦	○	69-38 31-12	●	宗像高	福岡工業 G
第57回全九州高校大会福岡県予選	5月23日	1回戦	○	43-31 12-0	●	八幡高	宗像 G
"	5月30日	準々決勝	○	86-50 36-0	●	浮羽高	グローバルG
"	6月5日	準決勝	○	24-17 7-7	●	小倉高	"
"	6月6日	決勝	●	12-7 5-28	○	東福岡高	"
第57回全九州高校大会	6月19日	1回戦	○	55-36 19-7	●	名護高	大分九電発電所 G
"	6月20日	準々決勝	○	41-22 19-0	●	大分雄城台高	大分スポパーク G
"	6月22日	準決勝	●	7-10 0-10	○	長崎北陽台高	大分市営陸上 G

特記事項	第84回全国高校大会県中部支部予選				
	第84回全国高校大会福岡県予選				
	11月13日	11月7日	10月17日	10月10日	10月3日
	決勝	準決勝	準々決勝	一回戦	シード戦
	●	○	○	○	○
	12 5 7	20 3 17	42 17 25	63 29 34	120 64 56
	 20 24	 0 7	 0 7	 0 3	 0 0
	44	7	7	3	0
	○	●	●	●	●
	東福岡高	福岡工業高	福岡高	福岡舞鶴高	光陵高
博多の森サブG	博多の森サブG	グローバルG	修猷館G	筑紫G	

12

資
料
編
III

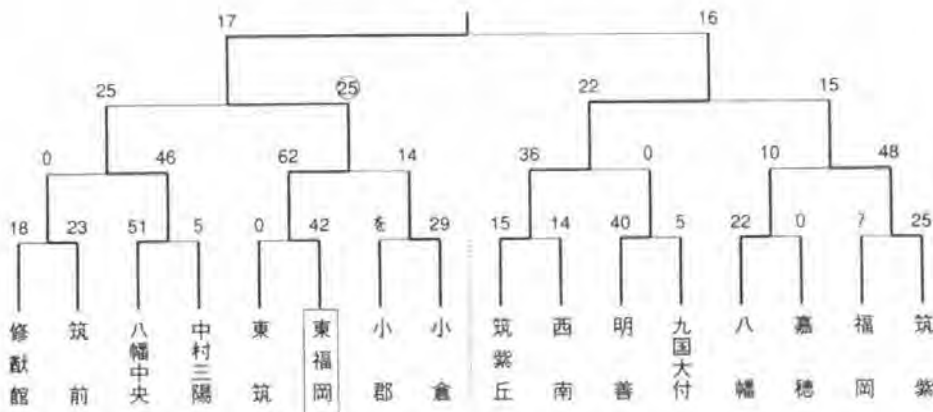
第48回全九州高校大会 中部予選



2回戦 R: 藤山 (福岡)
平成7年5月14日(日) 香椎工業工付
修猷館 84 (39-0) 0 福大

7	T	0
7	G	0
2	PG	0
2	DG	0
5	反則	0
0		0
0		0
0		0
0		0
10		17
① 廣中松阿倉真	FW	① 梅山三本森大
② 曾久		② 伴
③ 阿倉真		③ 横白相伊久
④ 倉真		④ 高古石
⑤ 真		⑤ 伴
⑥ 真		⑥ 伴
⑦ 真		⑦ 伴
⑧ 川野川光松浅衛尾	HB	⑧ 伴
⑨ 野川光松浅衛尾		⑨ 伴
⑩ 川野川光松浅衛尾		⑩ 伴
⑪ 野川光松浅衛尾		⑪ 伴
⑫ 川野川光松浅衛尾		⑫ 伴
⑬ 野川光松浅衛尾		⑬ 伴
⑭ 川野川光松浅衛尾		⑭ 伴
⑮ 野川光松浅衛尾	⑮ 伴	
⑯ 野川光松浅衛尾	⑯ 伴	
⑰ 野川光松浅衛尾	⑰ 伴	
⑱ 野川光松浅衛尾	⑱ 伴	
⑲ 野川光松浅衛尾	⑲ 伴	
⑳ 野川光松浅衛尾	⑳ 伴	
㉑ 野川光松浅衛尾	㉑ 伴	
㉒ 野川光松浅衛尾	㉒ 伴	
㉓ 野川光松浅衛尾	㉓ 伴	
㉔ 野川光松浅衛尾	㉔ 伴	
㉕ 野川光松浅衛尾	㉕ 伴	
㉖ 野川光松浅衛尾	㉖ 伴	
㉗ 野川光松浅衛尾	㉗ 伴	
㉘ 野川光松浅衛尾	㉘ 伴	
㉙ 野川光松浅衛尾	㉙ 伴	
㉚ 野川光松浅衛尾	㉚ 伴	
㉛ 野川光松浅衛尾	㉛ 伴	
㉜ 野川光松浅衛尾	㉜ 伴	
㉝ 野川光松浅衛尾	㉝ 伴	
㉞ 野川光松浅衛尾	㉞ 伴	
㉟ 野川光松浅衛尾	㉟ 伴	
㊱ 野川光松浅衛尾	㊱ 伴	
㊲ 野川光松浅衛尾	㊲ 伴	
㊳ 野川光松浅衛尾	㊳ 伴	
㊴ 野川光松浅衛尾	㊴ 伴	
㊵ 野川光松浅衛尾	㊵ 伴	
㊶ 野川光松浅衛尾	㊶ 伴	
㊷ 野川光松浅衛尾	㊷ 伴	
㊸ 野川光松浅衛尾	㊸ 伴	
㊹ 野川光松浅衛尾	㊹ 伴	
㊺ 野川光松浅衛尾	㊺ 伴	
㊻ 野川光松浅衛尾	㊻ 伴	
㊼ 野川光松浅衛尾	㊼ 伴	
㊽ 野川光松浅衛尾	㊽ 伴	
㊾ 野川光松浅衛尾	㊾ 伴	
㊿ 野川光松浅衛尾	㊿ 伴	
㊿	FB	交代

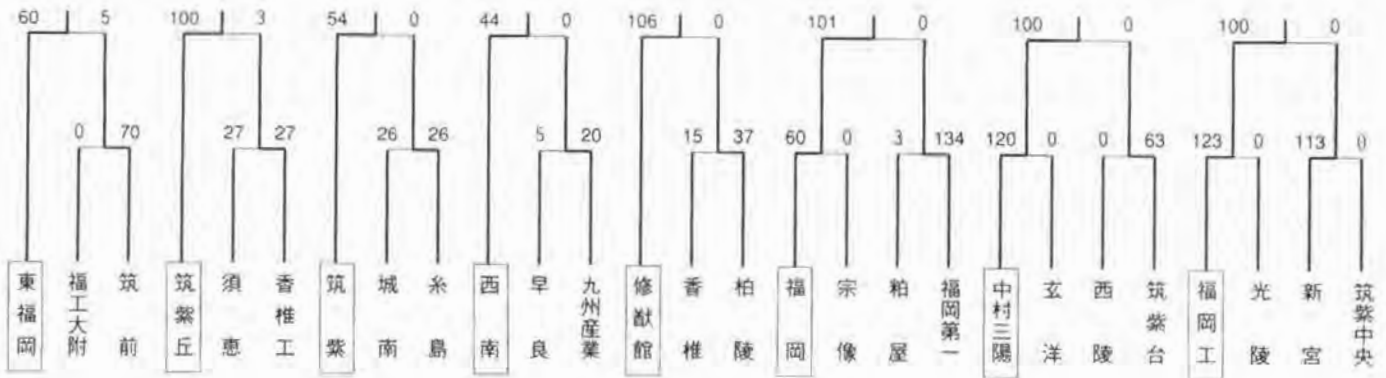
第48回全九州高校大会 福岡県予選



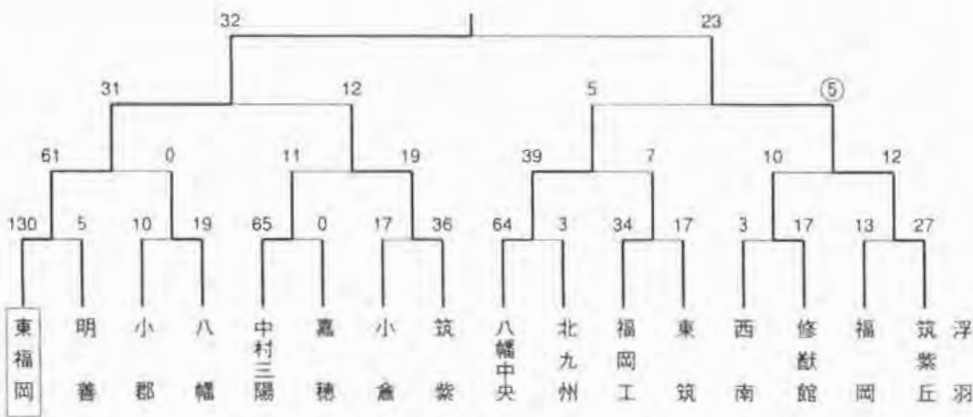
1回戦 R: 中村 (九州)
平成7年5月21日(日) 東福岡
修猷館 18 (0-3) 23 筑前

0	T	0
3	G	3
0	PG	1
0	DG	1
0	反則	0
0		0
0		0
13		5
① 廣中松阿倉真	FW	① 有馬島田神武
② 曾久		② 西原大野上
③ 阿倉真		③ 野上
④ 倉真		④ 野上
⑤ 真		⑤ 野上
⑥ 真		⑥ 野上
⑦ 真		⑦ 野上
⑧ 川野川光松浅衛尾	HB	⑧ 高田
⑨ 野川光松浅衛尾		⑨ 高田
⑩ 川野川光松浅衛尾		⑩ 高田
⑪ 野川光松浅衛尾		⑪ 高田
⑫ 川野川光松浅衛尾		⑫ 高田
⑬ 野川光松浅衛尾		⑬ 高田
⑭ 川野川光松浅衛尾		⑭ 高田
⑮ 野川光松浅衛尾	⑮ 高田	
⑯ 野川光松浅衛尾	⑯ 高田	
⑰ 野川光松浅衛尾	⑰ 高田	
⑱ 野川光松浅衛尾	⑱ 高田	
⑲ 野川光松浅衛尾	⑲ 高田	
⑳ 野川光松浅衛尾	⑳ 高田	
㉑ 野川光松浅衛尾	㉑ 高田	
㉒ 野川光松浅衛尾	㉒ 高田	
㉓ 野川光松浅衛尾	㉓ 高田	
㉔ 野川光松浅衛尾	㉔ 高田	
㉕ 野川光松浅衛尾	㉕ 高田	
㉖ 野川光松浅衛尾	㉖ 高田	
㉗ 野川光松浅衛尾	㉗ 高田	
㉘ 野川光松浅衛尾	㉘ 高田	
㉙ 野川光松浅衛尾	㉙ 高田	
㉚ 野川光松浅衛尾	㉚ 高田	
㉛ 野川光松浅衛尾	㉛ 高田	
㉜ 野川光松浅衛尾	㉜ 高田	
㉝ 野川光松浅衛尾	㉝ 高田	
㉞ 野川光松浅衛尾	㉞ 高田	
㉟ 野川光松浅衛尾	㉟ 高田	
㊱ 野川光松浅衛尾	㊱ 高田	
㊲ 野川光松浅衛尾	㊲ 高田	
㊳ 野川光松浅衛尾	㊳ 高田	
㊴ 野川光松浅衛尾	㊴ 高田	
㊵ 野川光松浅衛尾	㊵ 高田	
㊶ 野川光松浅衛尾	㊶ 高田	
㊷ 野川光松浅衛尾	㊷ 高田	
㊸ 野川光松浅衛尾	㊸ 高田	
㊹ 野川光松浅衛尾	㊹ 高田	
㊺ 野川光松浅衛尾	㊺ 高田	
㊻ 野川光松浅衛尾	㊻ 高田	
㊼ 野川光松浅衛尾	㊼ 高田	
㊽ 野川光松浅衛尾	㊽ 高田	
㊾ 野川光松浅衛尾	㊾ 高田	
㊿ 野川光松浅衛尾	㊿ 高田	
㊿	FB	交代

第75回全国高校大会 県中部予選



第75回全国高校大会 福岡県予選



2回戦 R:吉丸(福岡)
平成7年10月8日(日)福岡工業
修猷館106(56-0)0 柏陵
50-0

10	T	0
8	G	0
3	PG	0
5	DG	0
0	反則	0
0		0
0		0
0		0
0		0
2		11
①廣曾	FW	①武井
②中松		②荒山
③阿倉		③山長
④久真		④藤藤
⑤松南		⑤山山
⑥光川		⑥松寺
⑦浅川		⑦西重
⑧尾隈	HB	⑧園井
⑨園井		⑨園井
⑩園井		⑩園井
⑪園井		⑪園井
⑫園井		⑫園井
⑬園井		⑬園井
⑭園井		⑭園井
⑮園井		⑮園井
⑯園井		⑯園井
⑰園井		⑰園井
⑱園井		⑱園井
⑲園井		⑲園井
⑳園井		⑳園井
㉑園井		㉑園井
㉒園井		㉒園井
㉓園井		㉓園井
㉔園井		㉔園井
㉕園井		㉕園井
㉖園井		㉖園井
㉗園井		㉗園井
㉘園井		㉘園井
㉙園井		㉙園井
㉚園井		㉚園井
㉛園井		㉛園井
㉜園井		㉜園井
㉝園井		㉝園井
㉞園井		㉞園井
㉟園井		㉟園井
㊱園井		㊱園井
㊲園井		㊲園井
㊳園井		㊳園井
㊴園井		㊴園井
㊵園井		㊵園井
㊶園井		㊶園井
㊷園井		㊷園井
㊸園井		㊸園井
㊹園井		㊹園井
㊺園井		㊺園井
㊻園井		㊻園井
㊼園井		㊼園井
㊽園井		㊽園井
㊾園井		㊾園井
㊿園井		㊿園井

1回戦 R:岩下(日本)
平成7年10月29日(日)修猷館
西南3(0-3)17 修猷館
3-14

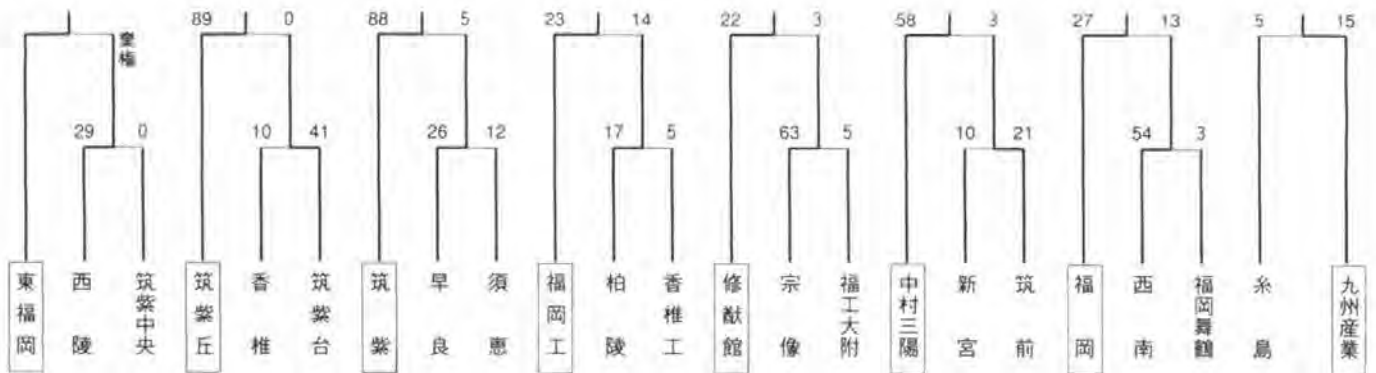
0	T	0
0	G	2
0	PG	0
0	DG	2
0	反則	1
14		21
①佐中	FW	①廣曾
②光松		②中松
③段森		③阿倉
④末上		④久真
⑤代井		⑤松南
⑥高播		⑥光川
⑦野野		⑦浅川
⑧池田	HB	⑧尾隈
⑨池田		⑨園井
⑩池田		⑩園井
⑪池田		⑪園井
⑫池田		⑫園井
⑬池田		⑬園井
⑭池田		⑭園井
⑮池田		⑮園井
⑯池田		⑯園井
⑰池田		⑰園井
⑱池田		⑱園井
⑲池田		⑲園井
⑳池田		⑳園井
㉑池田		㉑園井
㉒池田		㉒園井
㉓池田		㉓園井
㉔池田		㉔園井
㉕池田		㉕園井
㉖池田		㉖園井
㉗池田		㉗園井
㉘池田		㉘園井
㉙池田		㉙園井
㉚池田		㉚園井
㉛池田		㉛園井
㉜池田		㉜園井
㉝池田		㉝園井
㉞池田		㉞園井
㉟池田		㉟園井
㊱池田		㊱園井
㊲池田		㊲園井
㊳池田		㊳園井
㊴池田		㊴園井
㊵池田		㊵園井
㊶池田		㊶園井
㊷池田		㊷園井
㊸池田		㊸園井
㊹池田		㊹園井
㊺池田		㊺園井
㊻池田		㊻園井
㊼池田		㊼園井
㊽池田		㊽園井
㊾池田		㊾園井
㊿池田		㊿園井

2回戦 R:岩下(日本)
平成7年11月5日(日)舞鶴G
修猷館10(0-6)12 筑紫丘
10-6

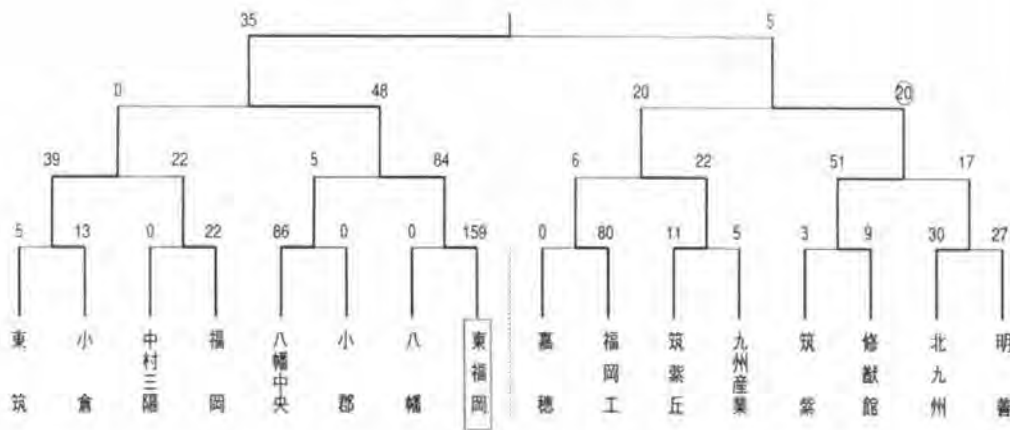
0	T	0
1	G	0
0	PG	2
0	DG	2
0	反則	0
13		12
①中佐	FW	①石川
②佐松		②大安
③阿倉		③安富
④久真		④森安
⑤松南		⑤安富
⑥光川		⑥森安
⑦浅川		⑦森安
⑧尾隈	HB	⑧島早
⑨園井		⑨熊森
⑩園井		⑩穴原
⑪園井		⑪白馬
⑫園井		⑫白馬
⑬園井		⑬白馬
⑭園井		⑭白馬
⑮園井		⑮白馬
⑯園井		⑯白馬
⑰園井		⑰白馬
⑱園井		⑱白馬
⑲園井		⑲白馬
⑳園井		⑳白馬
㉑園井		㉑白馬
㉒園井		㉒白馬
㉓園井		㉓白馬
㉔園井		㉔白馬
㉕園井		㉕白馬
㉖園井		㉖白馬
㉗園井		㉗白馬
㉘園井		㉘白馬
㉙園井		㉙白馬
㉚園井		㉚白馬
㉛園井		㉛白馬
㉜園井		㉜白馬
㉝園井		㉝白馬
㉞園井		㉞白馬
㉟園井		㉟白馬
㊱園井		㊱白馬
㊲園井		㊲白馬
㊳園井		㊳白馬
㊴園井		㊴白馬
㊵園井		㊵白馬
㊶園井		㊶白馬
㊷園井		㊷白馬
㊸園井		㊸白馬
㊹園井		㊹白馬
㊺園井		㊺白馬
㊻園井		㊻白馬
㊼園井		㊼白馬
㊽園井		㊽白馬
㊾園井		㊾白馬
㊿園井		㊿白馬



第18回全九州高校新人大会
県中部予選



第18回全九州高校新人大会
福岡県予選



2回戦 R: 瀬尾(九州)
平成8年1月14日(日)筑前
修猷館 22 (12-3) 3 宗像

22	T	{ 0
0	G	{ 0
0	PG	{ 0
0	DG	{ 0
0	反則	{ 0
18	FW	{ 14
1	HB	{ 1
2	TB	{ 2
3	FB交代	{ 3

① 德安藤 ② 藤山一山 ③ 藤山一山 ④ 藤山一山 ⑤ 藤山一山 ⑥ 藤山一山 ⑦ 藤山一山 ⑧ 藤山一山 ⑨ 藤山一山 ⑩ 藤山一山 ⑪ 藤山一山 ⑫ 藤山一山 ⑬ 藤山一山 ⑭ 藤山一山 ⑮ 藤山一山

1回戦 R: 岩下(日本)
平成8年1月21日(日)福岡工業
筑紫 3 (3-6) 9 修猷館

0	T	{ 0
0	G	{ 0
0	PG	{ 0
0	DG	{ 0
10	反則	{ 10
1	FW	{ 1
2	HB	{ 2
3	TB	{ 3
4	FB交代	{ 4

① 近森 ② 赤藤 ③ 榎武高 ④ 江藤大堀 ⑤ 濱真吉 ⑥ 藤原 ⑦ 藤原 ⑧ 藤原 ⑨ 藤原 ⑩ 藤原 ⑪ 藤原 ⑫ 藤原 ⑬ 藤原 ⑭ 藤原 ⑮ 藤原

2回戦 R: 御領園(九州)
平成8年1月28日(日)久留米大
修猷館 51 (24-10) 17 北九州

4	T	{ 1
4	G	{ 1
2	PG	{ 1
2	DG	{ 1
18	反則	{ 4
1	FW	{ 1
2	HB	{ 2
3	TB	{ 3
4	FB交代	{ 4

① 德安藤 ② 藤山一山 ③ 藤山一山 ④ 藤山一山 ⑤ 藤山一山 ⑥ 藤山一山 ⑦ 藤山一山 ⑧ 藤山一山 ⑨ 藤山一山 ⑩ 藤山一山 ⑪ 藤山一山 ⑫ 藤山一山 ⑬ 藤山一山 ⑭ 藤山一山 ⑮ 藤山一山

準決勝2 R: 御領園(九州)
平成8年2月3日(土)久留米大
筑紫丘 20 (3-10) 20 修猷館

0	T	{ 2
0	G	{ 0
0	PG	{ 0
0	DG	{ 0
0	反則	{ 10
1	FW	{ 1
2	HB	{ 2
3	TB	{ 3
4	FB交代	{ 4

① 簡栗明山池今 ② 藤山一山 ③ 藤山一山 ④ 藤山一山 ⑤ 藤山一山 ⑥ 藤山一山 ⑦ 藤山一山 ⑧ 藤山一山 ⑨ 藤山一山 ⑩ 藤山一山 ⑪ 藤山一山 ⑫ 藤山一山 ⑬ 藤山一山 ⑭ 藤山一山 ⑮ 藤山一山

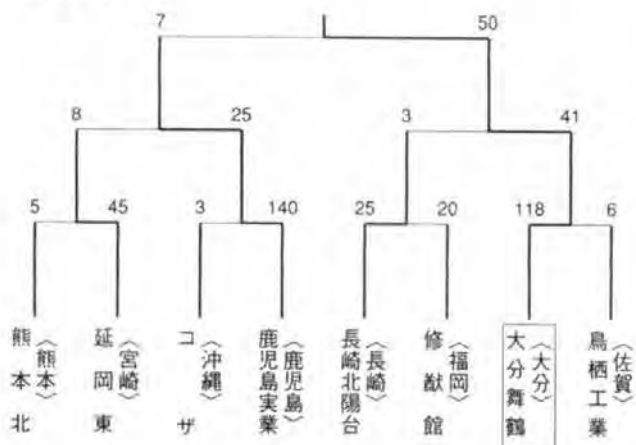
決勝 R: 江頭(九州)
平成8年2月4日(日)久留米大
修猷館 5 (5-28) 35 東福岡

1	T	{ 4
0	G	{ 1
0	PG	{ 0
0	DG	{ 0
0	反則	{ 12
1	FW	{ 1
2	HB	{ 2
3	TB	{ 3
4	FB交代	{ 4

① 德安藤 ② 藤山一山 ③ 藤山一山 ④ 藤山一山 ⑤ 藤山一山 ⑥ 藤山一山 ⑦ 藤山一山 ⑧ 藤山一山 ⑨ 藤山一山 ⑩ 藤山一山 ⑪ 藤山一山 ⑫ 藤山一山 ⑬ 藤山一山 ⑭ 藤山一山 ⑮ 藤山一山

第18回全九州高校新人大会

Bブロック



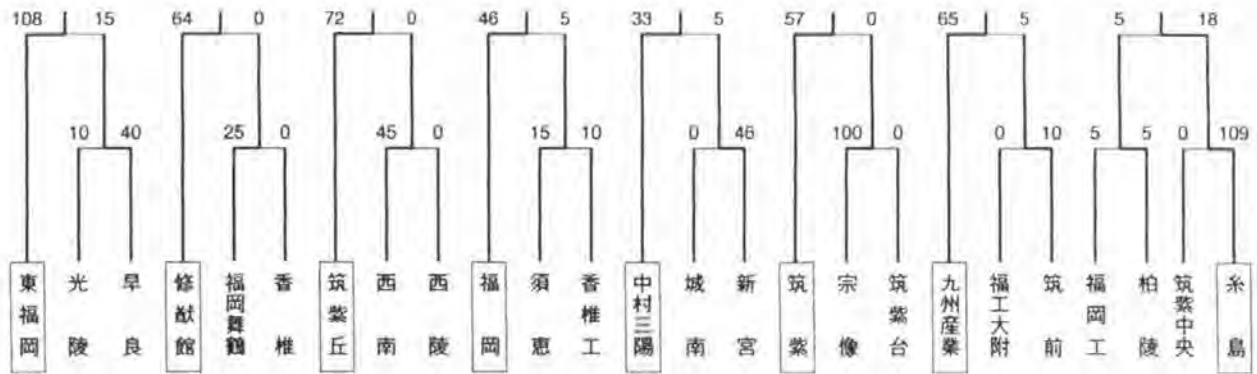
1回戦 R:古賀(九州)
 平成8年2月17日(土)大村工業
 長崎北陽台(15-7)修猷館
 高等学校(10-13)高等学校

2	T	1	島西原
2	G	1	江本
1	PG	1	藤林
0	DG	0	尻隈
0	反則	0	園座
0		0	吉田
0		0	名山
1	FW	7	徳安
1		1	藤一
1		2	山佐
0		0	北川
0		0	松南
0		0	左三
0		0	浅新
0		0	深
0	HB	7	阿柴
0		1	立今
0		1	打白
0		1	鈴三
0		1	藤
0	TB	1	松本
0		1	野川
0		1	岳留
0		1	田川
0		1	崎山
0		1	浦岡
0	FB	1	比
0		1	岩佐
0		1	松小
0		1	吉川
0		1	阿柴
0		1	立今
0		1	打白
0		1	鈴三
0		1	藤

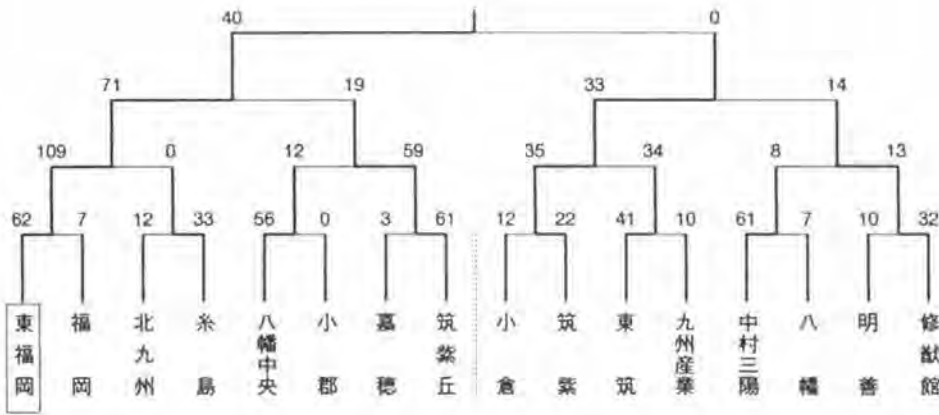


戦い終えて… 平成16年11月13日・博多の森
 撮影・吉村公介氏(昭和32年卒)

第49回全九州高校大会 中部予選



第49回全九州高校大会 福岡県予選



第2回戦 R: 加藤(福岡)
平成8年5月12日(日) 香椎高校

修猷館 64 (42-0) 0 舞鶴

8	T	0
4	G	0
1	PG	0
1	DG	0
0	反則	0
0		6
5		6
①	FW	①
②		②
③		③
④		④
⑤		⑤
⑥		⑥
⑦		⑦
⑧		⑧
⑨		⑨
⑩		⑩
⑪		⑪
⑫		⑫
⑬		⑬
⑭		⑭
⑮		⑮
和佐北島		

田野川 田山井 堤 川島村 江崎盛崎 田
春藤 藤寺石吉 江中野 永尾増 鎌植

第1回戦 R: 牟田口(九州)
平成8年5月19日(日) 城南高校

明善 10 (0-17) 32 修猷館

0	T	3
1	G	3
0	PG	1
1	DG	0
0	反則	0
8		16
①	FW	①
②		②
③		③
④		④
⑤		⑤
⑥		⑥
⑦		⑦
⑧		⑧
⑨		⑨
⑩		⑩
⑪		⑪
⑫		⑫
⑬		⑬
⑭		⑭
⑮		⑮
里高		
②		
③		
④		
⑤		
⑥		
⑦		
⑧		
⑨		
⑩		
⑪		
⑫		
⑬		
⑭		
⑮		

村木(勸)子原(崇) 柳松(尚) 手隈(尚) 島本(尚)

徳安藤一山田北川松南左三浅新深 佐佐木 藤原

第2回戦 R: 江頭(九州)
平成8年5月25日(土) 本城

中村 8 (3-8) 13 修猷館

0	T	1
1	G	0
0	PG	0
1	DG	0
0	反則	0
13		11
①	FW	①
②		②
③		③
④		④
⑤		⑤
⑥		⑥
⑦		⑦
⑧		⑧
⑨		⑨
⑩		⑩
⑪		⑪
⑫		⑫
⑬		⑬
⑭		⑭
⑮		⑮
古田船橋福古山野安棚西廣宇吉伊谷 島船		

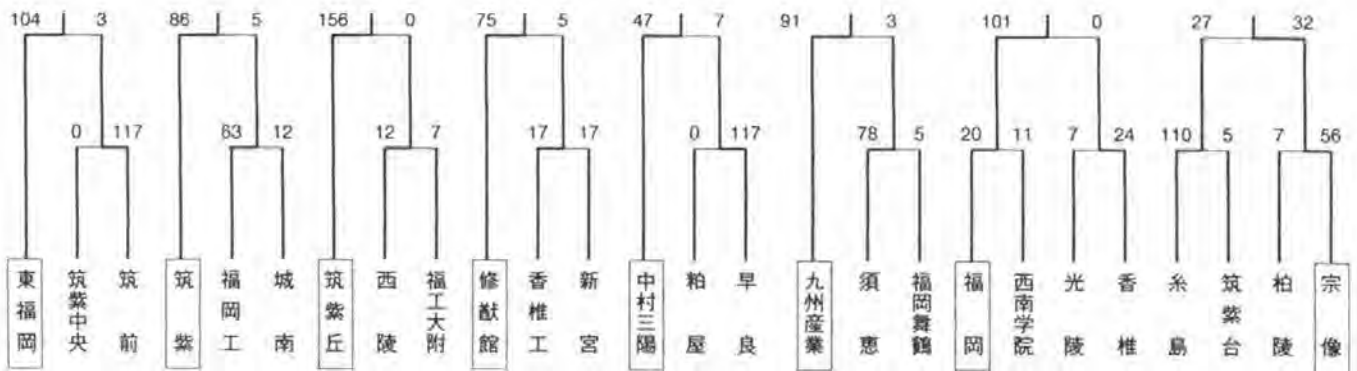
準決勝2 R: 御領園(九州)
平成8年5月26日(日) 本城

筑紫 33 (19-11) 14 修猷館

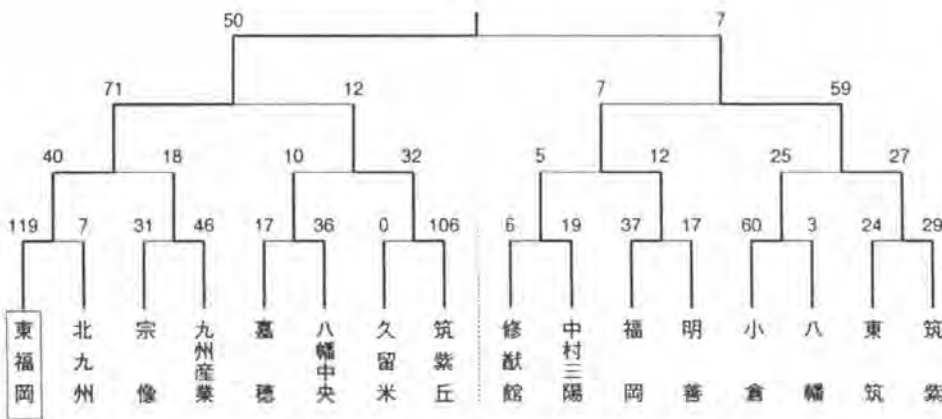
3	T	1
2	G	0
2	PG	0
2	DG	2
0	反則	0
0		7
10		7
①	FW	①
②		②
③		③
④		④
⑤		⑤
⑥		⑥
⑦		⑦
⑧		⑧
⑨		⑨
⑩		⑩
⑪		⑪
⑫		⑫
⑬		⑬
⑭		⑭
⑮		⑮
近森赤生樋高武江吉大生濱真堀横		



第76回全国高校大会 県中部予選



第76回全国高校大会 福岡県予選



2回戦 R:牟田口(九州)
平成8年10月6日(日)福岡工
修猷館 75 (41-0) 5 香椎工

7	T	0	田田越瀬野富田島井本
6	G	1	① 富笹船荒城吉秋佐石金印
3	PG	0	② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯
2	DG	0	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯
0	反則	8	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯
0	FW	0	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯
0	HB	0	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯
0	TB	0	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯
13	FB交代	0	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯

1回戦 R:中村(九州)

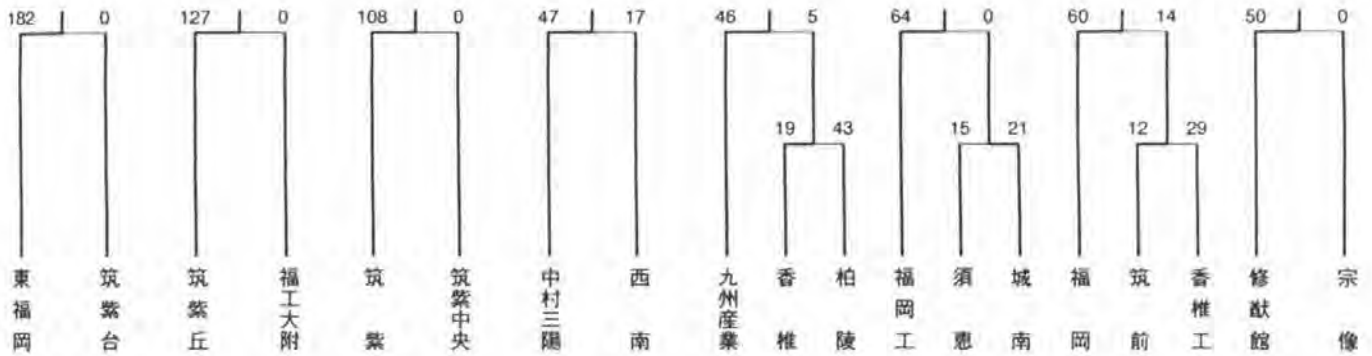
平成8年10月27日(日)修猷館高

修猷館 6 (6-12) 19 中三 村陽

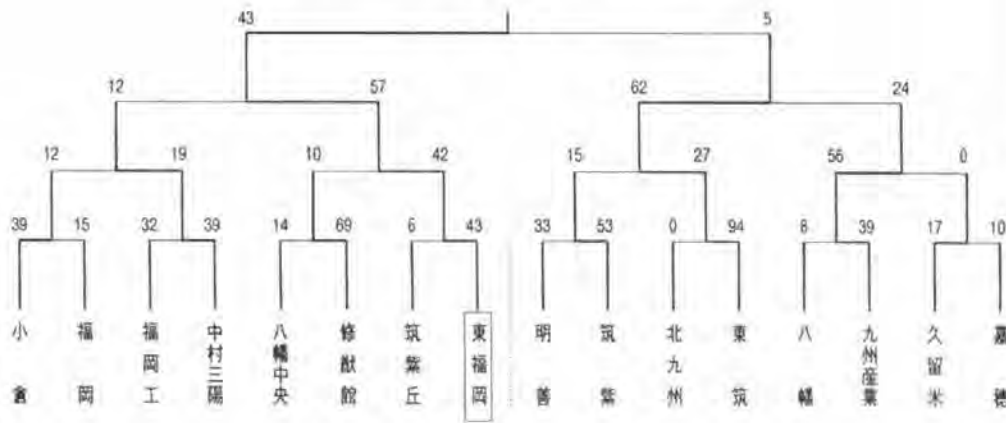
0	T	2	澤代垣地島川田上部波村門田村藤
0	G	1	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯
0	PG	0	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯
2	DG	0	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯
0	反則	6	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯
16	FW	0	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯
0	HB	0	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯
0	TB	0	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯
0	FB交代	0	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯



第19回全九州高校新人大会
県中部予選



第19回全九州高校新人大会
福岡県予選



2回戦 R:吉丸(九州)
平成9年1月12日(日)筑前
修猷館 48 (24-0) 0 宗像

4	T	0	
4	T	0	
2	G	0	
2	G	0	
0	PG	0	
0	PG	0	
0	DG	0	
0	DG	0	
14	反則	11	
①北中	FW	川林	
②藤原			①中
③左野			②林
④田野			③竹
⑤黒野			④島
⑥徳野			⑤口
⑦徳山			⑥森
⑧一山			⑦崎
⑨深野			⑧野
⑩山田			⑨内
⑪南田			⑩江
⑫増田			⑪邊
⑬増河			⑫田
⑭河			⑬尾
⑮			⑭江
	⑮井		
	FB交代		

1回戦 R:藤(九州)
平成9年1月19日(日)東福岡
八幡中央 14 (14-29) 69 修猷館

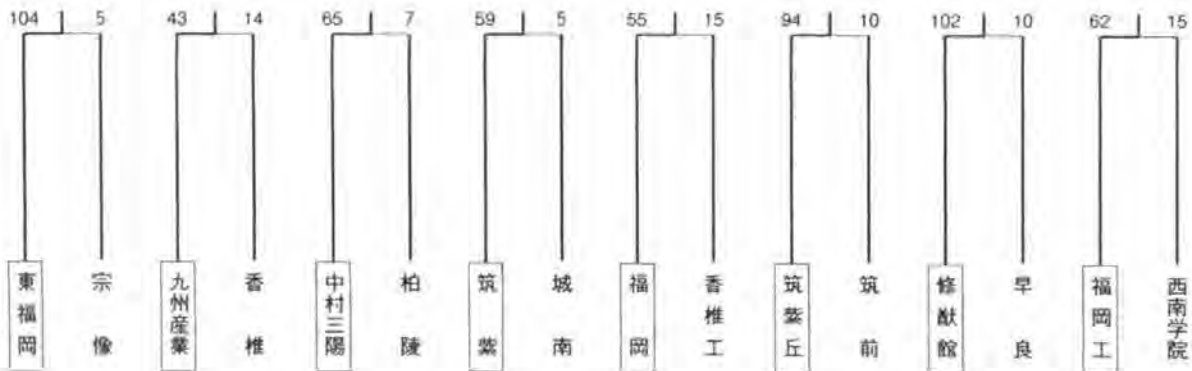
2	T	5	
0	T	6	
2	G	2	
2	G	5	
0	PG	0	
0	PG	0	
0	DG	0	
0	DG	0	
0	反則	9	
6	FW	原村原座中田島本江山田岡村手田①	
①長西			①北
②正原			②中
③林野			③藤
④来野			④左
⑤宮野			⑤田
⑥小野			⑥黒
⑦田野			⑦徳
⑧山野			⑧山
⑨小野			⑨一
⑩腹野			⑩深
⑪加大			⑪増
⑫大田			⑫南
⑬			⑬田
⑭			⑭河
⑮	⑮河		
	FB交代		

2回戦 R:瀬尾(九州)
平成9年1月26日(日)久留米大
修猷館 10 (5-12) 42 東福岡

1	T	2	
1	T	4	
0	G	1	
0	G	2	
0	PG	0	
0	PG	0	
0	DG	0	
0	DG	0	
12	反則	14	
①北池	FW	上玉月原岡村田原原輔勢田神井尾	
②中児			①池
③藤松			②松
④左篠			③磯
⑤田黒			④中
⑥田黒			⑤山
⑦徳山			⑥桑
⑧一山			⑦田
⑨深野			⑧白
⑩山田			⑨伊
⑪南田			⑩永
⑫増田			⑪大
⑬増河			⑫酒
⑭河			⑬松
⑮			⑭
	FB		



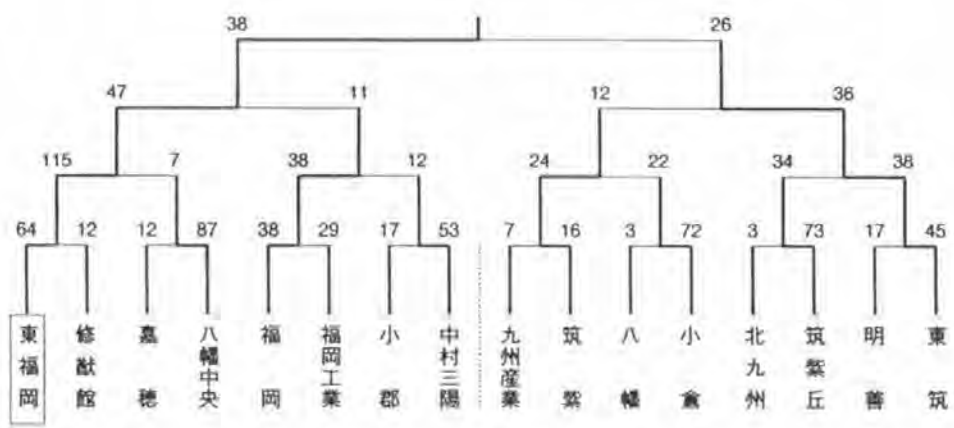
第50回全九州高校大会 中部予選



第1回戦 R:石本(九州)
 平成9年5月11日(日)香椎工
 修猷館 102 (50-5) 10早良

8	T	1
8	G	0
5	PG	0
6	DG	0
0	反則	0
0		0
0		0
0		0
9	FW	7
①北田		①渡古
②藤原		②高山
③左黒		③中山
④徳中		④菅山
⑤一深		⑤田下
⑥南田		⑥長谷
⑦河増		⑦山田
⑧本		⑧安片
⑨		⑨隈平
⑩		⑩田真
⑪		⑪
⑫		⑫
⑬		⑬
⑭		⑭
⑮		⑮
⑯		⑯
⑰		⑰
⑱		⑱
⑲		⑲
⑳		⑳
㉑		㉑
㉒		㉒
㉓		㉓
㉔		㉔
㉕		㉕
㉖		㉖
㉗		㉗
㉘		㉘
㉙		㉙
㉚		㉚
㉛		㉛
㉜		㉜
㉝		㉝
㉞		㉞
㉟		㉟
㊱		㊱
㊲		㊲
㊳		㊳
㊴		㊴
㊵		㊵
㊶		㊶
㊷		㊷
㊸		㊸
㊹		㊹
㊺		㊺

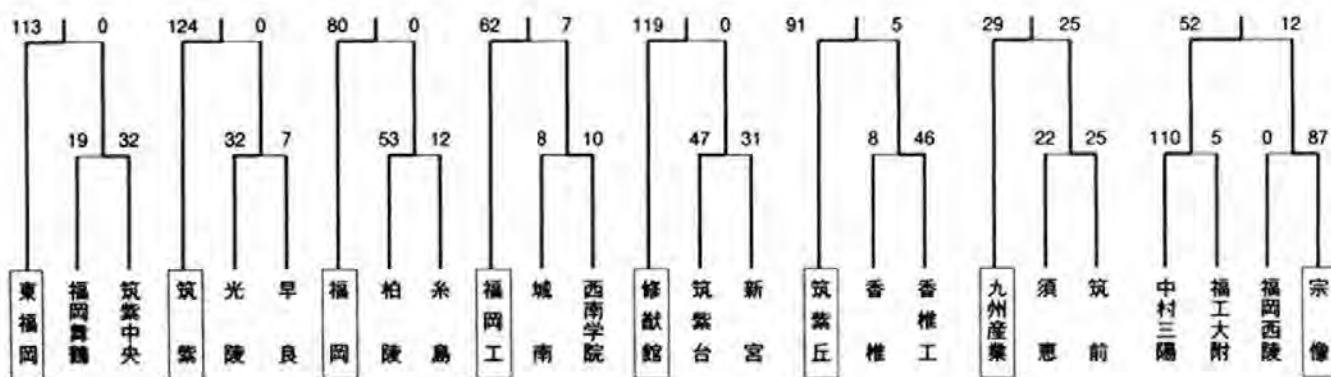
第50回全九州高校大会 福岡県予選



第1回戦 R:御領園(九州)
 平成9年5月18日(日)福岡工業
 東福岡 64 (17-7) 12修猷館

3	T	1
7	G	1
1	PG	0
6	DG	0
0	反則	0
0		0
0		0
8	FW	9
①長池		①北中
②松		②藤原
③藤		③原一
④藤		④黒
⑤藤		⑤徳
⑥藤		⑥山
⑦藤		⑦川
⑧藤		⑧伊
⑨藤		⑨南
⑩藤		⑩田
⑪藤		⑪深
⑫藤		⑫田
⑬藤		⑬南
⑭藤		⑭河
⑮藤		⑮増
⑯藤		⑯左
⑰藤		⑰座
⑱藤		⑱
㉑藤		㉑
㉒藤		㉒
㉓藤		㉓
㉔藤		㉔
㉕藤		㉕
㉖藤		㉖
㉗藤		㉗
㉘藤		㉘
㉙藤		㉙
㉚藤		㉚
㉛藤		㉛
㉜藤		㉜
㉝藤		㉝
㉞藤		㉞
㉟藤		㉟
㊱藤		㊱
㊲藤		㊲
㊳藤		㊳
㊴藤		㊴
㊵藤		㊵
㊶藤		㊶
㊷藤		㊷
㊸藤		㊸
㊹藤		㊹
㊺藤		㊺

第77回全国高校大会 県中部予選

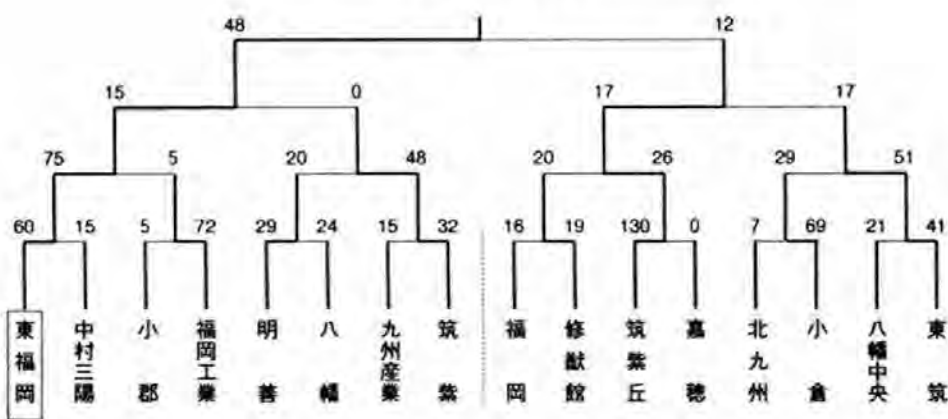


第77回全国高校大会 福岡県予選

第2回戦 R:石蔵(九州)
平成9年10月12日(日) 筑紫丘

修猷館 119 (62-0) 0 筑紫丘

10	9	T	{	0	
6	6	G	{	0	
6	0	PG	{	0	
0	0	DG	{	0	
0	0	反則	{	0	
0	2			16	
①	北田藤	FW	{	①	村竹木
②	藤左			②	上田
③	河黑			③	宮田
④	中德			④	柳野
⑤	川深			⑤	木村
⑥	深南	HB	{	⑥	林田
⑦	南増			⑦	宮
⑧	佐一			⑧	小石
⑨	原中			⑨	高野
⑩	原座			⑩	今小
⑪	手田	TB	{	⑪	石野
⑫	村島			⑫	木村
⑬	本尻			⑬	林田
⑭	山田			⑭	野宮
⑮	田藤			⑮	宮
⑯	江	FB	{	⑯	小



1回戦 R:石本(九州)
平成9年10月26日(日) 西南高校

福岡 16 (6-7) 19 修猷館

0	1	T	{	2	
1	0	G	{	1	
1	1	PG	{	0	
2	1	DG	{	0	
0	0	反則	{	0	
7	0			16	
①	潮	FW	{	①	北田藤
②	古高			②	藤左
③	矢野			③	中左
④	林			④	黑德
⑤	林			⑤	山山
⑥	八長	HB	{	⑥	山山
⑦	澤			⑦	深田
⑧	井			⑧	深田
⑨	井			⑨	南増
⑩	井			⑩	佐一
⑪	深城	TB	{	⑪	原中
⑫	城			⑫	原座
⑬	玉			⑬	手田
⑭	西			⑭	村島
⑮	西			⑮	本尻

2回戦 R:御領園(九州)
平成9年11月2日(日) 西南高校

修猷館 20 (8-5) 26 筑紫丘

1	2	T	{	3	
2	0	G	{	3	
1	1	PG	{	0	
0	0	DG	{	0	
0	0	反則	{	0	
13	0			11	
①	簡	FW	{	①	井室
②	三德			②	重山
③	福池			③	末田
④	水山			④	井坂
⑤	土山			⑤	本野
⑥	德熊	HB	{	⑥	水田
⑦	今德			⑦	宮
⑧	高			⑧	白
⑨	森			⑨	白
⑩	高			⑩	白



平成10年度

第20回全九州高校新人大会
県中部予選

153	0	84	0	57	7	55	0	44	5	91	0	93	0	5	10
東	光	筑	新	筑	西南	修	筑	福	香	福	須	九	香	中	宗
福	陵	紫	宮	柴	学院	猷	前	岡	椎	岡	惠	州	椎	村	像
岡		紫		丘		館			工	工		産		三	
												業		陽	像

第20回全九州高校新人大会
福岡県予選

79				17				0				54											
26		25		26		19		12		5		0		67		12		54		0		74	
東	筑	筑	八	小	北	修	嘉	明	福	小	宗	九	福	八	東								
福	豊	紫	幡	倉	九州	猷	穂	善	岡	郡	倉	州	岡	幡	京								
岡			中央			館						産	工										

1回戦 R: 牟田(九州)
平成10年1月11日(日)筑前高校
修猷館55(17-0)0筑前

3	T	0
6	G	0
1	PG	0
4	PG	0
0	DG	0
0	DG	0
0	反則	0
10	反則	12
①北原	FW	①尊藤
②長谷		②中坂
③左藤		③下内
④小藤		④荒川
⑤小藤		⑤荒川
⑥荒川	HB	⑥大友
⑦河梅		⑦正生
⑧正佐		⑧小黒
⑨佐小		⑨田野
⑩田原	FB交代	⑩田原
⑪田原		⑪田原
⑫田原		⑫田原
⑬田原		⑬田原

1回戦 R: 石蔵(九州)
平成10年1月18日(日)東福岡
修猷館80(41-0)0嘉穂

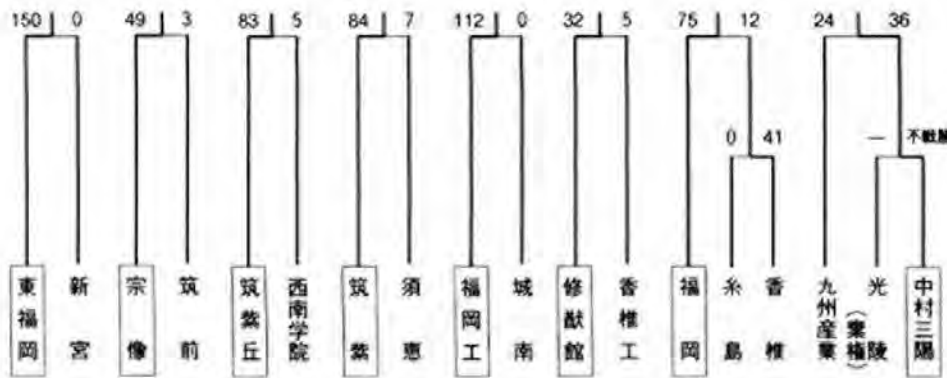
7	T	0
7	G	0
3	PG	0
2	PG	0
0	DG	0
0	DG	0
0	反則	0
8	反則	13
①北原	FW	①池大
②長谷		②藤深
③左藤		③平井
④小藤		④荒川
⑤小藤		⑤荒川
⑥荒川	HB	⑥花下
⑦河梅		⑦上藤
⑧正佐		⑧北古
⑨佐小		⑨田宮
⑩田原	FB交代	⑩田原
⑪田原		⑪田原
⑫田原		⑫田原
⑬田原		⑬田原

2回戦 R: 荒牧(九州)
平成10年1月25日(日)久留米大
小倉26(14-12)19修猷館

2	T	2
2	G	1
2	PG	1
1	PG	0
0	DG	0
0	DG	0
0	反則	0
10	反則	9
①友羽	FW	①北原
②久安		②藤本
③安柴		③左藤
④古上		④荒川
⑤古上		⑤荒川
⑥古上	HB	⑥荒川
⑦古上		⑦河梅
⑧古上		⑧正佐
⑨古上		⑨佐小
⑩古上	FB交代	⑩田原
⑪古上		⑪田原
⑫古上		⑫田原
⑬古上		⑬田原



第51回全九州高校大会 中部予選



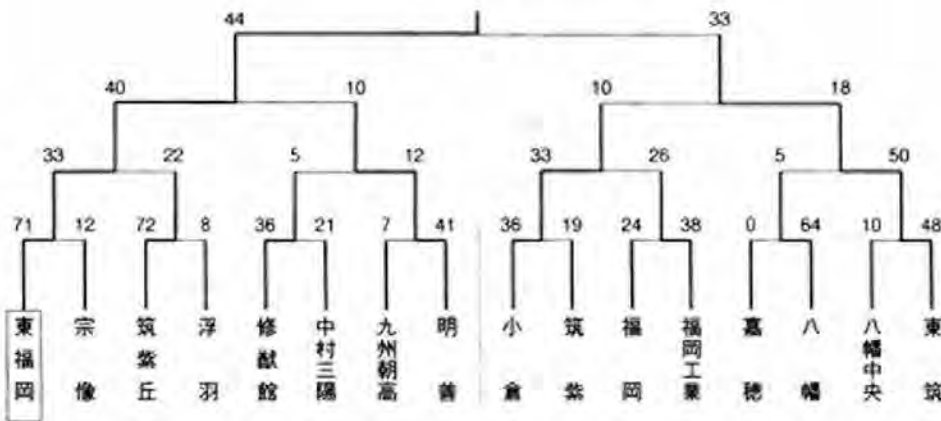
第2回戦 R: 杉山(九州)
平成10年5月17日(日) 光陵高校
修猷館 32 (22-0) 5 善工 椎葉

4	T	0
2	G	1
1	PG	0
0	DG	0
0	反則	0
0	FW	16
0	HB	1
0	TB	1
0	FB	1
0	交代	1

①北原 ②長谷 ③本山 ④小左 ⑤荒川 ⑥河田 ⑦正田 ⑧山佐 ⑨梅本 ⑩原島 ⑪川田 ⑫坪塚 ⑬神尻 ⑭中田 ⑮原家 ⑯藤本

①佐々木 ②大野 ③山本 ④阿部 ⑤小川 ⑥山下 ⑦古川 ⑧竹松 ⑨石山 ⑩本下 ⑪小畑 ⑫橋下

第51回全国高校大会 福岡県予選



第1回戦 R: 石本(九州)
平成10年5月24日(日) 福岡競艇場
修猷館 26 (12-0) 21 中三 村尾

2	T	0
2	G	3
1	PG	0
2	DG	0
0	反則	0
0	FW	7
0	HB	1
0	TB	1
0	FB	1
0	交代	1

①北原 ②長谷 ③本山 ④小左 ⑤荒川 ⑥河田 ⑦正田 ⑧山佐 ⑨梅本 ⑩原島 ⑪川田 ⑫坪塚 ⑬神尻 ⑭中田 ⑮原家 ⑯藤本

①上野 ②森 ③青森 ④安藤 ⑤脇田 ⑥天倉 ⑦岩門 ⑧古小 ⑨山上 ⑩末

野田 木部 川門 坂本 員 隈谷 澤川 田

第2回戦 R: 荒牧(九州)
平成10年5月31日(日) 本城運動場
修猷館 5 (0-12) 12 明善

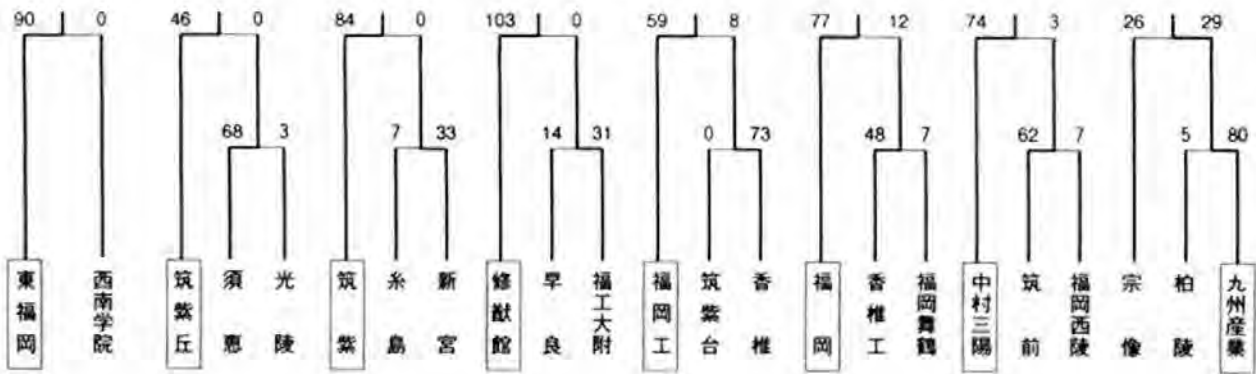
0	T	2
1	G	1
0	PG	0
0	DG	0
0	反則	0
9	FW	13
0	HB	1
0	TB	1
0	FB	1
0	交代	1

①北原 ②長谷 ③本山 ④小左 ⑤荒川 ⑥河田 ⑦正田 ⑧山佐 ⑨梅本 ⑩原島 ⑪川田 ⑫坪塚 ⑬神尻 ⑭中田 ⑮原家 ⑯藤本

行藤 岡村 園田 堀田 橋本 嶋田 野次 吉木



第78回全国高校大会 県中部予選



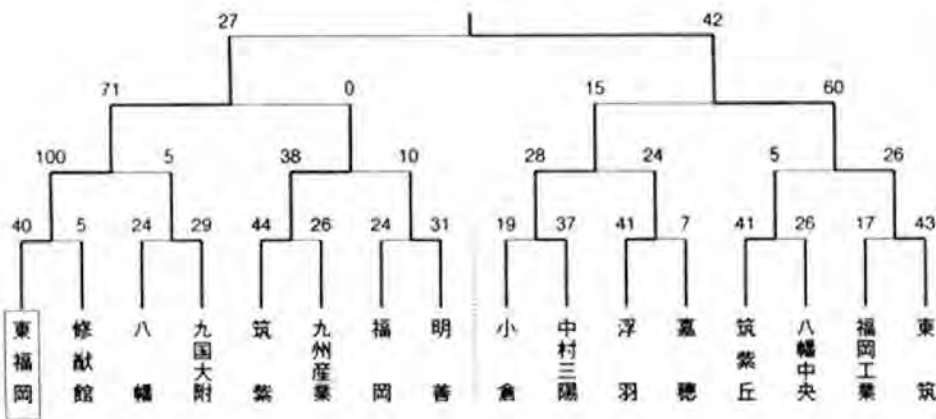
第2回戦 R:三浦(九州)
平成10年10月4日(日)筑紫丘教
修猷館103(50-0)0 福大工附

8	T	0
9	G	0
5	PG	0
4	DG	0
0	反則	0
0		8
5	FW	0
	HB	0
	TB	0
	FB	0
	交代	0

①北秋長藤小左藤荒川河田正田山佐藤
②本川家坪座田神尻手中田原口藤
③吉仲安松尾内原大池大小江
④中本吉仲安松尾内原大池大小江
⑤本川家坪座田神尻手中田原口藤
⑥原川家坪座田神尻手中田原口藤
⑦座田神尻手中田原口藤
⑧座田神尻手中田原口藤
⑨座田神尻手中田原口藤
⑩座田神尻手中田原口藤
⑪座田神尻手中田原口藤
⑫座田神尻手中田原口藤
⑬座田神尻手中田原口藤
⑭座田神尻手中田原口藤
⑮座田神尻手中田原口藤



第78回全国高校大会 福岡県予選



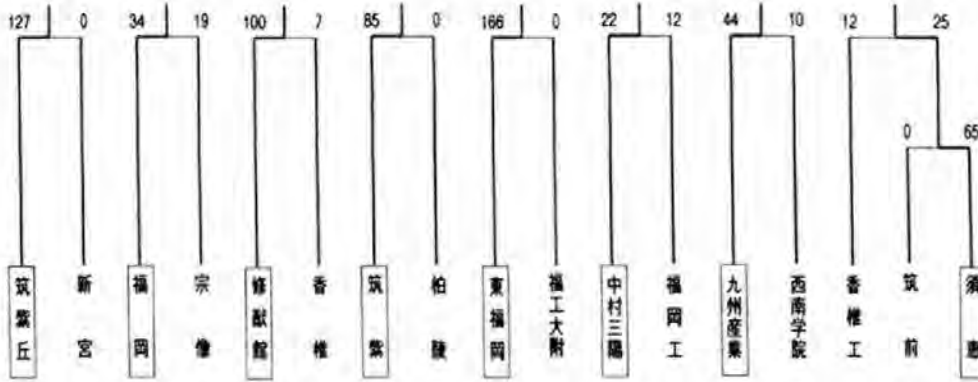
1回戦 R:杉山(九州)
平成10年10月11日(日)西南G
東福岡40(14-5)5 修猷館

2	T	1
4	G	0
2	PG	0
2	DG	0
3	反則	0
0		10
0	FW	0
0	HB	0
0	TB	0
0	FB	0
22	交代	0

①小谷 林 岡辺田 原野山 白山下 今高平 山下 高橋三
②北秋長藤小左藤荒川河田正田山佐藤
③本川家坪座田神尻手中田原口藤
④本川家坪座田神尻手中田原口藤
⑤本川家坪座田神尻手中田原口藤
⑥本川家坪座田神尻手中田原口藤
⑦本川家坪座田神尻手中田原口藤
⑧本川家坪座田神尻手中田原口藤
⑨本川家坪座田神尻手中田原口藤
⑩本川家坪座田神尻手中田原口藤
⑪本川家坪座田神尻手中田原口藤
⑫本川家坪座田神尻手中田原口藤
⑬本川家坪座田神尻手中田原口藤
⑭本川家坪座田神尻手中田原口藤
⑮本川家坪座田神尻手中田原口藤

平成11年度

第21回全九州高校新人大会
中部予選 Aブロック

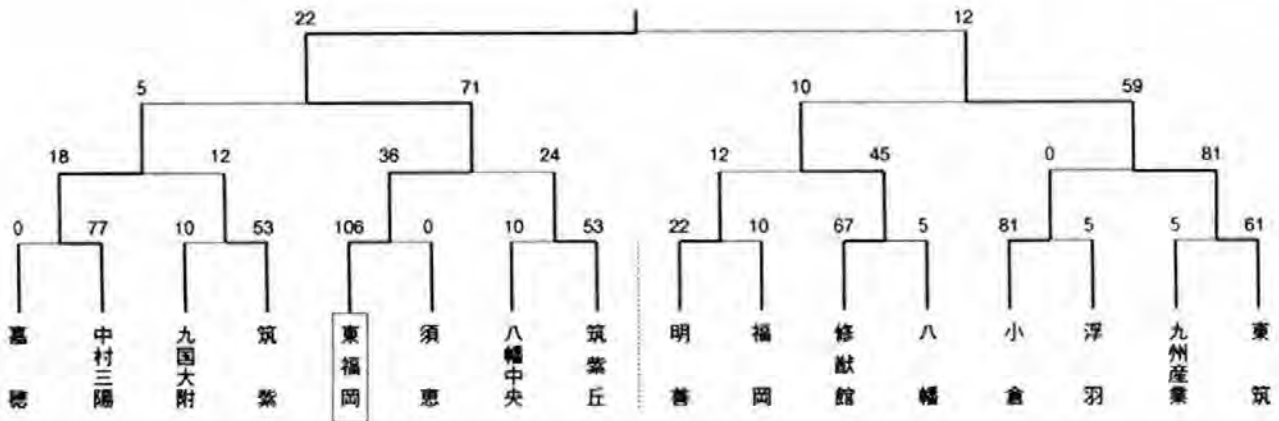


2回戦 R:吉丸(九州)
平成11年1月17日(日)糸島高校
修猷館100(48-0)7香椎

88 } T { 0
44 } G { 0
46 } PG { 0
00 } DG { 0
00 } 反則 { 9
00 } FW { 世
03 } HB { 大
03 } TB { 高
03 } FB交代 { 花
03 } 文代 { 安
03 } 有 { 津
03 } 吉 { 任
03 } 有 { 合
03 } 有 { 浦
03 } 有 { 白
03 } 有 { 村
03 } 有 { 二
03 } 有 { 岩
03 } 有 { 上
03 } 有 { 谷
03 } 有 { 江
03 } 有 { 永
03 } 有 { 上
03 } 有 { 宮
03 } 有 { 村
03 } 有 { 有
03 } 有 { 吉
03 } 有 { ⑥

① 児籙長中 ② 下秋荒川山田田 ③ 平佐 ④ 鈴若 ⑤ 鶴原川原 ⑥ 池本神尻口中 ⑦ 谷川藤木 ⑧ 大板光安村中桑 ⑨ 藤下五山石廣山 ⑩ 廣田 ⑪ 賀栗延田田竹原 ⑫ 内川路口井水田 ⑬ 津湖 ⑭ 西野 ⑮ 田中 ⑯ 野澤 ⑰ 山口 ⑱ 村田 ⑲ 田 ⑳ 田

第21回全九州高校新人大会
福岡県予選



1回戦 R:荒牧(九州)
平成11年1月24日(日)東福岡
修猷館67(43-0)5八幡

74 } T { 0
44 } G { 0
42 } PG { 0
00 } DG { 0
00 } 反則 { 9
14 } FW { 白
00 } HB { 小
00 } TB { 中
00 } FB交代 { 周
00 } 文代 { 伊
00 } 有 { 波
00 } 有 { 筒
00 } 有 { 杜
00 } 有 { 柴
00 } 有 { 日
00 } 有 { 山
00 } 有 { 野
00 } 有 { 久
00 } 有 { 福
00 } 有 { 飯
00 } 有 { 下
00 } 有 { 石
00 } 有 { 河
00 } 有 { 村
00 } 有 { 部
00 } 有 { 藤
00 } 有 { 戸
00 } 有 { 井
00 } 有 { 川
00 } 有 { 田
00 } 有 { 部
00 } 有 { 本
00 } 有 { 田
00 } 有 { 本
00 } 有 { 井
00 } 有 { 干

① 児籙長中 ② 下秋荒川山田田 ③ 平佐 ④ 鈴若 ⑤ 鶴原川原 ⑥ 池本神尻口中 ⑦ 谷川藤木 ⑧ 大板光安村中桑 ⑨ 藤下五山石廣山 ⑩ 廣田 ⑪ 賀栗延田田竹原 ⑫ 内川路口井水田 ⑬ 津湖 ⑭ 西野 ⑮ 田中 ⑯ 野澤 ⑰ 山口 ⑱ 村田 ⑲ 田 ⑳ 田

2回戦 R:荒牧(九州)
平成11年1月31日(日)久留米大
明善12(5-21)45修猷館

11 } T { 3
10 } G { 4
10 } PG { 2
00 } DG { 0
00 } 反則 { 16
06 } FW { 鶴
00 } HB { 原
00 } TB { 川
00 } FB交代 { 原
00 } 文代 { 池
00 } 有 { 本
00 } 有 { 神
00 } 有 { 尻
00 } 有 { 口
00 } 有 { 中
00 } 有 { 原
00 } 有 { 谷
00 } 有 { 川
00 } 有 { 藤
00 } 有 { 木
00 } 有 { 杉
00 } 有 { 若

① 中権和森神松水内馬水福小浅吉中 ② 塚 ③ 村藤泉光崎隈湖橋場水田西野原園 ④ 児籙長中 ⑤ 下秋荒川山田田 ⑥ 平佐 ⑦ 鈴若 ⑧ 鶴原川原 ⑨ 池本神尻口中 ⑩ 谷川藤木 ⑪ 大板光安村中桑 ⑫ 藤下五山石廣山 ⑬ 廣田 ⑭ 賀栗延田田竹原 ⑮ 内川路口井水田 ⑯ 津湖 ⑰ 西野 ⑱ 田中 ⑲ 野澤 ⑳ 山口 ㉑ 村田 ㉒ 田 ㉓ 田

準決勝2 R:杉山(九州)
平成11年2月6日(土)久留米大
修猷館10(3-26)59東筑

01 } T { 4
01 } G { 5
01 } PG { 3
01 } DG { 4
01 } 反則 { 7
08 } FW { 賀
00 } HB { 栗
00 } TB { 延
00 } FB交代 { 田
00 } 文代 { 田
00 } 有 { 竹
00 } 有 { 原
00 } 有 { 内
00 } 有 { 川
00 } 有 { 路
00 } 有 { 口
00 } 有 { 井
00 } 有 { 水
00 } 有 { 田
00 } 有 { 津
00 } 有 { 湖

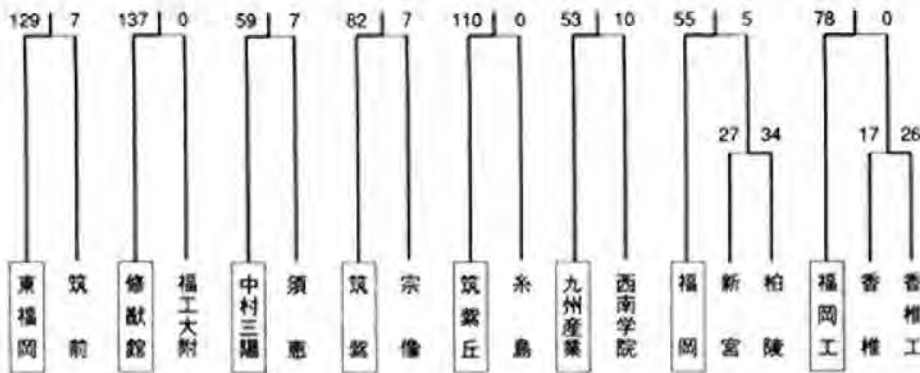
① 児籙長中 ② 下秋荒川山田田 ③ 平佐 ④ 鈴若 ⑤ 鶴原川原 ⑥ 池本神尻口中 ⑦ 谷川藤木 ⑧ 大板光安村中桑 ⑨ 藤下五山石廣山 ⑩ 廣田 ⑪ 賀栗延田田竹原 ⑫ 内川路口井水田 ⑬ 津湖 ⑭ 西野 ⑮ 田中 ⑯ 野澤 ⑰ 山口 ⑱ 村田 ⑲ 田 ⑳ 田

3位決定戦 R:加藤(九州)
平成11年2月7日(日)久留米大
中三村10(5-5)10修猷館

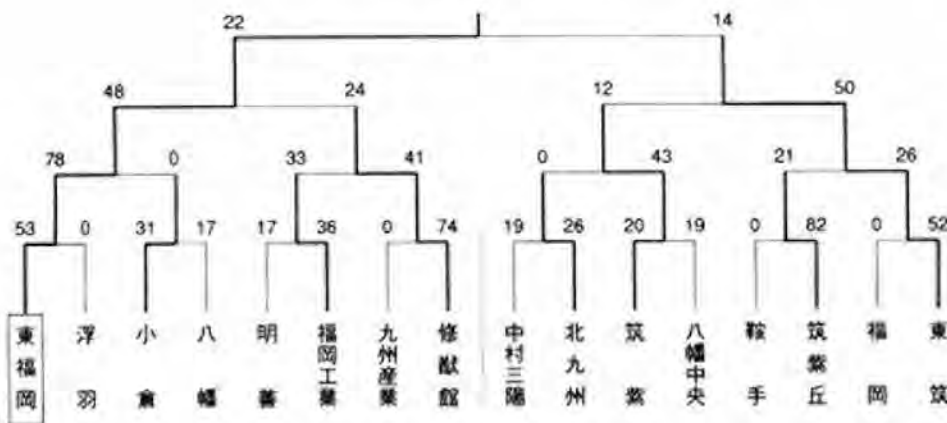
11 } T { 1
11 } G { 0
11 } PG { 0
11 } DG { 0
11 } 反則 { 12
13 } FW { 鶴
00 } HB { 原
00 } TB { 川
00 } FB交代 { 原
00 } 文代 { 池
00 } 有 { 本
00 } 有 { 神
00 } 有 { 尻
00 } 有 { 口
00 } 有 { 中
00 } 有 { 原
00 } 有 { 谷
00 } 有 { 川
00 } 有 { 藤
00 } 有 { 木
00 } 有 { 杉
00 } 有 { 若

① 西野 ② 田中 ③ 野澤 ④ 山口 ⑤ 村田 ⑥ 田 ⑦ 田 ⑧ 鶴原川原 ⑨ 池本神尻口中 ⑩ 谷川藤木 ⑪ 大板光安村中桑 ⑫ 藤下五山石廣山 ⑬ 廣田 ⑭ 賀栗延田田竹原 ⑮ 内川路口井水田 ⑯ 津湖 ⑰ 西野 ⑱ 田中 ⑲ 野澤 ⑳ 山口 ㉑ 村田 ㉒ 田 ㉓ 田

第52回全九州高校大会 中部予選



第52回全九州高校大会 福岡県予選



2回戦 R:藤山(福岡)
平成11年5月16日(日)本城運動場
修猷館 137(59-0) 0 福工大附

9	T	0
12	G	0
7	PG	0
9	DG	0
0	反則	0
0		0
0		0
0		0
0		0
4		14
①児秋	FW	①因賀
②長谷		②徳仲
③中		③本中
④段		④森田
⑤下		⑤龜大
⑥佐		⑥森江
⑦荒		⑦川大
⑧川		⑧森江
⑨三		⑨山原
⑩山		⑩田原
⑪田		⑪平渡
⑫平		⑫渡南
⑬南		⑬野
⑭渡		⑭野
⑯野		⑯野
⑰野		⑰野
⑱野		⑱野
⑲野		⑲野
⑳野		⑳野
㉑野		㉑野
㉒野		㉒野
㉓野		㉓野
㉔野		㉔野
㉕野		㉕野
㉖野		㉖野
㉗野		㉗野
㉘野		㉘野
㉙野		㉙野
㉚野		㉚野
㉛野		㉛野
㉜野		㉜野
㉝野		㉝野
㉞野		㉞野
㉟野		㉟野
㊱野		㊱野
㊲野		㊲野
㊳野		㊳野
㊴野		㊴野
㊵野		㊵野
㊶野		㊶野
㊷野		㊷野
㊸野		㊸野
㊹野		㊹野
㊺野		㊺野
㊻野		㊻野
㊼野		㊼野
㊽野		㊽野
㊾野		㊾野
㊿野		㊿野



1回戦 R:石蔵(九州)
平成11年5月23日(日)東福岡高校
九州産 0(0-41) 74 修猷館

0	T	7
0	G	5
0	PG	3
0	DG	4
0	反則	0
0		0
0		0
0		0
0		0
0		0
10		9
①山根	FW	①児秋
②之		②長谷
③中		③段
④大		④秋
⑤松		⑤佐
⑥石		⑥下
⑦川		⑦荒
⑧久		⑧川
⑨寺		⑨三
⑩早		⑩山
⑪岡		⑪田
⑫高		⑫平
⑬野		⑬荒
⑭天		⑭渡
⑮		⑮野

2回戦 R:加藤(九州)
平成11年5月30日(日)本城運動場
福岡工 33(7-24) 41 修猷館

1	T	4
4	G	3
1	PG	2
3	DG	1
0	反則	0
0		0
0		0
0		0
0		0
13		11
①錦	FW	①児秋
②横		②長谷
③尾		③中
④草		④段
⑤稻		⑤秋
⑥田		⑥佐
⑦西		⑦下
⑧徳		⑧荒
⑨横		⑨川
⑩尾		⑩三
⑪村		⑪山
⑫本		⑫田
⑬中		⑬平
⑭尾		⑬荒
⑮原		⑭渡
⑯		⑮野

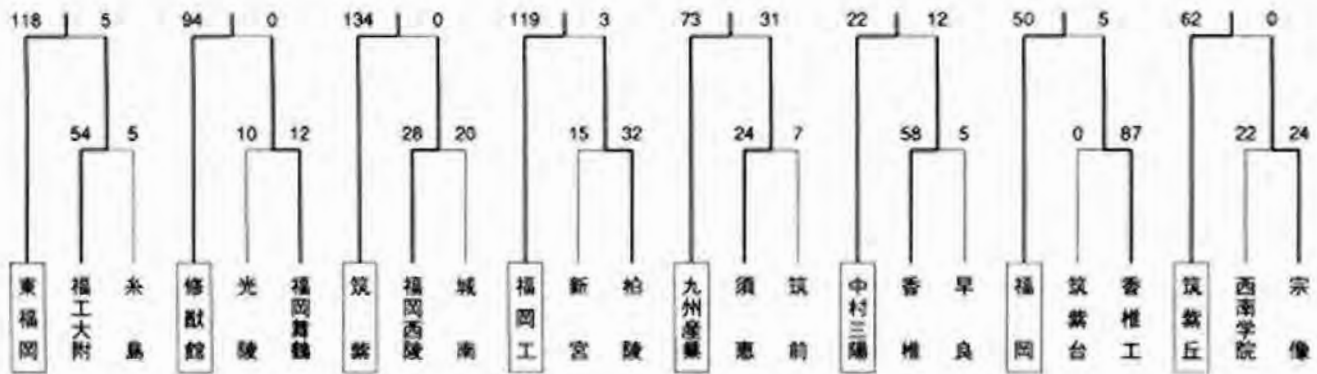
準決勝 R:石本(九州)
平成11年6月5日(土)本城運動場
東福岡 48(24-12) 24 修猷館

4	T	2
4	G	2
2	PG	1
2	DG	1
0	反則	0
0		0
0		0
0		0
0		0
10		9
①小	FW	①児秋
②谷		②長谷
③林		③中
④脚		④段
⑤手		⑤秋
⑥洗		⑥佐
⑦岡		⑦下
⑧原		⑧荒
⑨山		⑨川
⑩神		⑩三
⑪田		⑪山
⑫池		⑫田
⑬川		⑬平
⑭山		⑬荒
⑮		⑭渡
⑯		⑮野

3位決定戦 R:加藤(九州)
平成11年6月6日(日)本城運動場
修猷館 23(15-17) 22 筑紫

3	T	3
1	G	1
0	PG	0
0	DG	0
0	反則	0
0		0
0		0
0		0
0		0
11		9
①児	FW	①高
②孫		②柄
③長		③河
④中		④松
⑤段		⑤春
⑥秋		⑥藤
⑦佐		⑦波
⑧下		⑧津
⑨川		⑨平
⑩三		⑩春
⑪山		⑪藤
⑫平		⑫波
⑬渡		⑬津
⑭南		⑭金
⑮野		⑮清

第79回全国高校大会 県中部予選



2回戦
平成11年10月3日(日)
修猷館 94 (50-0) 0 筑紫高岡 0 (44-0) 0

R: 中村(九州) 筑紫高岡

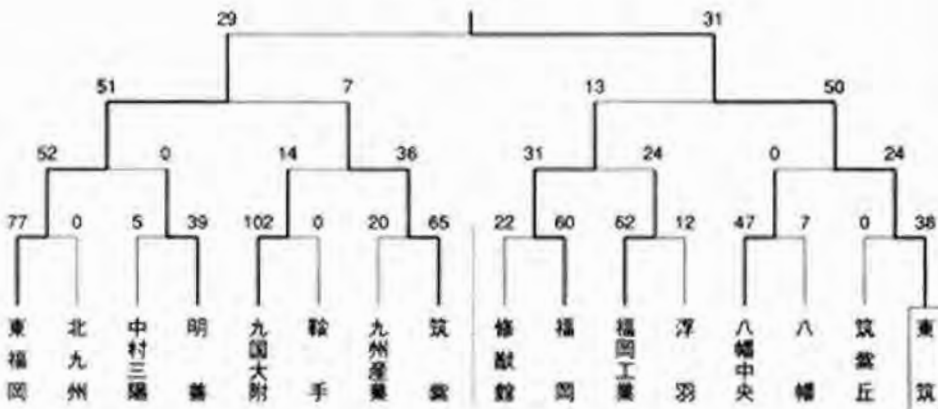
8 } T { 0
8 } G { 0
5 } PG { 0
2 } DG { 0
0 } 反則 { 0
0 } FW { 6
9 } HB { ① 田頭井野 峻利 松場 田部 田上 村口 知
② 山江 藤高 柿 毛 池 内 古 綾 太 山 中 山 伊 地
③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮

① 児秋 長谷 ② 嶋本 川岡 ③ 原 藤 池 尻 角 ④ 川 辺 口 南
⑤ 平 段 中 佐 下 川 三 谷 平 渡 山 南 ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮

交代



第79回全国高校大会 福岡県予選



1回戦
平成11年10月10日(日)
修猷館 22 (10-21) 60 福岡 12 (12-39)

R: 加藤(九州) 福岡工業高校

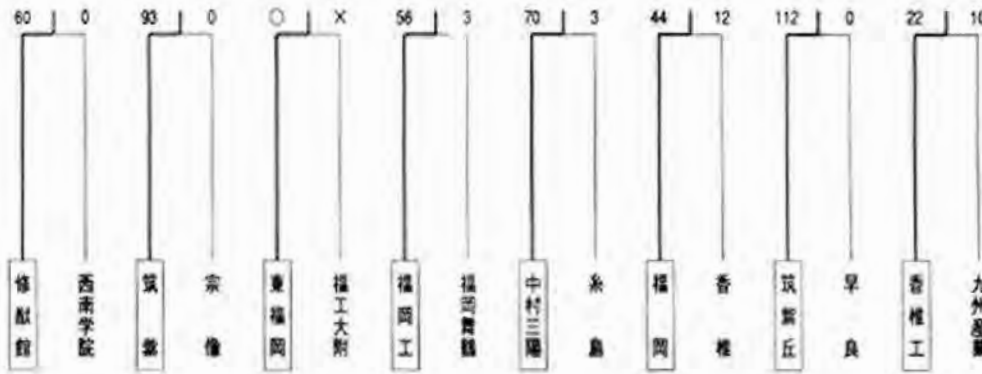
2 } T { 3
2 } G { 5
0 } PG { 3
1 } DG { 4
0 } 反則 { 0
0 } FW { 2
0 } HB { 0
0 } TB { 0
7 } FB交代 { 10

① 児秋 長谷 ② 嶋本 川岡 ③ 原 藤 池 尻 角 ④ 川 辺 口 南
⑤ 平 段 中 佐 下 川 三 谷 平 渡 山 南 ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮

交代

原丸 江山 田和 田次 田茅 浦口 本川 ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮

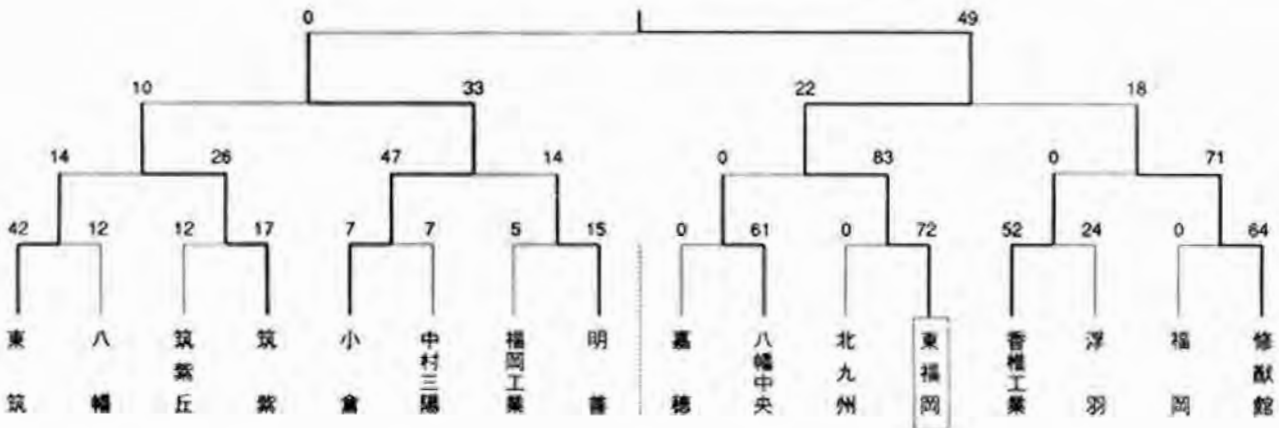
第22回全九州高校新人大会
中部予選 Aブロック



1回戦 R:金丸(福岡)
平成12年1月16日(土)福岡工業
修猷館 60 (43-0) 0 西南

7 3 } T { 0 0
4 4 } G { 0 0
1 0 } PG { 0 0
0 0 } DG { 0 0
0 0 } 反則 { 0 0
0 4 } FW { 10
① 児秋段平中 鶴本 岡原本本 杉原口角 藤川 辺 3
② 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
③ 松和 志 田 山 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
④ 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
⑤ 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
⑥ 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
⑦ 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
⑧ 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
⑨ 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
⑩ 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
⑪ 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
⑫ 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
⑬ 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
⑭ 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
⑮ 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
⑯ 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
⑰ 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
⑱ 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤

第22回全九州高校新人大会
福岡県予選



1回戦 R:御領園(日本)
平成12年1月23日(日)東福岡高校
福岡 0 (0-38) 64 修猷館

0 0 } T { 6
0 0 } G { 4
0 0 } PG { 3
0 0 } DG { 0
0 0 } 反則 { 14
0 6 } FW { ① 児秋段平中 鶴本 岡原本本 杉原口角 藤川 辺 3
② 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
③ 松和 志 田 山 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
④ 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
⑤ 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
⑥ 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
⑦ 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
⑧ 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
⑨ 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
⑩ 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
⑪ 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
⑫ 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
⑬ 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
⑭ 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
⑮ 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
⑯ 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
⑰ 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤
⑱ 大野九近 矢 鳥 田 和 藤 野 田 茅 原 田 鳥 藤 川 原 ⑤

2回戦 R:加藤(九州)
平成12年1月30日(日)東福岡高校
香椎工 0 (0-35) 71 修猷館

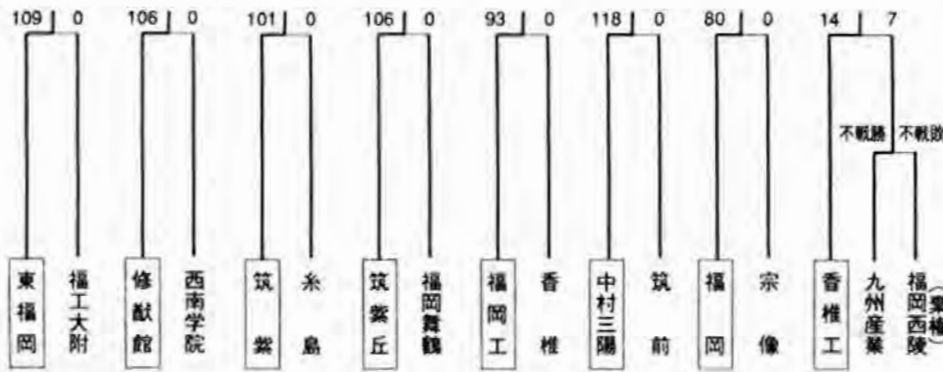
0 0 } T { 5
0 0 } G { 6
0 0 } PG { 3
0 0 } DG { 0
0 0 } 反則 { 9
0 7 } FW { ① 餅仲 越 上 光 木 瀬 橋 上 畑 下 川 岡 海 城
② 餅仲 越 上 光 木 瀬 橋 上 畑 下 川 岡 海 城
③ 餅仲 越 上 光 木 瀬 橋 上 畑 下 川 岡 海 城
④ 餅仲 越 上 光 木 瀬 橋 上 畑 下 川 岡 海 城
⑤ 餅仲 越 上 光 木 瀬 橋 上 畑 下 川 岡 海 城
⑥ 餅仲 越 上 光 木 瀬 橋 上 畑 下 川 岡 海 城
⑦ 餅仲 越 上 光 木 瀬 橋 上 畑 下 川 岡 海 城
⑧ 餅仲 越 上 光 木 瀬 橋 上 畑 下 川 岡 海 城
⑨ 餅仲 越 上 光 木 瀬 橋 上 畑 下 川 岡 海 城
⑩ 餅仲 越 上 光 木 瀬 橋 上 畑 下 川 岡 海 城
⑪ 餅仲 越 上 光 木 瀬 橋 上 畑 下 川 岡 海 城
⑫ 餅仲 越 上 光 木 瀬 橋 上 畑 下 川 岡 海 城
⑬ 餅仲 越 上 光 木 瀬 橋 上 畑 下 川 岡 海 城
⑭ 餅仲 越 上 光 木 瀬 橋 上 畑 下 川 岡 海 城
⑮ 餅仲 越 上 光 木 瀬 橋 上 畑 下 川 岡 海 城
⑯ 餅仲 越 上 光 木 瀬 橋 上 畑 下 川 岡 海 城
⑰ 餅仲 越 上 光 木 瀬 橋 上 畑 下 川 岡 海 城
⑱ 餅仲 越 上 光 木 瀬 橋 上 畑 下 川 岡 海 城

準決勝 R:石本(九州)
平成12年2月5日(土)東福岡高校
東福岡 22 (12-15) 18 修猷館

2 1 } T { 2
1 1 } G { 0
1 0 } PG { 1
1 0 } DG { 1
1 0 } 反則 { 10
1 3 } FW { ① 児秋段平中 鶴本 岡原本本 杉原口角 藤川 辺 3
② 江崎仲香 磯米寺佐竹井平今池熊藤 山松
③ 江崎仲香 磯米寺佐竹井平今池熊藤 山松
④ 江崎仲香 磯米寺佐竹井平今池熊藤 山松
⑤ 江崎仲香 磯米寺佐竹井平今池熊藤 山松
⑥ 江崎仲香 磯米寺佐竹井平今池熊藤 山松
⑦ 江崎仲香 磯米寺佐竹井平今池熊藤 山松
⑧ 江崎仲香 磯米寺佐竹井平今池熊藤 山松
⑨ 江崎仲香 磯米寺佐竹井平今池熊藤 山松
⑩ 江崎仲香 磯米寺佐竹井平今池熊藤 山松
⑪ 江崎仲香 磯米寺佐竹井平今池熊藤 山松
⑫ 江崎仲香 磯米寺佐竹井平今池熊藤 山松
⑬ 江崎仲香 磯米寺佐竹井平今池熊藤 山松
⑭ 江崎仲香 磯米寺佐竹井平今池熊藤 山松
⑮ 江崎仲香 磯米寺佐竹井平今池熊藤 山松
⑯ 江崎仲香 磯米寺佐竹井平今池熊藤 山松
⑰ 江崎仲香 磯米寺佐竹井平今池熊藤 山松
⑱ 江崎仲香 磯米寺佐竹井平今池熊藤 山松



第53回全九州高校大会 中部予選



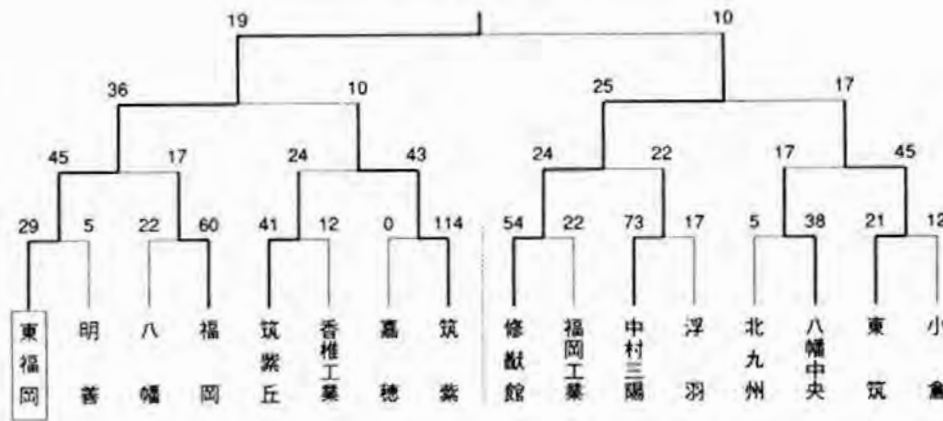
2回戦 R:三浦(九州)
平成12年5月14日(日)海大附属G
修猷館 106 (72-0) 0 西学南院

12 } T { 0
6 } G { 0
6 } PG { 0
2 } DG { 0
2 } 反則 { 0
0 } FW { 0
0 } HB { 0
0 } TB { 0
3 } FB交代 { 0

①児鈴 ②平中下橋 ③若水山三南田渡 ④若水山三南田渡 ⑤若水山三南田渡 ⑥若水山三南田渡 ⑦若水山三南田渡 ⑧若水山三南田渡 ⑨若水山三南田渡 ⑩若水山三南田渡 ⑪若水山三南田渡 ⑫若水山三南田渡 ⑬若水山三南田渡 ⑭若水山三南田渡 ⑮若水山三南田渡

角田川山藤吉島 坂田村中尾 西坂安丸 森松太吉田松 三松久藤森後住中

第53回全九州高校大会 福岡県予選



1回戦 R:御領園(日本)
平成12年5月21日(日)グローバルアリーナ
修猷館 54 (42-7) 22 福岡工業

6 } T { 1
2 } G { 3
6 } PG { 0
1 } DG { 0
0 } 反則 { 0
0 } FW { 0
0 } HB { 0
0 } TB { 0
0 } FB交代 { 0

①児鈴 ②平中下橋 ③若水山三南田渡 ④若水山三南田渡 ⑤若水山三南田渡 ⑥若水山三南田渡 ⑦若水山三南田渡 ⑧若水山三南田渡 ⑨若水山三南田渡 ⑩若水山三南田渡 ⑪若水山三南田渡 ⑫若水山三南田渡 ⑬若水山三南田渡 ⑭若水山三南田渡 ⑮若水山三南田渡

立田住場益島水尾田業田功武田 鋒戸吉草稲西田徳福千水田中百園

2回戦 R:中村(九州)
平成12年5月28日(日)グローバルアリーナ
修猷館 24 (12-7) 22 中村三陽

2 } T { 2
2 } G { 1
1 } PG { 0
1 } DG { 0
0 } 反則 { 0
0 } FW { 0
0 } HB { 0
0 } TB { 0
0 } FB交代 { 0

①児秋 ②平中下橋 ③若水山三南田渡 ④若水山三南田渡 ⑤若水山三南田渡 ⑥若水山三南田渡 ⑦若水山三南田渡 ⑧若水山三南田渡 ⑨若水山三南田渡 ⑩若水山三南田渡 ⑪若水山三南田渡 ⑫若水山三南田渡 ⑬若水山三南田渡 ⑭若水山三南田渡 ⑮若水山三南田渡

田中 藤久田本越口村上田 豊田 森角 齊木吉星天道野樋中井安 蔵口本石

準決勝 R:石本(九州)
平成12年6月3日(土)グローバルアリーナ
修猷館 25 (10-7) 17 東筑

2 } T { 1
2 } G { 1
0 } PG { 0
1 } DG { 0
0 } 反則 { 0
0 } FW { 0
0 } HB { 0
0 } TB { 0
0 } FB交代 { 0

①児鈴 ②平中下橋 ③若水山三南田渡 ④若水山三南田渡 ⑤若水山三南田渡 ⑥若水山三南田渡 ⑦若水山三南田渡 ⑧若水山三南田渡 ⑨若水山三南田渡 ⑩若水山三南田渡 ⑪若水山三南田渡 ⑫若水山三南田渡 ⑬若水山三南田渡 ⑭若水山三南田渡 ⑮若水山三南田渡

吉来口京田津山竹水井佐湖正川末 住加山左植廣中廣平岩田行下武田

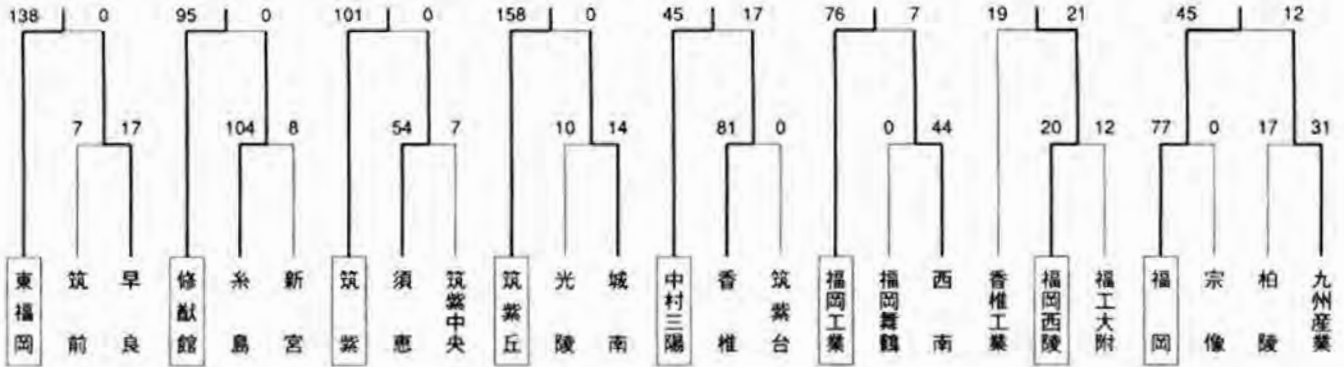
決勝 R:江頭(九州)
平成12年6月4日(日)グローバルアリーナ
東福岡 19 (0-10) 10 修猷館

0 } T { 1
3 } G { 0
0 } PG { 0
2 } DG { 0
0 } 反則 { 0
0 } FW { 0
0 } HB { 0
0 } TB { 0
0 } FB交代 { 0

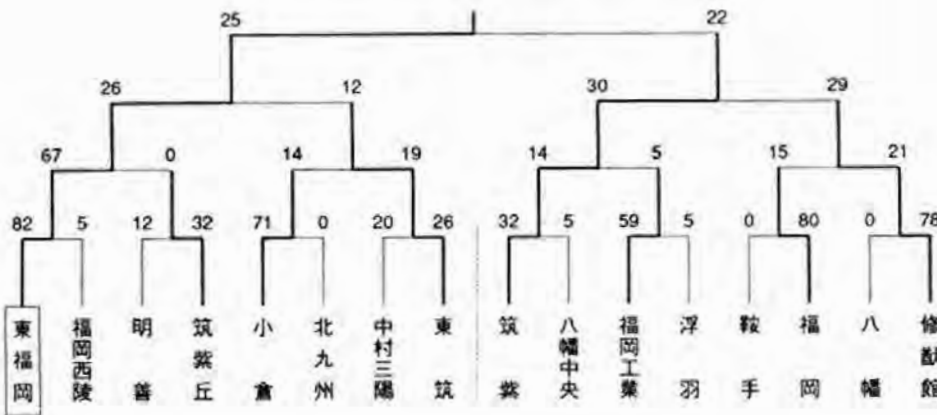
①江諸 ②香宮寺米佐竹并杉今池光吉 ③香宮寺米佐竹并杉今池光吉 ④香宮寺米佐竹并杉今池光吉 ⑤香宮寺米佐竹并杉今池光吉 ⑥香宮寺米佐竹并杉今池光吉 ⑦香宮寺米佐竹并杉今池光吉 ⑧香宮寺米佐竹并杉今池光吉 ⑨香宮寺米佐竹并杉今池光吉 ⑩香宮寺米佐竹并杉今池光吉 ⑪香宮寺米佐竹并杉今池光吉 ⑫香宮寺米佐竹并杉今池光吉 ⑬香宮寺米佐竹并杉今池光吉 ⑭香宮寺米佐竹并杉今池光吉 ⑮香宮寺米佐竹并杉今池光吉

鷗中 岡原池本 杉原口角蘭川辺 児野段 平中下橋 谷 若水山三南田渡 秋鈴 本木

第80回全国高校大会 県中部予選



第80回全国高校大会 福岡県予選



2回戦 R: 藤(九州)
平成12年10月1日(日)グロ-バルアリーナ
修猷館 95 (48-0) 0 糸島

8	T	{	0
7	G	{	0
4	PG	{	0
6	DG	{	0
0	反則	{	0
0		{	0
0		{	0
0		{	0
0		{	0
0		{	0
5		{	5

12 鷗木
① 児鈴 段
② 平中下橋 岡原池本
③ 若水山三南平渡 谷
④ 山三南平渡 杉原口角蘭川辺
⑤ 野山三南平渡 森井中
⑥ 野山三南平渡 森井中
⑦ 野山三南平渡 森井中
⑧ 野山三南平渡 森井中
⑨ 野山三南平渡 森井中
⑩ 野山三南平渡 森井中
⑪ 野山三南平渡 森井中
⑫ 野山三南平渡 森井中

① 藤下唐西橋濱仲立斎橋井友増水 野留山鎌嶋崎地西石藤崎上納田島
② 藤下唐西橋濱仲立斎橋井友増水 野留山鎌嶋崎地西石藤崎上納田島
③ 藤下唐西橋濱仲立斎橋井友増水 野留山鎌嶋崎地西石藤崎上納田島
④ 藤下唐西橋濱仲立斎橋井友増水 野留山鎌嶋崎地西石藤崎上納田島
⑤ 藤下唐西橋濱仲立斎橋井友増水 野留山鎌嶋崎地西石藤崎上納田島
⑥ 藤下唐西橋濱仲立斎橋井友増水 野留山鎌嶋崎地西石藤崎上納田島
⑦ 藤下唐西橋濱仲立斎橋井友増水 野留山鎌嶋崎地西石藤崎上納田島
⑧ 藤下唐西橋濱仲立斎橋井友増水 野留山鎌嶋崎地西石藤崎上納田島
⑨ 藤下唐西橋濱仲立斎橋井友増水 野留山鎌嶋崎地西石藤崎上納田島
⑩ 藤下唐西橋濱仲立斎橋井友増水 野留山鎌嶋崎地西石藤崎上納田島
⑪ 藤下唐西橋濱仲立斎橋井友増水 野留山鎌嶋崎地西石藤崎上納田島
⑫ 藤下唐西橋濱仲立斎橋井友増水 野留山鎌嶋崎地西石藤崎上納田島

1回戦 R: 石蔵(九州)
平成12年10月8日(日)グロ-バルアリーナ
八幡 0 (0-38) 78 修猷館

0	T	{	6
0	G	{	4
0	PG	{	5
0	DG	{	0
0	反則	{	0
0		{	0
0		{	0
0		{	0
0		{	0
0		{	0
0		{	0
7		{	7

10 濱河保部地戸井石本崎部田本藤藤
① 高小久岡築波筒白山海野久安齊
② 高小久岡築波筒白山海野久安齊
③ 高小久岡築波筒白山海野久安齊
④ 高小久岡築波筒白山海野久安齊
⑤ 高小久岡築波筒白山海野久安齊
⑥ 高小久岡築波筒白山海野久安齊
⑦ 高小久岡築波筒白山海野久安齊
⑧ 高小久岡築波筒白山海野久安齊
⑨ 高小久岡築波筒白山海野久安齊
⑩ 高小久岡築波筒白山海野久安齊
⑪ 高小久岡築波筒白山海野久安齊
⑫ 高小久岡築波筒白山海野久安齊

① 児鈴 鷗木
② 平中下橋 岡原池本
③ 若水山三南平渡 谷
④ 山三南平渡 杉原口角蘭川辺
⑤ 野山三南平渡 森井中
⑥ 野山三南平渡 森井中
⑦ 野山三南平渡 森井中
⑧ 野山三南平渡 森井中
⑨ 野山三南平渡 森井中
⑩ 野山三南平渡 森井中
⑪ 野山三南平渡 森井中
⑫ 野山三南平渡 森井中

2回戦 R: 加藤(九州)
平成12年10月29日(日)グロ-バルアリーナ
福岡 15 (12-7) 21 修猷館

2	T	{	1
0	G	{	1
1	PG	{	0
0	DG	{	0
0	反則	{	0
0		{	0
0		{	0
0		{	0
0		{	0
0		{	0
0		{	0
8		{	8

15 野松久丸内鳥野橋崎田原田原藤
① 野松久丸内鳥野橋崎田原田原藤
② 野松久丸内鳥野橋崎田原田原藤
③ 野松久丸内鳥野橋崎田原田原藤
④ 野松久丸内鳥野橋崎田原田原藤
⑤ 野松久丸内鳥野橋崎田原田原藤
⑥ 野松久丸内鳥野橋崎田原田原藤
⑦ 野松久丸内鳥野橋崎田原田原藤
⑧ 野松久丸内鳥野橋崎田原田原藤
⑨ 野松久丸内鳥野橋崎田原田原藤
⑩ 野松久丸内鳥野橋崎田原田原藤
⑪ 野松久丸内鳥野橋崎田原田原藤
⑫ 野松久丸内鳥野橋崎田原田原藤

① 児鈴 鷗木
② 平中下橋 岡原池本
③ 若水山三南平渡 谷
④ 山三南平渡 杉原口角蘭川辺
⑤ 野山三南平渡 森井中
⑥ 野山三南平渡 森井中
⑦ 野山三南平渡 森井中
⑧ 野山三南平渡 森井中
⑨ 野山三南平渡 森井中
⑩ 野山三南平渡 森井中
⑪ 野山三南平渡 森井中
⑫ 野山三南平渡 森井中

準決勝 R: 杉山(九州)
平成12年11月5日(日)グロ-バルアリーナ
筑紫 30 (15-17) 29 修猷館

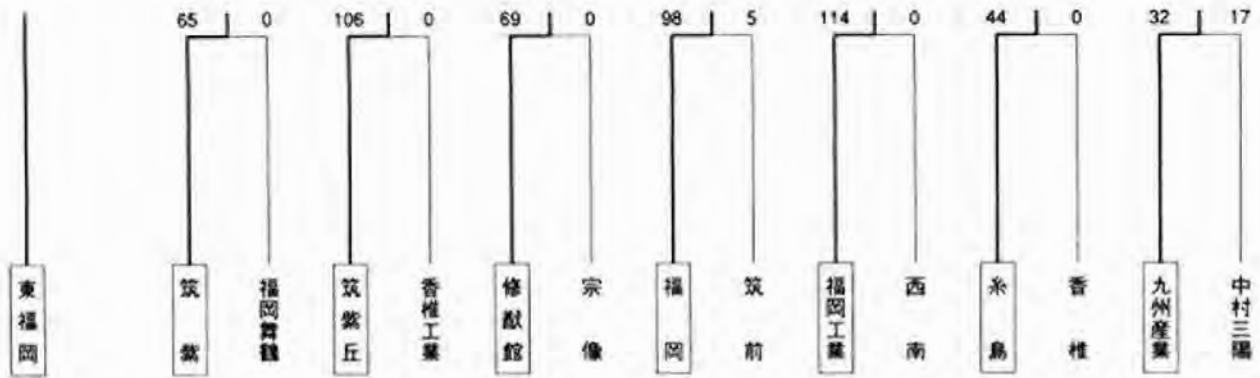
2	T	{	2
2	G	{	2
1	PG	{	1
1	DG	{	0
0	反則	{	0
0		{	0
0		{	0
0		{	0
0		{	0
0		{	0
0		{	0
8		{	8

12 宮柄北安児河松辻藤志山笠金坂清
① 宮柄北安児河松辻藤志山笠金坂清
② 宮柄北安児河松辻藤志山笠金坂清
③ 宮柄北安児河松辻藤志山笠金坂清
④ 宮柄北安児河松辻藤志山笠金坂清
⑤ 宮柄北安児河松辻藤志山笠金坂清
⑥ 宮柄北安児河松辻藤志山笠金坂清
⑦ 宮柄北安児河松辻藤志山笠金坂清
⑧ 宮柄北安児河松辻藤志山笠金坂清
⑨ 宮柄北安児河松辻藤志山笠金坂清
⑩ 宮柄北安児河松辻藤志山笠金坂清
⑪ 宮柄北安児河松辻藤志山笠金坂清
⑫ 宮柄北安児河松辻藤志山笠金坂清

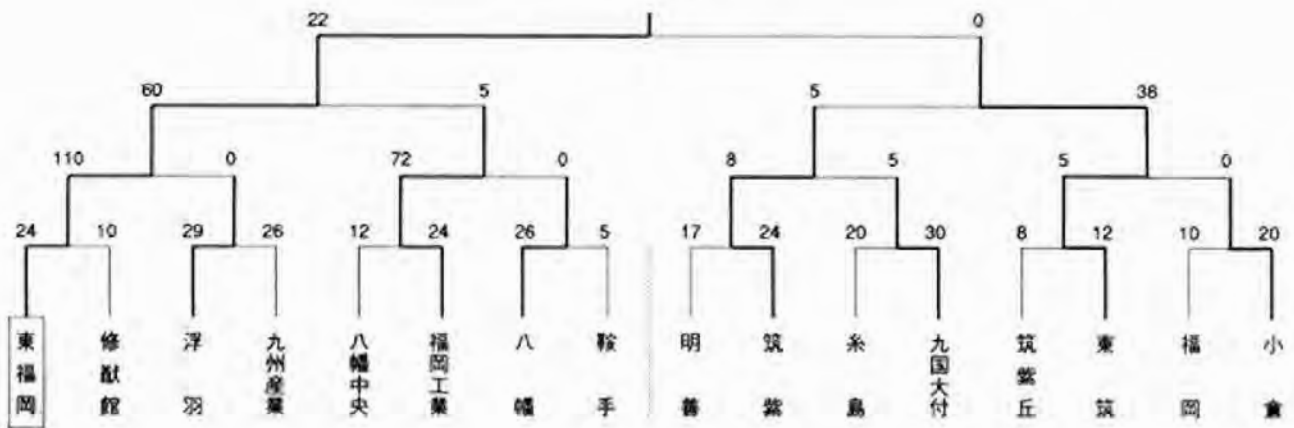
① 児鈴 鷗木
② 平中下橋 岡原池本
③ 若水山三南平渡 谷
④ 山三南平渡 杉原口角蘭川辺
⑤ 野山三南平渡 森井中
⑥ 野山三南平渡 森井中
⑦ 野山三南平渡 森井中
⑧ 野山三南平渡 森井中
⑨ 野山三南平渡 森井中
⑩ 野山三南平渡 森井中
⑪ 野山三南平渡 森井中
⑫ 野山三南平渡 森井中



第23回全九州高校新人大会
中部予選 Aブロック



第23回全九州高校大会
福岡県予選



1回戦 R:加藤(九州)
平成13年1月14日(日)糸島高校
修猷館 69 (36-0) 0 宗像

6	T	0
5	G	0
3	PG	0
4	DG	0
0	反則	9
14	FW	0
1	HB	0
0	TB	0
0	FB	0
0	交代	0

①伊川 ②高田 ③大松 ④宮野 ⑤片水 ⑥吉三 ⑦南林 ⑧渡邊 ⑨本村 ⑩山本 ⑪藤 ⑫渡 ⑬中 ⑭迫 ⑮井 ⑯内 ⑰中 ⑱河 ⑲原 ⑳川 ㉑角 ㉒園 ㉓田 ㉔辺 ㉕谷 ㉖上 ㉗原 ㉘野

中見屋 原木 鳥 森 中森 田橋 中土池 実野
畑人 岩宮 上真 田月 佐石 田字 今河



1回戦 R:御領園(日本)
平成13年1月21日(日)グローバルアリーナ
東福岡 24 (7-10) 10 修猷館

3	T	2
1	G	0
1	PG	0
0	DG	0
0	反則	11
14	FW	0
0	HB	0
0	TB	0
0	FB	0
0	交代	0

①松 ②谷 ③諸 ④長 ⑤香 ⑥宮 ⑦米 ⑧佐 ⑨山 ⑩宮 ⑪升 ⑫太 ⑬池 ⑭松 ⑮平 ⑯吉 ⑰武 ⑱大 ⑲岡 ⑳隈 ㉑川 ㉒田 ㉓裕 ㉔澤 ㉕藤 ㉖本 ㉗本 ㉘田 ㉙田 ㉚尾 ㉛田 ㉜武 ㉝谷 ㉞山 ㉟野

藤 渡 橋 中 迫 井 内 中 河 原 川 角 園 田 辺
伊川 高田 大松 宮野 片水 吉三 南林 渡邊



第54回全九州高校大会 県中部予選

152	0	95	5	96	7	141	0	96	0	87	5	48	28	59	26
東福岡	筑前	福岡工業	香椎	筑紫	福岡舞鶴	筑紫丘	香椎工業	修猷館	宗像	福岡	城南	糸島	城東	九州産業	中村三陽

2回戦 R:猿渡(九州)
平成13年5月13日(日)福工大城東
修猷館 96 (48-0) 0 宗像

8 } T { 0
8 } G { 0
4 } PG { 0
4 } DG { 0
0 } 反則 { 0
0 } FW { 0
5 } HB { 0
9 } TB { 0
9 } FB { 0
交代

①伊野岩宮林田松川片三吉渡南井水
②中宮大田矢立石澤久田今吉吉江
③藤村(信)原(崇)中野石橋田恒代村竹瀬口
④大田矢立石澤久田今吉吉江
⑤大田矢立石澤久田今吉吉江
⑥大田矢立石澤久田今吉吉江
⑦大田矢立石澤久田今吉吉江
⑧大田矢立石澤久田今吉吉江
⑨大田矢立石澤久田今吉吉江
⑩大田矢立石澤久田今吉吉江
⑪大田矢立石澤久田今吉吉江
⑫大田矢立石澤久田今吉吉江
⑬大田矢立石澤久田今吉吉江
⑭大田矢立石澤久田今吉吉江
⑮大田矢立石澤久田今吉吉江

藤中本内下中井寄瀨角川辺備上原
島見中原本 森 中池森田土(番)野屋実
真人畑宮上山今月佐字田河合行

第54回全九州高校大会 県大会

40	27	14	5	35	24	14	19	22	0	50	79				
71	5	5	57	0	110	10	83	81	0	7	81	17	17	5	79
東福岡	明善	糸島	小倉	浮羽	修猷館	門司	筑紫	福岡工業	九国大付	北九州	筑紫丘	九州産業	福岡	嘉穂	東筑

1回戦 R:杉山(九州)
平成13年5月13日(日)東福岡高校
浮羽 0 (0-47) 110 修猷館

0 } T { 7
0 } G { 9
0 } PG { 6
0 } DG { 9
0 } 反則 { 0
6

①佐藤(信)原(崇)中野石橋田恒代村竹瀬口
②中宮大田矢立石澤久田今吉吉江
③藤村(信)原(崇)中野石橋田恒代村竹瀬口
④大田矢立石澤久田今吉吉江
⑤大田矢立石澤久田今吉吉江
⑥大田矢立石澤久田今吉吉江
⑦大田矢立石澤久田今吉吉江
⑧大田矢立石澤久田今吉吉江
⑨大田矢立石澤久田今吉吉江
⑩大田矢立石澤久田今吉吉江
⑪大田矢立石澤久田今吉吉江
⑫大田矢立石澤久田今吉吉江
⑬大田矢立石澤久田今吉吉江
⑭大田矢立石澤久田今吉吉江
⑮大田矢立石澤久田今吉吉江

藤中本内下中井寄瀨角川辺備上原
伊野岩宮林田松川片三吉渡南井水
山本下中井寄瀨角川辺備上原

2回戦 R:野口(九州)
平成13年5月27日(日)70-86-79-7
修猷館 35 (21-5) 24 筑紫

3 } T { 1
2 } G { 3
3 } PG { 0
2 } DG { 2
0 } 反則 { 0
14

①野宮伊田大川松川片三吉渡南井水
②中宮大田矢立石澤久田今吉吉江
③藤村(信)原(崇)中野石橋田恒代村竹瀬口
④大田矢立石澤久田今吉吉江
⑤大田矢立石澤久田今吉吉江
⑥大田矢立石澤久田今吉吉江
⑦大田矢立石澤久田今吉吉江
⑧大田矢立石澤久田今吉吉江
⑨大田矢立石澤久田今吉吉江
⑩大田矢立石澤久田今吉吉江
⑪大田矢立石澤久田今吉吉江
⑫大田矢立石澤久田今吉吉江
⑬大田矢立石澤久田今吉吉江
⑭大田矢立石澤久田今吉吉江
⑮大田矢立石澤久田今吉吉江

中内藤中迫瀨井寄瀨角川辺備上原
児北越佐富安岩権大山西笠住江志
玉川智藤山部永丈和崎尾原吉藤柿

準決勝 R:杉山(九州)
平成13年6月2日(土)70-86-79-7
東福岡 27 (15-0) 5 修猷館

2 } T { 0
2 } G { 1
1 } PG { 0
1 } DG { 0
0 } 反則 { 0
11

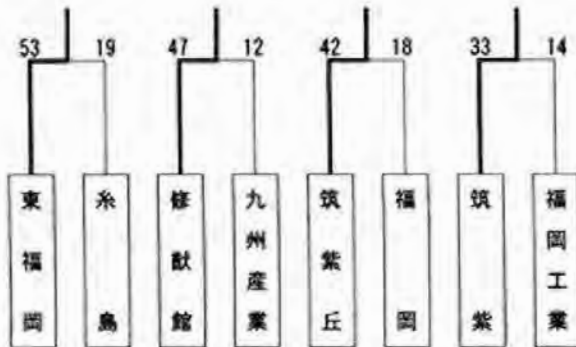
①有諾吉香宮米中佐武升吉池有山太藤(信)原(崇)中野石橋田恒代村竹瀬口
②中宮大田矢立石澤久田今吉吉江
③藤村(信)原(崇)中野石橋田恒代村竹瀬口
④大田矢立石澤久田今吉吉江
⑤大田矢立石澤久田今吉吉江
⑥大田矢立石澤久田今吉吉江
⑦大田矢立石澤久田今吉吉江
⑧大田矢立石澤久田今吉吉江
⑨大田矢立石澤久田今吉吉江
⑩大田矢立石澤久田今吉吉江
⑪大田矢立石澤久田今吉吉江
⑫大田矢立石澤久田今吉吉江
⑬大田矢立石澤久田今吉吉江
⑭大田矢立石澤久田今吉吉江
⑮大田矢立石澤久田今吉吉江

馬隈富田本澤山(公)谷本武田田本田
藤中橋中迫瀨井寄瀨角川辺備上原
伊野岩宮林田松川片三吉渡南井水
山本下中井寄瀨角川辺備上原

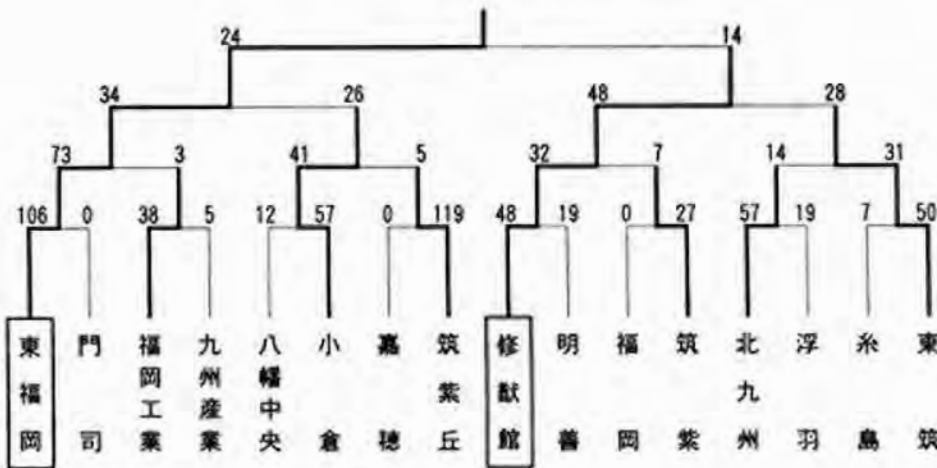


第81回全国高校大会 中部支部予選

(シード戦)

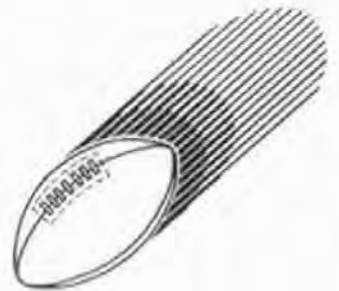


第81回全国高校大会 県予選



シード戦 R:石本(日本)
平成13年9月23日(日)筑紫

修猷館 47	(21-12)	12	九州大付藤九州産業
3	T	2	
4	G	0	
3	PG	0	
3	DG	0	
0	反則	0	
0		0	
0		0	
0		0	
13	FW	14	
① 岩野高宮大川平松片水吉井南渡井		① 吉小園大齋權	原野本保藤藤川崎木石津口嗣尾
②		②	久牧
③		③	中高藤大中橋吉宮
④		④	
⑤		⑤	
⑥		⑥	
⑦		⑦	
⑧		⑧	
⑨		⑨	
⑩		⑩	
⑪		⑪	
⑫		⑫	
⑬		⑬	
⑭		⑭	
⑮		⑮	
本中橋内迫淵川井淵原川口藤辺上		FB	交代



1回戦 R:石蔵(九州)
平成13年10月7日(日)福岡G

修猷館 48	(24-5)	19	明善
4	T	1	
4	G	2	
2	PG	0	
2	DG	0	
0	反則	0	
0		0	
0		0	
8	FW	10	
① 伊野高川大川松宮片水吉三南渡井		① 中境伊淵田緒方	村山藤上中(兼)植野場藤本(亮)原田園田
②		②	
③		③	
④		④	
⑤		⑤	
⑥		⑥	
⑦		⑦	
⑧		⑧	
⑨		⑨	
⑩		⑩	
⑪		⑪	
⑫		⑫	
⑬		⑬	
⑭		⑭	
⑮		⑮	
藤中橋寄迫淵井内淵原川角藤辺上		FB	交代

2回戦 R:加藤(九州)
平成13年10月28日(日)70-AW79-F

修猷館 32	(10-0)	7	筑紫
2	T	0	
3	G	0	
0	PG	0	
2	DG	0	
0	反則	0	
15	FW	18	
① 伊野高川大川宮松片水吉三南渡井		① 安北兒佐富宇岩權大山友笠住江志	部川玉藤山美水丈和崎田原吉藤祐佐
②		②	
③		③	
④		④	
⑤		⑤	
⑥		⑥	
⑦		⑦	
⑧		⑧	
⑨		⑨	
⑩		⑩	
⑪		⑪	
⑫		⑫	
⑬		⑬	
⑭		⑭	
⑮		⑮	
藤中橋寄迫淵内井淵原川角藤辺上		FB	交代

準決勝 R:杉山(九州)
平成13年11月4日(日)博多森陸上競技場

修猷館 48	(12-7)	28	東筑
2	T	1	
5	G	3	
1	PG	3	
4	DG	0	
0	反則	0	
1	FW	0	
0		0	
0		0	
0		0	
12	FW	17	
① 伊野高川大川宮松片水吉三南渡井		① 山桑角石中左土松岩平坂大行	樋口原山京橋木佐井倉庭正
②		②	
③		③	
④		④	
⑤		⑤	
⑥		⑥	
⑦		⑦	
⑧		⑧	
⑨		⑨	
⑩		⑩	
⑪		⑪	
⑫		⑫	
⑬		⑬	
⑭		⑭	
⑮		⑮	
藤中橋寄迫淵内井淵原川角藤辺上		FB	交代

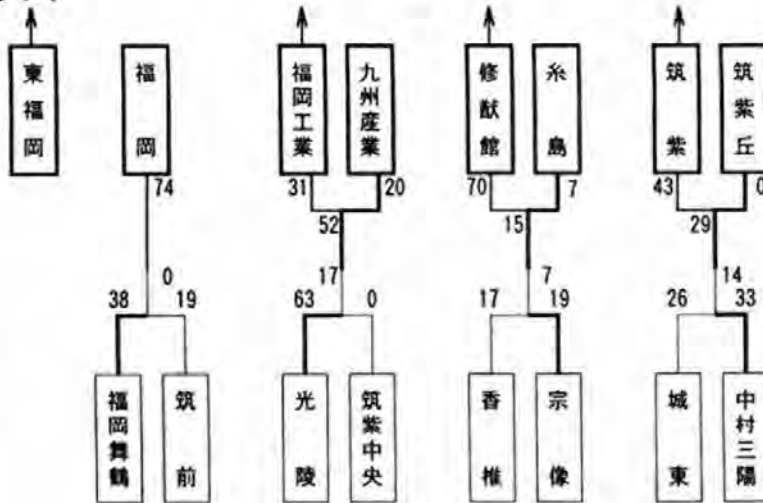
決勝戦 R:御領園(日本)
平成13年11月10日(土)博多森陸上競技場

東福岡 24	(14-0)	14	修猷館
2	T	0	
1	G	2	
2	PG	0	
1	DG	0	
0	反則	0	
19	FW	6	
① 有緒長香宮米大佐宮升吉池有山太		① 伊野高川大川宮松片水吉三南渡井	藤中橋寄迫淵内井淵原川角藤辺上
②		②	
③		③	
④		④	
⑤		⑤	
⑥		⑥	
⑦		⑦	
⑧		⑧	
⑨		⑨	
⑩		⑩	
⑪		⑪	
⑫		⑫	
⑬		⑬	
⑭		⑭	
⑮		⑮	
馬隈川田本澤山藤本本武田田本田		FB	交代

第24回全九州高校新人大会 中部予選

(Aブロック)

シード校 勝者は県大会、敗者は決定戦へ

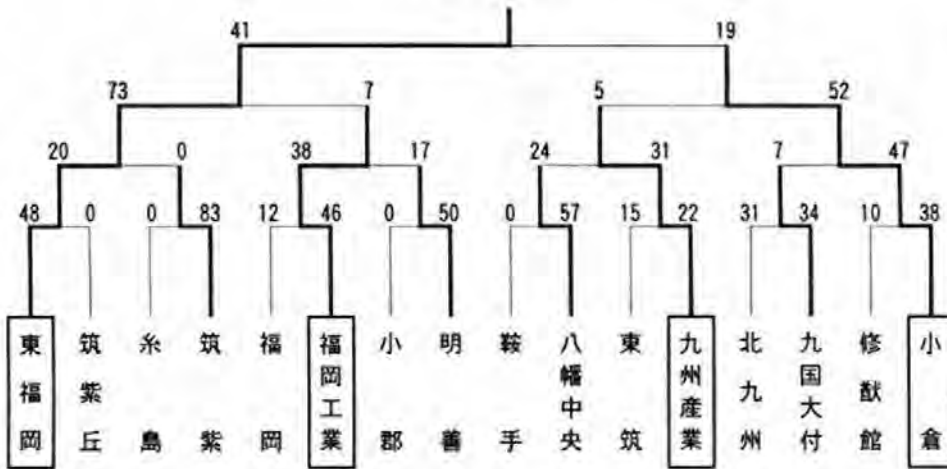


シード戦 R:三浦(九州)
平成13年12月23日(日)三陽G
修猷館 70 (34-0) 7 糸 島
(36-7)

6	T	0
6	G	1
2	PG	0
3	DG	0
0	反則	0
0		0
0		0
0		0
5		16

①伊平 藤川 ①近川
②高前 橋島 ②中谷
③池川 寄測 ③板野
④川田 中内 ④堀田
⑤宮成 富川 ⑤入柴
⑥片吉 田口 ⑥木浦
⑦井片 桐原 ⑦梶米
⑧三片 原田 ⑧浦米
⑨林 二ノ坂 ⑨浦米
⑩山田 ⑩友納
⑪山田 ⑪吉高
⑫山田 ⑫高木
⑬山田 ⑬木
⑭山田 ⑭藤
⑮山田 ⑮藤

第24回全九州高校新人大会 県予選



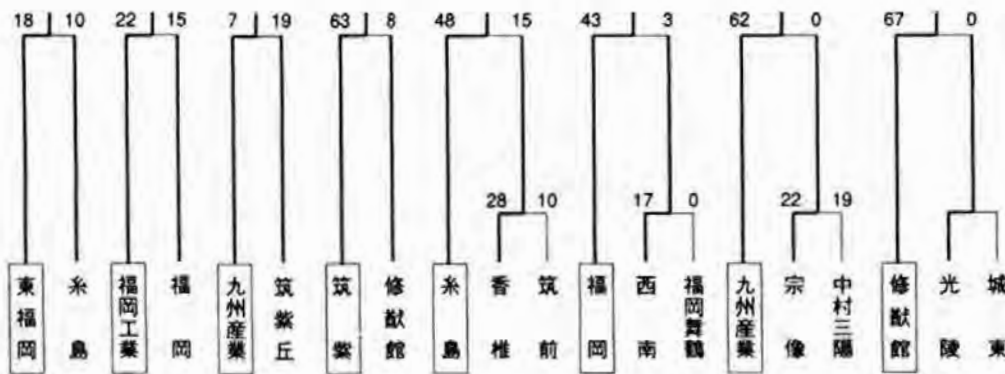
1回戦 R:杉山(九州)
平成14年1月20日(日)光陵G
修猷館 10 (0-14) 38 小 倉
(10-24)

0	T	2
2	G	4
0	PG	2
0	DG	2
0	反則	0
0		0
0		0
0		0
0		0
16		11

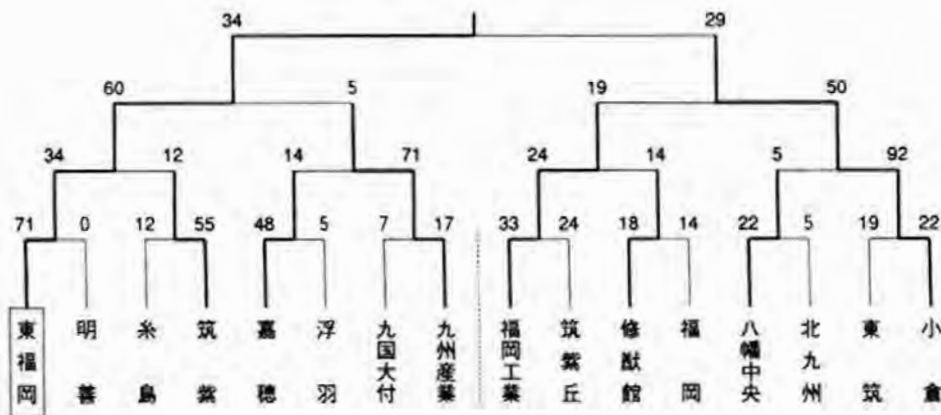
①伊平 藤川 ①西久野 藤保
②高前 橋島 ②久松 尾島
③池川 寄測 ③北木 島村
④川田 中内 ④松本 邊上
⑤宮成 富川 ⑤渡村 野上
⑥片吉 田口 ⑥青長 堀野
⑦井片 桐原 ⑦長桑 永尾
⑧三片 原田 ⑧松平 野田
⑨林 二ノ坂 ⑨松田 費田
⑩山田 ⑩中田
⑪山田 ⑪山
⑫山田 ⑫山
⑬山田 ⑬山
⑭山田 ⑭山
⑮山田 ⑮山



第55回全九州高校大会 中部予選



第55回全九州高校大会 福岡県予選



R: 畑井(福岡)	
平成14年5月12日(日)	福岡工業G
修猷館67	(31-0) 0 光陵
5 } T { 0	0 0 0 0 0 0 0 7
6 } G { 0	0 0 0 0 0 0 0 0
3 } PG { 0	0 0 0 0 0 0 0 0
3 } DG { 0	0 0 0 0 0 0 0 0
0 } 反則 { 0	0 0 0 0 0 0 0 0
4 } FW { 1	田井原本
① 岩平	中尾
② 高川	内中
③ 山成	尾口
④ 成川	浅上
⑤ 川	丸野
⑥ 伊片	達山
⑦ 三	原
⑧ 吉	原
⑨ 宮	原
⑩ 東	原
⑪ 林	原
⑫	原
⑬	原
⑭	原
⑮	原
⑯	原
⑰	原
⑱	原
⑲	原
⑳	原
㉑	原
㉒	原
㉓	原
㉔	原
㉕	原
㉖	原
㉗	原
㉘	原
㉙	原
㉚	原
㉛	原
㉜	原
㉝	原
㉞	原
㉟	原
㊱	原
㊲	原
㊳	原
㊴	原
㊵	原
㊶	原
㊷	原
㊸	原
㊹	原
㊺	原



1 回戦 R: 御領園(日本)
平成14年5月19日(日)福岡高校G
修猷館18 (15-7) 14 福岡

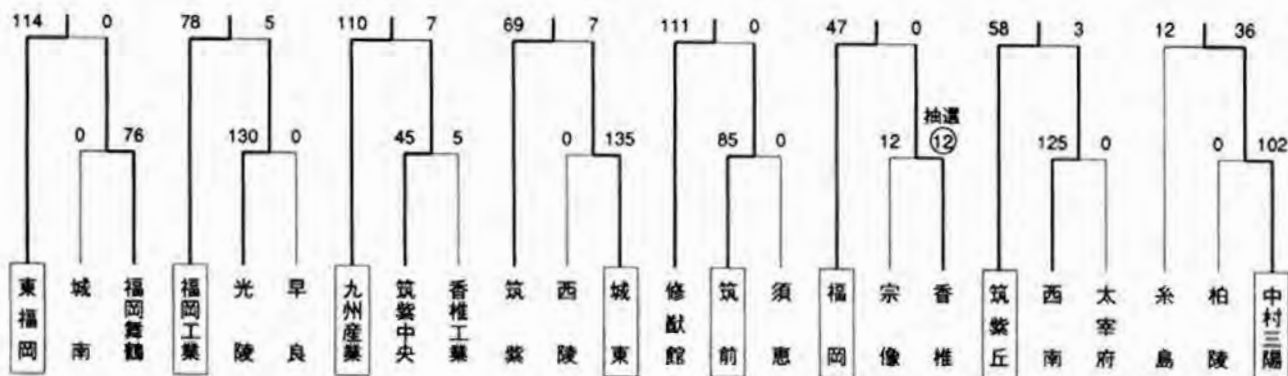
2 } T { 1	1 坂藤長
0 } G { 1	1 森 給
1 } PG { 0	0 時
1 } PG { 0	0 橋 本
0 } DG { 0	0 地 元
0 } 反則 { 13	13 賈 波
16 } FW { 1	1 和 部
① 岩平	1 原 ⑤
② 高川	2 上 田 ①
③ 山成	3 本 井
④ 成川	4 澤 田
⑤ 川	5 越 枝
⑥ 伊片	6 本 橋
⑦ 三	7 寄 内
⑧ 吉	8 富 湖
⑨ 宮	9 藤 湖
⑩ 東	10 坂 桐
⑪ 林	11 川 地
⑫	12 原 田
⑬	13 原 田
⑭	14 原 田
⑮	15 原 田

2 回戦 R: 御領園(日本)
平成14年5月26日(日)グローバルア
福岡工業24 (14-0) 14 修猷館

2 } T { 0	0 本 川
1 } G { 0	0 橋 寄
2 } PG { 0	0 内 富
1 } PG { 0	0 湖 藤
0 } DG { 0	0 湖 坂
0 } 反則 { 11	11 桐 川
4 } FW { 1	1 地 原
① 永西	1 田 ①
② 竹	2 田 ②
③ 森	3 田 ③
④ 渡	4 田 ④
⑤ 柴	5 田 ⑤
⑥ 植	6 田 ⑥
⑦ 長	7 田 ⑦
⑧ 日	8 田 ⑧
⑨ 石	9 田 ⑨
⑩ 簡	10 田 ⑩
⑪ 野	11 田 ⑪
⑫ 日	12 田 ⑫
⑬ 原	13 田 ⑬
⑭ 菅	14 田 ⑭
⑮	15 田 ⑮



第82回全国高校大会 県中部予選



2回戦
平成14年9月29日(日)筑紫丘
修猷館111(50-0)0筑前

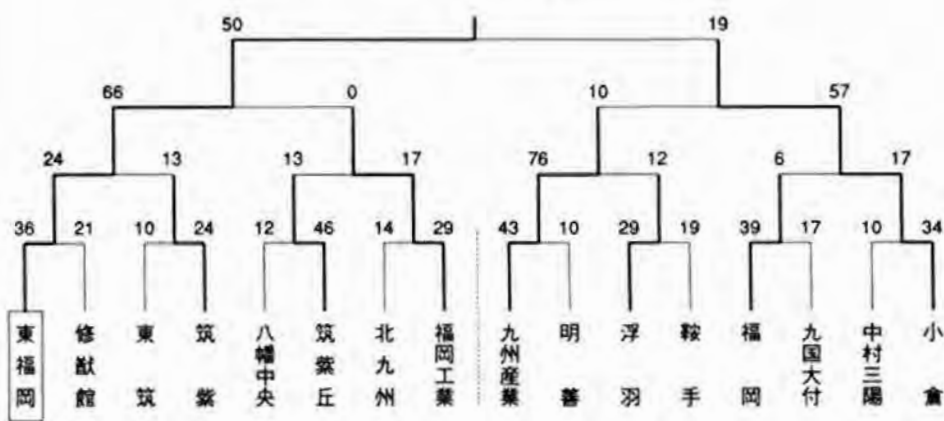
R:不老()
筑紫丘

8
9
5
8
0
0
0
0
0
0
0
0
12

T { 0
G { 0
PG { 0
DG { 0
反則 { 0
FW { 0
HB { 0
TB { 0
FB交代 { 0

①伊川高池平成宮田片井三吉片林二
②藤湖橋島川富内中瀬口原川桐田坂
③高末村山下宮内岡上田
④山小池吉井松
⑤山小池吉井松
⑥山小池吉井松
⑦山小池吉井松
⑧山小池吉井松
⑨山小池吉井松
⑩山小池吉井松
⑪山小池吉井松
⑫山小池吉井松
⑬山小池吉井松
⑭山小池吉井松
⑮山小池吉井松

第82回全国高校大会 福岡県予選



1回戦
平成14年10月6日(日)東福岡高校G
東福岡36(15-7)21修猷館

R:中村(九州)
東福岡高校G

3
3
0
3
0
0
0
0
0
0
0
0
9
17

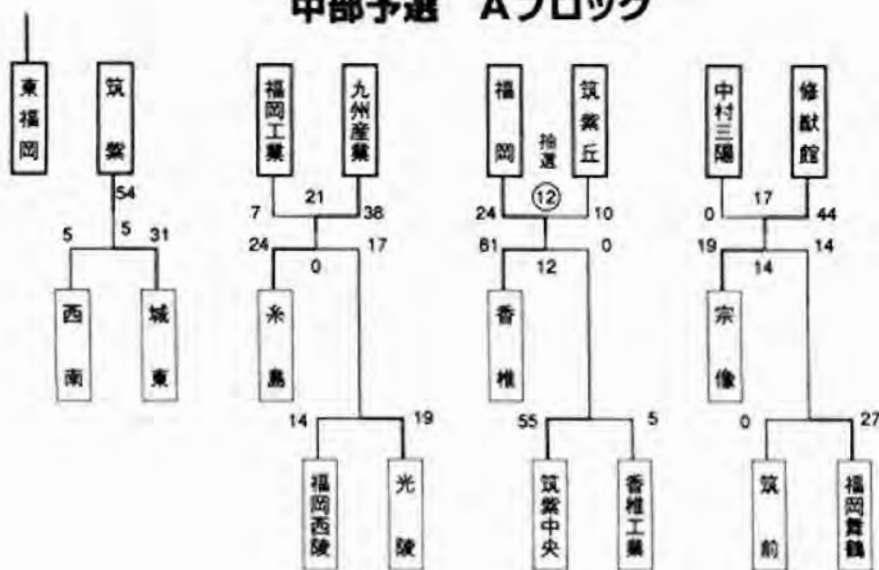
T { 1
G { 2
PG { 0
DG { 0
反則 { 0
FW { 0
HB { 0
TB { 0
FB交代 { 0

①有北吉井久松中大和農
②有北吉井久松中大和農
③有北吉井久松中大和農
④有北吉井久松中大和農
⑤有北吉井久松中大和農
⑥有北吉井久松中大和農
⑦有北吉井久松中大和農
⑧有北吉井久松中大和農
⑨有北吉井久松中大和農
⑩有北吉井久松中大和農
⑪有北吉井久松中大和農
⑫有北吉井久松中大和農
⑬有北吉井久松中大和農
⑭有北吉井久松中大和農
⑮有北吉井久松中大和農



(平成16年秋)

第25回全九州高校新人大会
中部予選 Aブロック



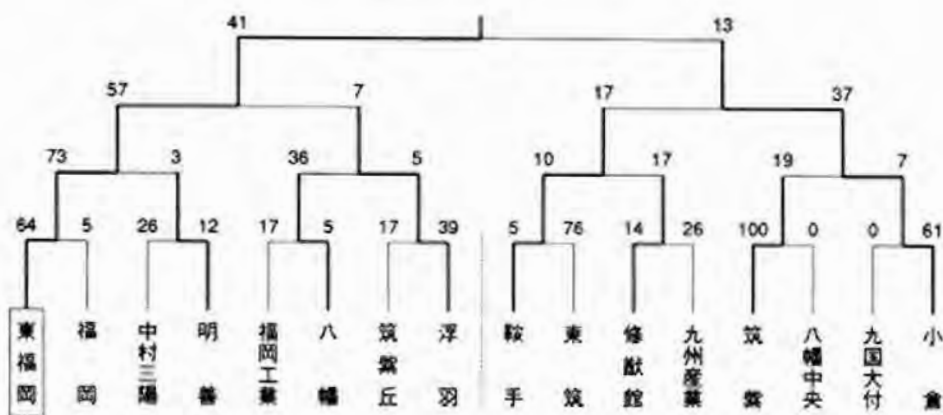
シード戦 R: 金丸(九州)
平成14年12月22日(日)中村三陽
中三 村 0 (0-22) 44 修猷館

0	T	4
0	G	1
0	PG	0
0	DG	0
0	反則	12
11	FW	① 藤西浦石川比伊時片二尾池山緒井
0	HB	② 尾山宮近坂
0	TB	③ 尾山宮近坂
0	FB交代	④ 尾山宮近坂

① 松平 ② 梅佐 ③ 草富 ④ 吉原 ⑤ 佐藤 ⑥ 秋山 ⑦ 石園 ⑧ 大野 ⑨ 尾山 ⑩ 宮近 ⑪ 坂

高方 上川 寄根 藤枝 渡坂 花島 口方 上 藤西浦 石川 比伊時 片二 尾池 山緒 井 尾山 宮近 坂 尾山 宮近 坂 尾山 宮近 坂

第25回全九州高校新人大会
福岡県予選



1回戦 R: 加藤(九州)
平成15年1月19日(日)光陵高校G
修猷館 14 (14-21) 26 九産

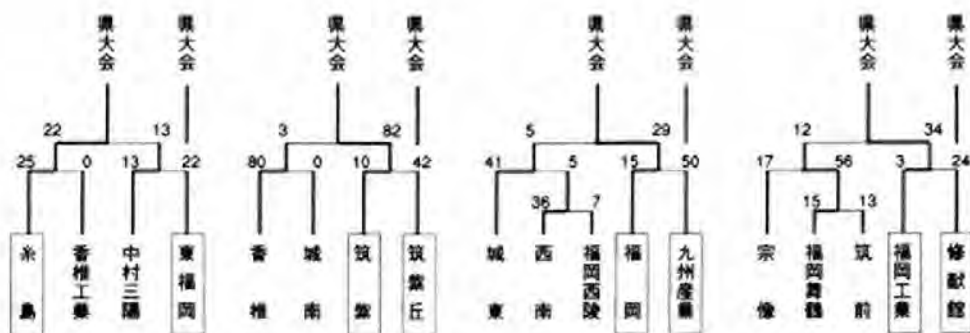
2	T	3
0	G	3
0	PG	0
0	DG	0
0	反則	16
15	FW	① 吉北丸原
0	HB	② 原原藤田口津石川城
0	TB	③ 原原藤田口津石川城
0	FB交代	④ 原原藤田口津石川城

① 藤伊浦石川比伊時片二尾山宮近坂 ② 尾山宮近坂 ③ 尾山宮近坂 ④ 尾山宮近坂

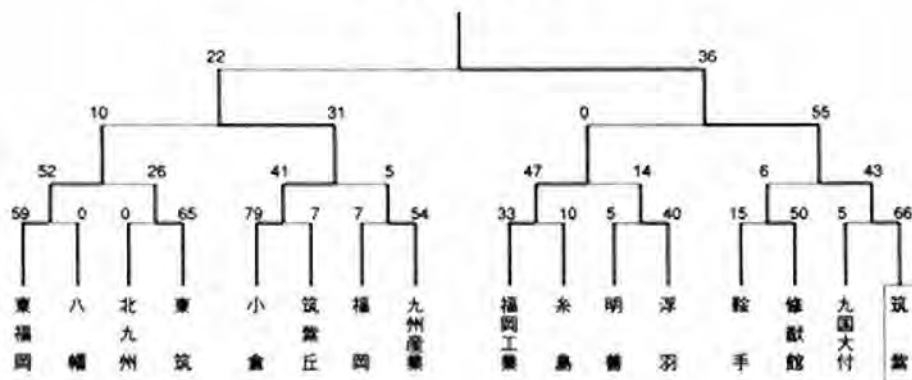
原崎本 原原藤田口津石川城 中 吉北丸原 笠大権原崎中大山金田



第56回全九州高校大会 中部予選 (Aブロック)



第56回全九州高校大会 福岡県予選



1回戦 R:野口(九州)

平成15年5月18日(日)中村三陽高校

戦手15(10-21)50修猷館

21000000000003	T	35320000007	高藤屋川寄根橋枝坂口花島地木上
10000000000000	G	2000000000000	藤伊関石川比高時二山尾池宮近井
00000000000000	PG	0000000000000	屋
00000000000000	DG	0000000000000	高藤屋川寄根橋枝坂口花島地木上
00000000000000	反則	0000000000000	藤伊関石川比高時二山尾池宮近井
00000000000000	FW	0000000000000	高藤屋川寄根橋枝坂口花島地木上
00000000000000	HB	0000000000000	藤伊関石川比高時二山尾池宮近井
00000000000000	TB	0000000000000	高藤屋川寄根橋枝坂口花島地木上
00000000000000	FB	0000000000000	藤伊関石川比高時二山尾池宮近井
00000000000000	交代	0000000000000	高藤屋川寄根橋枝坂口花島地木上

① 柴安江能大梶小大秋宮大矢大花松
② 田部藤美木栗西和吉近丸野保田尾
③ 藤伊関石川比高時二山尾池宮近井
④ 高藤屋川寄根橋枝坂口花島地木上
⑤ 藤伊関石川比高時二山尾池宮近井
⑥ 高藤屋川寄根橋枝坂口花島地木上
⑦ 藤伊関石川比高時二山尾池宮近井
⑧ 高藤屋川寄根橋枝坂口花島地木上
⑨ 藤伊関石川比高時二山尾池宮近井
⑩ 高藤屋川寄根橋枝坂口花島地木上
⑪ 藤伊関石川比高時二山尾池宮近井
⑫ 高藤屋川寄根橋枝坂口花島地木上
⑬ 藤伊関石川比高時二山尾池宮近井
⑭ 高藤屋川寄根橋枝坂口花島地木上
⑮ 藤伊関石川比高時二山尾池宮近井



2回戦 R:杉山(日本)

平成15年5月25日(日)筑紫

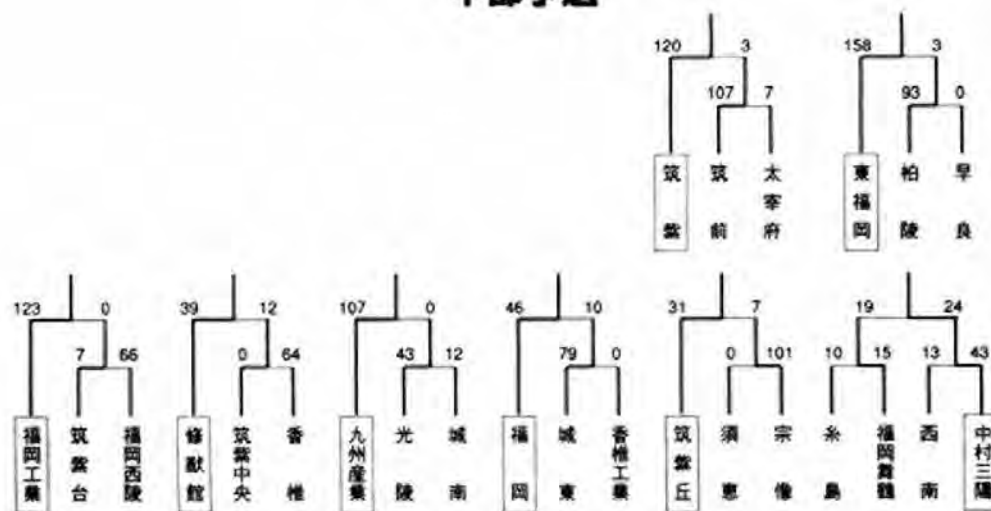
修猷館6(6-14)43筑紫

00000000000003	T	2522000000010	田山末野里木
00000000000000	G	2000000000000	鳥森武日古青
00000000000000	PG	0000000000000	林
00000000000000	DG	0000000000000	田山末野里木
00000000000000	反則	0000000000000	鳥森武日古青
00000000000000	FW	0000000000000	田山末野里木
00000000000000	HB	0000000000000	鳥森武日古青
00000000000000	TB	0000000000000	田山末野里木
00000000000000	FB	0000000000000	鳥森武日古青
00000000000000	交代	0000000000000	田山末野里木

① 藤伊関石川比高時二山尾池宮近井
② 高藤屋川寄根橋枝坂口花島地木上
③ 藤伊関石川比高時二山尾池宮近井
④ 高藤屋川寄根橋枝坂口花島地木上
⑤ 藤伊関石川比高時二山尾池宮近井
⑥ 高藤屋川寄根橋枝坂口花島地木上
⑦ 藤伊関石川比高時二山尾池宮近井
⑧ 高藤屋川寄根橋枝坂口花島地木上
⑨ 藤伊関石川比高時二山尾池宮近井
⑩ 高藤屋川寄根橋枝坂口花島地木上
⑪ 藤伊関石川比高時二山尾池宮近井
⑫ 高藤屋川寄根橋枝坂口花島地木上
⑬ 藤伊関石川比高時二山尾池宮近井
⑭ 高藤屋川寄根橋枝坂口花島地木上
⑮ 藤伊関石川比高時二山尾池宮近井



第83回全国高校大会 中部予選

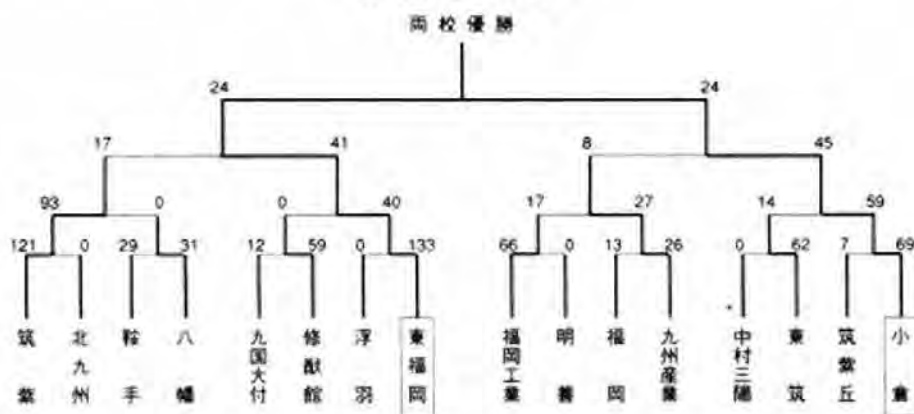


2回戦 R:重松(九州)
平成15年9月28日(日)筑紫高校
修猷館 39(22-7) 12番 惟

4	T	1	川井山安
3	G	1	梶平東光
1	PG	0	村川田上里
0	DG	0	藤中房科
0	反則	6	科山田
0	FW	4	弓
0	HB	6	村山田
0	TB	7	村山田
0	FB	10	村山田
8	交代	15	村山田

①藤時 ②関石 ③関石 ④比屋 ⑤比屋 ⑥山口 ⑦山口 ⑧伊二 ⑨坂宮 ⑩坂宮 ⑪山口 ⑫山口 ⑬尾池 ⑭尾池 ⑮高崎

第83回全国高校大会 福岡県予選



1回戦 R:江頭(九州)
平成15年10月5日(日)東福岡高校
九国大付 12(7-38) 59 修猷館

1	T	6	高枝
1	G	3	屋川
0	PG	4	寄根
0	DG	3	和藤
0	反則	0	坂田
0	FW	11	木地
0	HB	1	高田
0	TB	1	尾花
0	FB	1	鳥
7	交代	1	山

①大発 ②大末 ③大末 ④大末 ⑤大末 ⑥大末 ⑦大末 ⑧大末 ⑨大末 ⑩大末 ⑪大末 ⑫大末 ⑬大末 ⑭大末 ⑮大末



(平成16年秋)

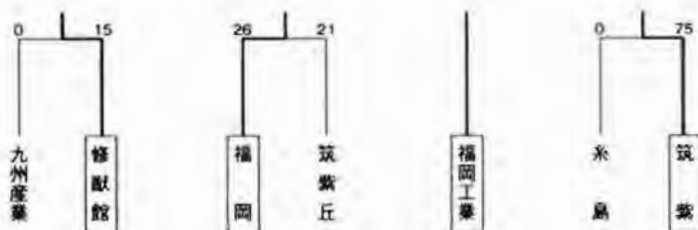
2回戦 R:杉山(九州)
平成15年10月12日(日)79-74(79-74)
修猷館 0(0-21) 40 東福岡

0	T	3	住田
0	G	3	西山
0	PG	2	川田
0	DG	0	田
0	反則	0	林
7	FW	7	隈田
0	HB	7	丸
0	TB	10	中
0	FB	11	村
7	交代	12	丸

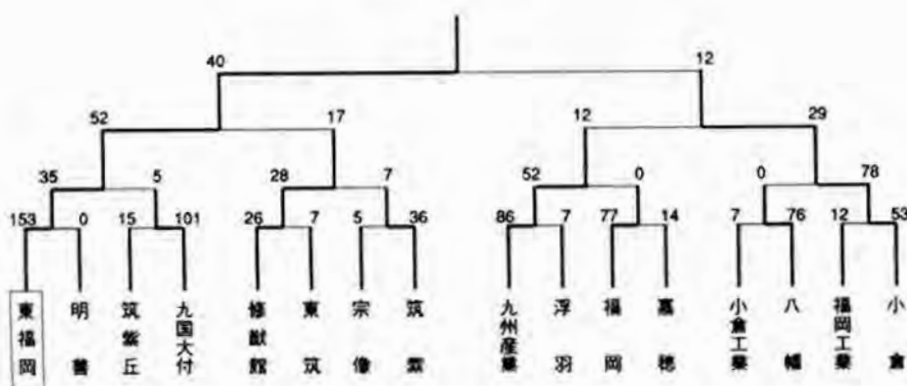
①藤時 ②関石 ③関石 ④比屋 ⑤比屋 ⑥山口 ⑦山口 ⑧伊二 ⑨坂宮 ⑩坂宮 ⑪山口 ⑫山口 ⑬尾池 ⑭尾池 ⑮高崎

1回戦 R:不老(九州)
平成15年10月5日(日)中村三陽高校

第26回全九州高校新人大会 中部予選 (Aブロック)



第26回全九州高校新人大会 福岡県予選



2回戦 R:水田(福岡)
平成15年12月21日(日)修猷館
九州産業 0 (0-10) 15 修猷館

0	T	2
0	G	1
0	PG	0
0	DG	0
0	反則	0
6		18
① 福岡松笠	FW	① 時馬
② 笠矢中		② 馬関
③ 中丸		③ 石高
④ 藤木		④ 山山
⑤ 藤木		⑤ 山山
⑥ 藤木		⑥ 山山
⑦ 藤木		⑦ 山山
⑧ 藤木		⑧ 山山
⑨ 藤木		⑨ 山山
⑩ 藤木		⑩ 山山
⑪ 藤木		⑪ 山山
⑫ 藤木		⑫ 山山
⑬ 藤木		⑬ 山山
⑭ 藤木		⑭ 山山
⑮ 藤木		⑮ 山山
進藤	HB	① 枝渡
	TB	② 馬関
	FB交代	③ 石高

1回戦 R:高木(九州)
平成16年1月18日(日)70-1471-7
修猷館 26 (19-0) 7 東 筑

3	T	0
1	G	0
2	PG	0
1	DG	0
0	反則	0
20		8
① 時馬	FW	① 城山
② 馬関		② 中山
③ 石高		③ 小村
④ 山山		④ 桑館
⑤ 山山		⑤ 藤伊
⑥ 山山		⑥ 福竹
⑦ 山山		⑦ 行竹
⑧ 山山		⑧ 元石
⑨ 山山		⑨ 元石
⑩ 山山		⑩ 元石
⑪ 山山		⑪ 元石
⑫ 山山		⑫ 元石
⑬ 山山		⑬ 元石
⑭ 山山		⑭ 元石
⑮ 山山		⑮ 元石
庄島	FB交代	① 田下
		② 村原
		③ 原上
		④ 原東
		⑤ 正内
		⑥ 江嶋
		⑦ 橋

2回戦 R:高木(九州)
平成16年1月25日(日)70-1471-7
修猷館 28 (14-7) 7 筑 紫

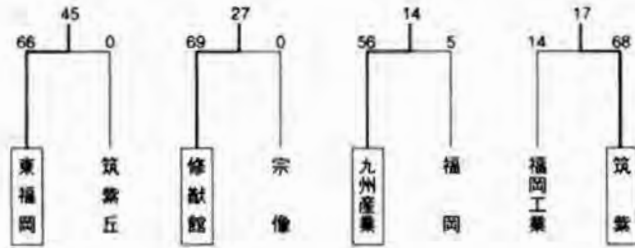
2	T	1
2	G	0
2	PG	0
2	DG	0
0	反則	0
7		5
① 青時	FW	① 小尾
② 関石		② 吉吉
③ 高山		③ 吉内
④ 山山		④ 吉内
⑤ 山山		⑤ 吉内
⑥ 山山		⑥ 吉内
⑦ 山山		⑦ 吉内
⑧ 山山		⑧ 吉内
⑨ 山山		⑨ 吉内
⑩ 山山		⑩ 吉内
⑪ 山山		⑪ 吉内
⑫ 山山		⑫ 吉内
⑬ 山山		⑬ 吉内
⑭ 山山		⑭ 吉内
⑮ 山山		⑮ 吉内
飯盛	FB交代	① 島江
		② 綱村
		③ 田村
		④ 林
		⑤ 里原
		⑥ 野上
		⑦ 戴武
		⑧ 宮田
		⑨ 原盛

準決勝戦 R:岩下(日本)
平成16年1月31日(土)70-1471-7
東福岡 52 (26-12) 17 修猷館

4	T	2
4	G	1
3	PG	0
3	DG	0
0	反則	0
9		2
① 堂仲	FW	① 時馬
② 奥		② 馬関
③ 豊浦		③ 石高
④ 有榮		④ 山山
⑤ 福和		⑤ 山山
⑥ 和中		⑥ 山山
⑦ 日宮		⑦ 山山
⑧ 朝榮		⑧ 山山
⑨ 柴		⑨ 山山
⑩ 柴		⑩ 山山
⑪ 柴		⑪ 山山
⑫ 柴		⑫ 山山
⑬ 柴		⑬ 山山
⑭ 柴		⑭ 山山
⑮ 柴		⑮ 山山
飯盛	FB交代	① 枝渡
		② 馬関
		③ 石高
		④ 山山
		⑤ 山山
		⑥ 山山
		⑦ 山山
		⑧ 山山
		⑨ 山山
		⑩ 山山
		⑪ 山山
		⑫ 山山
		⑬ 山山
		⑭ 山山
		⑮ 山山



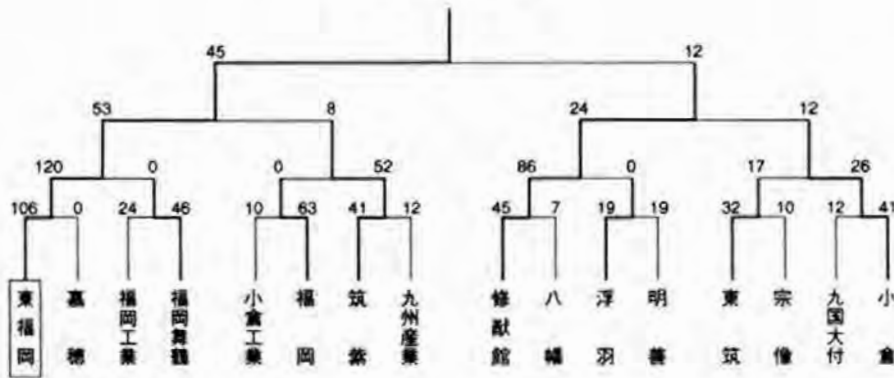
第57回全九州高校大会 中部予選 (Aブロック)



2回戦 R: 畑井(福岡)
平成16年5月9日(日)福岡工業
修猷館 69 (31-0) 0 宗像

5	T	0	①	田村	飯牧	田部
6	G	0	②	原中	脇	仲小
3	G	0	③	木枝	屋川	藤口
4	PG	0	④	青時	関	石
0	PG	0	⑤	山山	山	山
0	DG	0	⑥	山山	山	山
0	DG	0	⑦	山山	山	山
0	反則	3	⑧	山山	山	山
8	反則	3	⑨	山山	山	山
FW	FW	0	⑩	山山	山	山
HB	HB	0	⑪	山山	山	山
TB	TB	0	⑫	山山	山	山
FB交代	FB交代	0	⑬	山山	山	山
		0	⑭	山山	山	山
		0	⑮	山山	山	山

第57回全九州高校大会 福岡県予選



1回戦 R: 不老(九州)
平成16年5月23日(日)宗像高校

修猷館 45 (12-7) 7 八幡
(33-0)

2	T	1
5	G	0
1	G	0
3	PG	0
0	PG	0
0	DG	0
0	DG	0
7	反則	5

①	木枝	屋川	藤口	武崇	測沢	木田	原上
②	青時	関	石	山山	山山	山山	山山
③	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
④	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑤	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑥	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑦	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑧	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑨	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑩	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑪	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑫	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑬	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑭	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑮	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山

2回戦 R: 猿渡(九州)
平成16年5月30日(日)浮羽

修猷館 86 (36-0) 0 浮羽
(50-0)

6	T	0
8	G	0
3	G	0
5	PG	0
0	PG	0
0	DG	0
0	DG	0
6	反則	6

①	川見	場田	中下	山原	手田	藤林	永山
②	中深	柴田	木中	郷山	藤丸	江丸	林
③	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
④	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑤	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑥	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑦	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑧	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑨	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑩	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑪	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑫	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑬	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑭	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑮	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山

準決勝 R: 高木(九州)
平成16年6月5日(日)小倉

修猷館 24 (7-5) 12 小倉
(17-7)

1	T	1
3	G	0
1	G	0
1	PG	0
0	PG	0
0	DG	0
0	DG	0
17	反則	8

①	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
②	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
③	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
④	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑤	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑥	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑦	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑧	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑨	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑩	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑪	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑫	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑬	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑭	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑮	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山

決勝 R: 高木(九州)
平成16年6月6日(日)修猷館

東福岡 45 (28-5) 12 修猷館
(17-7)

4	T	1
2	G	0
4	G	0
4	PG	0
2	PG	0
0	DG	0
1	DG	0
0	反則	7

①	木枝	屋川	藤口	武崇	測沢	木田	原上
②	青時	関	石	山山	山山	山山	山山
③	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
④	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑤	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑥	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑦	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑧	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑨	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑩	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑪	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑫	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑬	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑭	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山
⑮	山山	山山	山山	山山	山山	山山	山山

13

あの日あの時

(新聞、雑誌の紙面で再現)

全国大会18年ぶりの出場に涙、涙の修猷積高フィフティーン
(3日午後3時7分、福岡市中央区平和台ラグビー場で)



進学校だって強いぞ

4-3。勝敗はどたん場までわからなかった。後半最後の10分間は、修猷が自陣にくぎづけ。福工がTB攻撃でチャンスをつかみ、修猷ゴールにせまる。必死のタックルで阻む修猷。ゴールまであと20分、福工の早いTBパスが右に回り、修猷のマークがずれる。「やられた」と修猷応援団が目をつぶった瞬間、パスをつかんだ福工選手がポロリ。修猷は前半22分にあげた一つのトライを、好タックルと「勝運」で守り抜いた。

(朝日新聞)

修猷ラグビー全国大会へ

18年ぶり、OBも涙

三百年西暦十六日、福岡市の工業者がポロリ。修猷は前半22分にあげた一つのトライを、好タックルと「勝運」で守り抜いた。修猷は九州でも、二を誇る進学校同様に、全国の情にもれず、選手と応援団も感動の涙を流した。かつて同じで優勝、準優勝した経験が、修猷を待たせつた。

ビ丁部も例外ではなかった。部長の淵本武陽先生は「二十五年卒のOB、大会優勝などでラグビーをやる生徒が減って、十五人のメンバーが集まるかどうかという38年に部長を引き受けた。今年チームはスタートプレーヤーがいらない。チームワークの勝利です。」

部長が増え、OBの活躍を促めるため、父兄会も進め、学校、OB、父兄三者一体の応援体制が実現した。昨年は大会優勝に貢献したが、大規模なOB4人で迎撃は、しかし、今年三十八人のOBが揃い、「十八年目の勝利」への決意をした。

「今年チームはスタートプレーヤーがいらない。チームワークの勝利です」。淵本先生は目をしばたたく。選手たちの成長を信じながら、優勝目標にもハッパをかけてきた十数年間、ビンのしらが、長い間の努力をしのばせて、そこに希望のラグビーチーム

部長の淵本武陽先生(46)は25年卒のOB。大学受験などでラグビーをやる生徒が減って、15人のメンバーが集まるかどうかという38年に部長を引き受けた。「今年チームはスタートプレーヤーがいらない。チームワークの勝利です。」

(朝日新聞)

やった、やった！修猷ラグー



【勝ったぞ】肩を指さ合ってうれし泣きの修猷ラグビー選手たち

18年ぶり優勝

喜びでスタンドも総立ち

新春に、京都府花田ラグビー連合会が主催する「新春全国大会」で、修猷ラグビー部が18年ぶりに優勝した。この大会は、全国のラグビー部員が一堂に会する最大の大会で、修猷ラグビー部は、この大会で、18年ぶりに優勝した。この大会は、全国のラグビー部員が一堂に会する最大の大会で、修猷ラグビー部は、この大会で、18年ぶりに優勝した。

この大会は、全国のラグビー部員が一堂に会する最大の大会で、修猷ラグビー部は、この大会で、18年ぶりに優勝した。この大会は、全国のラグビー部員が一堂に会する最大の大会で、修猷ラグビー部は、この大会で、18年ぶりに優勝した。

この日のために、クラスで応援隊を準備。クラス全員で駆けつけた。この日のために、クラスで応援隊を準備。クラス全員で駆けつけた。

豊富な品揃え

タサカペット

中野店 TEL781-760429

この大会は、全国のラグビー部員が一堂に会する最大の大会で、修猷ラグビー部は、この大会で、18年ぶりに優勝した。この大会は、全国のラグビー部員が一堂に会する最大の大会で、修猷ラグビー部は、この大会で、18年ぶりに優勝した。

ノーサイドのホイッスルが鳴った瞬間、スタンドの修猷応援団約500人の『ウオーツ』やった、やった』という声ラグビー場いっぱいに爆発した。昨年の同大会決勝戦で北九州市の大里に敗れ、涙をのんだ修猷ラグビーの気迫のこもった試合ぶり。最小点差1点を守り切ったファイティーンに、OB、在校生は歓喜の涙にむせんだ。

佐村和春館長は『うれしい。優勝は生徒の力の和です。学校のムードも盛り上がり、他の生徒にもいい影響を与えてくれると思います』と語った。この日のために、クラスで応援隊に駆けつけた3年1組の生徒たちは紙吹雪やゴミの掃除をしながら『花園までこの応援旗をもって応援いきます』とニコニコ。修猷館ラグビーとは何かとの問いに女生徒は『修猷のすべて』と答え、熱い視線を選手に送っていた。(西日本新聞)

修猷館ラグー歓声

18年ぶり新春全国大会へ

福工下す

修猷ラグビー部は、この大会で、18年ぶりに優勝した。この大会は、全国のラグビー部員が一堂に会する最大の大会で、修猷ラグビー部は、この大会で、18年ぶりに優勝した。

この大会は、全国のラグビー部員が一堂に会する最大の大会で、修猷ラグビー部は、この大会で、18年ぶりに優勝した。この大会は、全国のラグビー部員が一堂に会する最大の大会で、修猷ラグビー部は、この大会で、18年ぶりに優勝した。

喜びの校歌、応援歌が流れる中で、淵本武陽部長は「最後は気力の勝利でした。両校とも高校生らしい、いいプレーをしてくれました。7日からの期末試験をひかえ1日2時間の練習しかできなかったが、チームワークでやればできる、ということを実証してくれたのがなによりうれしい」と感慨ひとしおの様子。(読売新聞)

一勝
ラグビー
決勝
校予選
高県

東福岡に花園切符

修猷館、反撃及ばず

第81回全国高校ラグビーフットボール大会（毎日新聞社など主催）の県予選決勝が10日、博多区東平尾公園の博多の森球技場であり、東福岡が修猷館を24-14で降し2年連続12回目の「花園切符」を手にした。東福岡は、12月27日に大阪府東大阪市近鉄花園ラグビー場で開幕する全国大会に出場する。

【福岡静成】



【東福岡・修猷館】前半13分、修猷館陣22m付近のラックから東福岡、有田が飛び出し突進しトライ

FWの東福岡とバックスの修猷館。自分たちのラグビーをできたかどうか、勝敗を決めた。

東福岡は前半10分、残り2分でラックから出たボールを右中間に先制トライ。同13分には東福岡

修猷館	000000	2200	14
TOPD前	2200	14	
TOPD後	10	10	
東福岡	2200	14	
反	19		
24	14		

陣22m付近で相手スクラムボールを奪い、FB太田（3年）が40mを独走。有田（2年）につなぎ左中間にトライ。後半10分にも相手ラックからボールを奪い、パスを受けたFB太田が80mの独走からトライを決めた。修猷館は、残り約10分で本領を発揮。後半19分、スクラムからゴールライ

東福岡・川内敏心監督代理 15人が一体となり、考えていた通りのラグビーができた。ミスが減らし、なんとしても全国制覇を果たしたい。

修猷館・岡本圭吾監督 よく頑張ったが、「やらなければ」という気持ちが強すぎ、バックスが思うようにゲームメイクできなかった。

▽H・B比例、水原 藤中橋野瀬内井川角藤川上 伊野高川大川高松吉三南藤井 有崎豊高青米大佐吉池有山太

で相手ボールを奪い、相手陣を一気についた。修猷館は再三相手ゴール前まで迫りながら、密集プレーやラインアウト、スクラムで勝る東福岡に決め手を封じられ、流れを引き寄せられなかった。

大でラグビーを続けていく児島真悟さん(18)は「今年のチームはバックスに展開力がある。花園行きの夢を裏切らしてほしい」とエールを送ったが、試合は惜敗。泣き崩れる後輩たちを「よく頑張った」と慰めていた。

この10年間で花園に最も近かった一戦。
平成13年11月10日（博多の森）
修猷館高14-24東福岡高。
（東福岡は全国大会準優勝）

FWの東福岡とバックスの修猷館。自分たちのラグビーができたかどうか、勝敗を決めた。
（毎日新聞）

プロ ロ 契 約 日本代表5人誕生約



日本ラグビー再興の切り札として立てられた改革3本柱。「フルタイムの日本代表監督就任」、「外国人コーチ招聘」はすんなりと導入となったが、関係者も、ファンも、きつと選手たちさえ大丈夫？と思っていた。「日本代表オープン化（専従派遣とインセンティブの供与）」が、ついに現実のものとなった。

日本協会は5月11日、日本代表選手5人と、プロ契約を結んだことを発表した。

「日本固有の企業スポーツという形態を大切にしながら、代表のオープン化を進めてきた。各企業も選手の将来のことを考慮して真剣に取り組んでくれた。最初は池に小石がひとつ落ちただけの波紋が少しずつ広がりに、この日を迎えることができた」と先頭に立って改革を進めてきた宿沢広朗強化委員長が淡々と経緯、内容、展望を語る中で、阿久根潤、岩淵健輔、加藤昭仁、木曾一、辻本裕らが、やや強張った顔で座っていた。英・プレミアシップ、サラセンスに在籍中の岩淵以外、日本の企業に属する4選手は、試行期間の今年は5月1日から7月31日までの3か月間、所属企業から日本協会への「専従派遣」という形になる。

プロ1号になれて幸せ。
加藤昭仁 (HO/NTT-ME東北)
▶かわら・あきひと ▶キャップ0
▶179V、100*。▶男農工

世界と戦うために必要だったこと。
岩淵健輔 (SO/サラセンス)
▶いわぶら・けんすけ ▶キャップ12
▶178V、79*。▶青学高→青学大

ラグビー人口を増やす一助に。
阿久根潤 (LO/東京ガス)
▶あくね・じゅん ▶キャップ0
▶192V、100*。▶修武院一慶大



大好きなラグビーで、ご飯を食べられる。
辻本裕 (HO/近鉄)
▶つじもと・ゆうたか ▶キャップ0
▶180V、100*。▶大阪工大高→難谷大

ようやく器ができたところ。これから中身を作っていく。
宿沢広朗 日本代表強化委員長

次は、キャップ獲得。
木曾一 (FL/ヤマハ発動機)
▶きそ・はじめ ▶キャップ0
▶195V、100*。▶三島(大阪)→立命大

※各選手のキャップ数は契約開始となった5月1日現在のものです

主要社会人チームは、今年1月から、代表選手への専従派遣と選手への報酬支払いについて日本協会から了承を求められていたが、インセンティブ(由業報酬)報酬の支払いについては日本代表選手を抱える全社が承諾。専従派遣についてはサントリー、東芝府中、リコーが今季は見送る方針で、神戸製鋼、トヨタ自動車、NEC、クボタ、サニックスは検討中としている。「労組との調整がまだ」、「先駆者の成果を身で受けてから」という企業が多いのが現状。

今回、各企業との交渉に尽力した東健太郎日本代表総務によると、もっとも留意したのが「ラグビーに没頭する3か月、日本代表でのキャリアが、会社でのキャリアと同じように評価されるか。契約期間終了後には同じ職場に戻れるかといったこと。社会人としての経歴にマイナス材料とならないか危惧されたが、「理解は得られた」と岡氏。むしろ会社の宣伝活動として高く評価する企業もあったという。

今年1月からの代表選手への専従派遣と選手への報酬支払いについて日本協会から了承を求められていたが、インセンティブ(由業報酬)報酬の支払いについては日本代表選手を抱える全社が承諾。専従派遣についてはサントリー、東芝府中、リコーが今季は見送る方針で、神戸製鋼、トヨタ自動車、NEC、クボタ、サニックスは検討中としている。「労組との調整がまだ」、「先駆者の成果を身で受けてから」という企業が多いのが現状。

今回、各企業との交渉に尽力した東健太郎日本代表総務によると、もっとも留意したのが「ラグビーに没頭する3か月、日本代表でのキャリアが、会社でのキャリアと同じように評価されるか。契約期間終了後には同じ職場に戻れるかといったこと。社会人としての経歴にマイナス材料とならないか危惧されたが、「理解は得られた」と岡氏。むしろ会社の宣伝活動として高く評価する企業もあったという。

今回契約を結んだ選手たちは、基本給とインセンティブ報酬を受け取ることになるが、基本給はそれぞれの選手の実績、評価によって4段階に分かれており、これは日本協会より各所属企業に契約期間の給与を補てんする形で支払われる。選手に直接支払われるインセンティブ報酬には下記の表のような種類があるが、例えば勝利給や出場時間給は、予め

2001年5月、日本ラグビー界に初のプロ選手5人が生まれた。そのうちの1人がOBの阿久根潤。慶応大が学生日本一に輝いたときのロックスで、東京ガス勤務。会社から専従派遣された。

阿久根(写真右から2人目)は、「ラグビー人口を増やす一助に」と謙虚に抱負を語っている。

(ラグビーマガジン)
2001年7月 NO・344号)

試合がランクづけされており、それによって金額も変わってくる。ちなみに今季もっとも高額試合として位置づけられているのは6月のウェールズとのテストマッチ。具体的な金額は明かされなかったが、「ある選手が力を高め、全部の試合に出て、すべて勝ち、高い評価を得て、パシフィッククリム、アジア3か国対抗に優勝すれば、一般的なサラリーマンの給料の倍くらいの十分魅力的な額になる」と宿沢強化委員長。プロ資格のない学生プレイヤーは、遠征費、治療費等のみを受け取ることができるとも。

日本代表には若い名前が並び、改革の動きが始まったばかりのいま、正直なところ、発生する報酬はプロと呼ぶにふさわしいプレーへの対価ではなく、投資、強化策と考えるべき。「悪いけど、ようやく踏んできたところ。これから中身を作っていく」とは宿沢委員長だ。

専従派遣プロの誕生により、そんな現状がどうプラスの方向に転換していくか、多くの人が注目している。

ふくおか

高校ラグビー
県大会決勝

東福岡5年連続「花園」へ

44-12で修猷館降す

第84回全国高校ラグビーフットボール選手権大会（毎日新聞社など主催）の県大会決勝が13日、福岡市博多区の博多の森球技場であり、東福岡が修猷館を44-12で破って5年連続15回目の花園出場を決めた。東福岡は昨年度の全国大会でベスト8入りしている。今年度は来月27日、東大阪市の近鉄花園ラグビー場で開幕する。
【石田宗久】



【東福岡・修猷館】前半28分、ゴール前のラックから抜け出した東福岡の選手がトライ

東福岡は昨年度の県大会で小倉と優勝を分け合い、トライ数で上回って花園出場を決めた修猷館を破る選手たちが脚上げがあるが、今回は文句なしの快勝。ニュージーラ

ゲームは前半開始1分、自陣10メートル中央のラックからパスをつないだ東福岡が、S O中村誠一選手のトライで先制。修猷館は7分、ラインアウト

▽HB（片岡、松岡） 塚崎川枝口 武隈太田田上福
▽FW（中野、藤本） 平伊関右時山山山山山山山山石
▽東福岡FW TB FB
山 西 川 野村 岡 田 水 戸 戸 尾
山 岡 田 田 田 田 田 田 田 田
▽HBB（中村、中村、中村） 中村 中村 中村
▽入替（藤原、竹原、石） 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原
▽青木（平塚、吉松、吉松） 青木 青木 青木 青木 青木 青木
▽田原（藤原、光、光） 田原 田原 田原 田原 田原 田原
▽村（高木、高木、高木） 村 村 村 村 村 村
▽決勝
東福岡 44 (20-17) 12 修猷館

からモールを作ってFWで押し込んでトライ、ゴールキックも決めて逆転すると、その後も相手ゴールに迫った。22分、東福岡はスクラムからの素早い球出しで、パスを受け

けたWTB柴田俊介選手がトライし再逆転。28分にはFB飯公太選手がトライに成功するなど、得点を重ねた。後半に入っても東福岡の勢いは止まらず、11分ラックからの速攻で追加点を挙げた。一方の修猷館は20分、連続ラックで前進し、FL山本武生選手がトライ。だが24分、東福岡は途中出場でCTB高本賢二選手がトライ、27分には中村誠一選手がこの日の3本目のトライを決めるなど、大差で逃げ切った。
花園では8強目指す
豊田将方・東福岡主将
今年「勝利」を決めて全国大会に行きたかったのだけれど、FWがよく我慢したからそこBKが攻めることができた。後半は理想の戦いができた。花園では昨年より決めるべきであったベスト8以上を目指し、精神的な甘さがあった。時枝将・修猷館主将
モールには自信があったが、ディフェンスが後半崩れたのは精神的な甘さ。負けた悔しさはあるが、苦しい練習を乗り越えた最高の仲間とラグビーができてよかった。東福岡には頑張ってもらいたい。

全国大会福岡県決勝

平成16年11月13日（土）

博多の森競技場

修猷館は福岡舞鶴、福岡、福岡工を破って

決勝に進出した。

勝てば27年ぶりの花園。しかし……。

時枝将・修猷館主将 モールには自信があった。ディフェンスが後半崩れたのは精神的甘さ。負けた悔しさはあるが、苦しい練習を乗り越えた最高の仲間とラグビーができてよかった。 (毎日新聞)

～ 天理高との対戦再び ～

半世紀ぶりの再戦 修猷館高校ラグビー部 殿



平成16年4月25日

贈 天理高校ラグビー部

天理高との交流

◇昭和27年1月1日、全国高校大会1回戦（西宮球技場）

修猷館高	42	[24 - 0]	5	天理高
(福岡県代表)			19 - 5			(東近畿代表)

◇平成16年4月25日、交流試合（修猷館高）

天理高	40	[7 - 12]	12	修猷館高
			33 - 0			

あれから52年後の平成16年4月25日。修猷館高グラウンドで、両校の現役による熱き戦いが再現された。この交流戦が実現したのは、修猷館24代館長（平成11年～13年）で現天理高副校長・前川昭治先生の声掛けによるものであった。

この年の春の全国選抜大会で優勝した天理に対して、前半は修猷が大型FWを前面に生かした攻撃で押し気味に経過した（12対7）。しかし、後半は天理が日本一の実力通り修猷の弱点を見抜きあっさり突き離された（12対40）。52年前の雪辱をされてしまった。

試合に敗れたものの、修猷の学校の雰囲気や紹介ビデオ、そして生徒たちが文武両道にチャレンジしている姿を見て、天理の生徒たちが感銘していたのが印象に残った。

（監督・岡本圭吾）

14

福岡県高等学校

ラグビー部

創部年一覧

ラグビー部創部年一覧

福岡県高等学校ラグビー部創部年一覧

学校名	創部年
福岡	大正13年
修猷館	大正14年
嘉穂	昭和5年
門司	昭和5年
明善	昭和11年
東筑	昭和12年
門司商	昭和13年
福岡工	昭和21年
香椎	昭和21年
小倉	昭和21年
筑紫丘	昭和21年
八幡	昭和21年
糸島	昭和22年
山田	昭和22年
若松	昭和22年
西南学院	昭和23年
八女工	昭和23年
小倉工	昭和24年
八幡中央	昭和24年
八女	昭和24年
宗像	昭和25年
東福岡	昭和30年
九州朝鮮高級学校	昭和31年
香椎工	昭和37年
筑紫台	昭和38年
大里	昭和38年
九州共立八幡西	昭和40年
浮羽	昭和41年
粕屋	昭和41年
苅田工	昭和41年

平成17年5月1日現在

学校名	創部年
城南	昭和41年
筑紫中央	昭和41年
北九州	昭和42年
久留米	昭和46年
筑紫	昭和48年
稲築	昭和49年
福工大付	昭和50年
福岡西陵	昭和54年
鞍手	昭和55年
北筑	昭和55年
光陵	昭和57年
筑前	昭和58年
八幡工	昭和59年
須恵	昭和60年
直方	昭和60年
柏陵	昭和60年
小郡	昭和61年
玄洋	昭和61年
中村三陽	昭和62年
福岡第一	昭和62年
九産大付九産	平成元年
早良	平成元年
中間	平成元年
新宮	平成2年
九国大付	平成5年
福岡舞鶴高校	平成7年
西田川	平成13年
朝倉農	平成14年
太宰府	平成14年
明治学園	平成16年

校名改称

稲築高校 → 稲築志来井館高校

九共立八幡西高校 → 自由ヶ丘高校

休部又は廃部校名

平成10年 若松高校・苅田工業高校

平成13年 八幡工業高校・山田高校・粕屋高校

平成16年 門司商業高校・玄洋高校

15

関係年表

(平成7年～同16年)

	1995 (平成7年) [乙亥]	年代
	村山富市内閣 (8月8日村山内閣成立)	内閣名
	第23代館長 船津正明	館長名
<ul style="list-style-type: none"> ● 第76回全国高校ラグビー 優勝戦 西陵商26-25啓光学園 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第75回全国高校ラグビー 優勝戦 大阪工大高50-10秋田工 	<p>ラグビー関連記事</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 第18回応援歌伝承会。歌唱指導は東野浩 (昭和2年卒) ほか19人。 (3月13日) ● 欧州連合 (EU) は狂牛病感染のおそれがあるとして英国産牛肉・乳製品の全面的禁輸措置を決定。 (3月27日) ● 創立記念講演「大航空時代の幕開け―21世紀を担う若者たちへ―」日本航空取締役福岡支店支店長 塩田年夫氏 (昭和31年卒) (5月30日) ● 国際サッカー連盟理事会02年サッカー・ワールドカップの日本韓国共催を決定。 (5月31日) ● オリンピック100周年記念大会第26回アトラクタ大会 (7月19日)〜8月4日) 	<p>その他の主な出来事</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 創立210周年記念講演「人間的魅力について―故広田首相のことなど―」城山三郎氏 (作家「落日燃ゆ」) ー広田弘毅の生涯―著者) (5月30日) ● ミヤンマー民主化運動指導者アウン・サン・スー・チーさんの自宅軟禁が6年振り無条件で解除された。 (7月10日) ● 第1回つくば・東京研修旅行 (第2学年) (8月3〜6日) ● 第1回海外研修旅行 (ニューヨーク・ワシントン) (8月21〜29日) ● 文化講演会「戦後50年の世界と日本」朝日新聞取締役 箱島信一 (昭和31年卒) (10月20日) ● 渡米した元近鉄の野茂英雄投手は、大リーグ・ドジャースで大活躍。13勝6敗、236三振奪取などの成績を上げ、日本人初の米リーグ新人王となる。 ● ラグビー部創部70周年。記念式典。 ● 陸上全日本ジュニア選手権4位入賞 (岩本)。ラグビー全日本ジュニアイングラウンド遠征代表 (阿久根)。 ● 中東和平に功績があったことでノーベル平和賞を受賞したイスラエルのラビン首相がユダヤ教過激派学生に暗殺される。 (11月4日) ● ノーベル平和賞 ジョゼフ・ロートブラット (バグウォッシュ会議会長) ー核兵器削減に功績 	

(平成9年)〔丁丑〕	1996 (平成8年)〔丙子〕	年代
(第2次橋本改造内閣9月11日成立)	第1次橋本龍太郎内閣(1月5日村山首相辞意表明)	内閣名
船津正明	第23代館長 船津正明	館長名
<p>● 第77回全国高校ラグビー優勝戦 国学院久我山33-29伏見工</p>		ラグビー関連記事
<p>● アフリカ勢の支持を背景に、第7代国連事務総長にガーナ出身のコフィ・アナン氏が就任。 (1月1日)</p> <p>● 第19回応援歌伝承会。歌唱指導は東野浩(昭和2年卒)ほか24人。卓話：伊勢田黎二(昭和20年卒) (3月13日)</p> <p>● 消費税率5%へ引上げ。 (4月1日)</p> <p>● ベルーの日本大使公邸人質事件でベルー軍特殊部隊が突入。ゲリラ14人全員射殺。 (4月22日)</p> <p>● 創立記念講演「21世紀の生命科学」 東京大学教授 勝木元也(昭和37年卒) (5月30日)</p> <p>● 臓器移植法成立。10月16日施行。 (6月17日)</p> <p>● アヘン戦争以来1世紀半の間、英の統治下にあった香港が中国に返還され特別行政区となる。 (7月1日)</p> <p>● 第3回海外研修旅行。 (7月23～28日)</p> <p>● 第3回国内研修旅行(第2学年)。 (8月25～28日)</p>	<p>● 第2回海外研修旅行(ニューヨーク・ワシントン) (7月21～29日)</p> <p>● 映画「男はつらいよ」シリーズなどの庶民的な役で親しまれてきた俳優の渥美清(本名 田所康雄)さんが死去。 (8月4日)</p> <p>● 第2回つくば・東京研修旅行(第2学年) (8月26～29日)</p> <p>● 韓国、紅陵市の海岸で座礁した北朝鮮の潜水艦が発見され、上陸した26人のうち24人が射殺や自殺、1人が拘束され、1人が行方不明。 (9月10日)</p> <p>● 文化講演会「科学と技術」 東北大学総長・工学博士 西澤潤一氏 (10月3日)</p> <p>● ベルーの日本大使公邸、武装左翼ゲリラに占拠される。約600人監禁。12月20日以降、断続的に解放。 (12月17日)</p> <p>● ノーベル平和賞 ジョゼ・ラモス・ホルタ(東ティモール民族抵抗評議会共同代表)―東ティモール紛争の平和解決を追究</p>	その他の主な出来事

1998 (平成10年) [戊寅]	1997
第2次橋本龍太郎内閣・小淵恵三内閣(7月30日成立)	第2次橋本龍太郎内閣
第23代館長 船津正明	第23代館長
<p>●第78回全国高校ラグビー優勝戦 啓光学園15―12大阪工大高</p>	
<p>●第18回長野冬季オリンピック開幕。(2月7〜22日)</p> <p>●第20回応援歌伝承会。歌唱指導は東野浩(昭和2年卒)ほか26人。卓話・田中丸善司、大森道信(昭和23年卒) (3月12日)</p> <p>●明石海峡大橋開通(本四連絡橋神戸―鳴門ルート全線開通) (4月5日)</p> <p>●インド24年ぶりに地下核実験実施、核保有国宣言。5月20日パキスタン・インドに対抗して初の地下核実験実施。(5月11日)</p> <p>●創立記念講演「グローバリゼーションと日本」通商産業審議官 中川勝弘(昭和35年卒) (5月30日)</p> <p>●和歌山市園部地区の夏祭りでカレーに青酸化合物混入、4人死亡。(7月25日)</p> <p>●第4回国内研修旅行(第2学年) (8月3〜6日)</p> <p>●弓道部、ヨット部、陸上部インターハイ出場。陸上女子200位5位(萩原)、団体リレー7位入賞 (8月)</p> <p>●第4回海外研修旅行(ニューヨーク・ワシントン) (8月21〜29日)</p>	<p>●ダイアナ元英皇太子妃がパリで交通事故死。パパラッチによる過度の報道競争が問題になった。(8月31日)</p> <p>●北朝鮮、金正日書記の労働党総書記就任を発表。(金日成主席死後3年3カ月空席) (10月8日)</p> <p>●文化講演会「人材の国際競争力とは何か」船橋洋一氏(国際ジャーナリスト・朝日新聞社前アメリカ総局長) (11月13日)</p> <p>●エジプトのルクソールで、テログループが観光客に向けて無差別に発砲。日本人10人を含む62人が死亡した。(11月17日)</p> <p>●地球温暖化防止京都会議。温室効果ガス削減目標を盛り込んだ「京都議定書」採決。(12月1日)</p> <p>●韓国大統領選で金大中氏が当選した。(12月18日)</p> <p>●ノーベル平和賞 ペーン・ジョデイ・ウイリアムズ(地雷禁止国際組織代表・女性)―対地雷禁止運動を推進―。(12月10日)</p>

1999 (平成11年) [己卯]	年代
小淵恵三内閣	内閣名
第24代館長 前川昭治	館長名
<p>● 第79回全国高校ラグビー 優勝戦 東海大仰星31ー7埼玉大深谷</p>	<p>ラグビー関連記事</p>
<p>● 対人地雷全面禁止条約発効。 (3月1日)</p> <p>● 第21回応援歌伝承会。歌唱指導は東野浩 (昭和2年卒) ほか16人。卓話：波多野副会長 (S26年卒) (3月11日)</p> <p>● 東京都知事選で石原慎太郎当選。大阪府知事選で横山ノック再選。 (4月11日)</p> <p>● 記念講演「21世紀の世界に羽ばたく後輩達へ——先輩から捧げる言葉——」米国同窓会長・弁護士 水月文明 (昭和29年卒) (5月30日)</p> <p>● 男女共同参画社会基本法公布。 (6月23日)</p> <p>● 国旗・国歌法成立。(日の丸・君が代) 法制化。 (8月9日)</p> <p>● 改正外国人登録法成立。在日外国人指紋捺捺義務を全廃。 (8月13日)</p> <p>● 第5回つくば・東京研修旅行 (第2学年)。 (8月23ー26日)</p> <p>● ヨット部・陸上部、インターハイ出場。 (8月)</p> <p>● 茨城県東海村の民間核燃料加工会社JCOの施設で臨界事故。作業員ら100人が被爆、付近住民31万人に避難勧告。のち社員2人死亡。 (9月30日)</p> <p>● 自公3党連立政権で合意。小淵恵三連立内閣成立。 (10月4・5日)</p> <p>● 文化講演会「人生と出会い」山口大学学長・理学博士 広中平祐氏 (11月8日)</p> <p>● ノーベル平和賞 国境なき医師団——戦争被害者らへの緊急医療——。</p>	<p>その他の主な出来事</p> <p>● 北朝鮮、弾道ミサイルを発射。日本上空を越えて三陸沖に着弾。北朝鮮は人工衛星と発表。 (8月31日)</p> <p>● 金大中韓国大統領来日。10月8日未来志向の日韓共同宣言。 (10月7日)</p> <p>● 文化講演会「日本語の魅力」金田一春彦氏 (10月8日)</p> <p>● 特定非営利活動促進法 (NPO法) 施行。 (12月1日)</p> <p>● ノーベル平和賞 ジョン・ヒューム (英社会民主労働党首)・デービッド・トリンブル (英アルスター統一党党首)——英・北アイルランド和平に貢献——。</p>

2000（平成12年）〔庚辰〕	
小渕恵三内閣・第1次森喜朗内閣（4月5日）・第2次（7月4日）	
第24代館長 前川昭治	
<ul style="list-style-type: none"> ● 第80回全国高校ラグビー 優勝戦 伏見工21―3佐賀工 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大阪府知事選、大由房江が当選。初の女性知事誕生。（2月6日） ● 第22回応援歌伝承会。（3月9日） ● 小渕首相、脳梗塞で緊急入院。4月4日早期回復困難で小渕内閣総辞職。5月14日没。4月5日自民党、森喜朗を総裁に選出。4月5日自公保3党連立森内閣成立。（4月2日） ● 3月末の携帯電話台数、5,000万台を超え固定電話を抜く。（4月3日） ● 森首相、「日本は天皇を中心とする神の国」と発言。（5月14日） ● 創立記念講演「私の21世紀ビジョン在校生に期待するもの」東京大学工学部都市工学科教授 西村幸男（S40年卒）（5月30日） ● 三宅島の雄山噴火。9月1日東京都、全島避難を決定。（7月8日） ● 第26回サミット、沖縄県名護市で開催。（7月21日） ● 第5回海外研修旅行（ニューヨーク・ワシントン）（7月24日～8月1日） ● 弓道部インターハイ男子団体優勝（国広、井上陸、塩田、井上篤、永渕）。ヨット部団体少年女子の部・女子FJ級ソロ優勝新井由香・陸上部インターハイ出場。（8月） ● 第6回つくば・東京研修旅行（第2学年）（8月23～26日） ● 第27回シドニー・オリンピック開幕（10月1日）。女子マラソンで高橋尚子が日本女子陸上初の金メダル獲得（9月24日）。（9月15日） ● 白川英樹、ノーベル化学賞受賞決定。（10月10日） ● 宮城県上高森遺跡などの旧石器捏造が発覚、教科書修正へ発展。（11月5日） ● 文化講演会「国際社会における日本の役割」～21世紀を担う若人に期待すること～ 小和田恒氏（国際問題研究所理事長・前国連大使）（12月21日） ● ノーベル平和賞 金大中（韓国大統領）―北朝鮮との南北和解に貢献―。

2001 (平成13年) [辛巳]	年代
第2次森喜朗内閣・第1次小泉純一郎内閣 (4月26日成立)	内閣名
第24代館長 前川昭治	館長名
<p style="text-align: center;">ラグビー関連記事</p> <p style="text-align: right;">● 第81回全国高校ラグビー 優勝戦 啓光学園50-17東福岡</p>	
<p style="text-align: center;">その他の主な出来事</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中央省庁再編成 (内閣府・厚生労働省・文部科学省・財務省・国土交通省など1府12省庁体制に) ● ハワイ沖で愛媛県宇和島水産高実習船「えひめ丸」が米原潜と衝突沈没。8人死亡、1人行方不明。(1月6日) ● 第23回応援歌伝承会。歌唱指導は東野浩 (昭和2年卒) ほか。(3月14日) ● 熊本地裁、ハンセン病国家賠償請求訴訟で国の違憲性を認め、賠償金支払いを命じる。5月23日政府控訴を断念。(5月11日) ● 創立記念講演「ヒト・人類・そして私たち——過去・現在・未来にゲームが教えるもの——」木村彰方氏 (東京医科歯科大学教授) (5月30日) ● 大阪教育大付属池田小学校に男が乱入、包丁で児童8人を刺殺。(6月8日) ● 第7回国内研修旅行 (2学年) (7月30日～8月2日) ● 小泉首相、靖国神社へ参拝、96年の橋本首相以来。(8月13日) ● 第6回海外研修旅行 (ニューヨーク・ワシントン) (8月20～28日) ● 弓道部・ヨット部・陸上部・水泳部、インターハイ出場。(8月) ● 水泳団体少年女子の部200m個人メドレー第2位、400m自由型3位入賞 本知恵美。(8月20～28日) ● 米国で4機の旅客機がハイジャックされ、2機はNYの世界貿易センター (2棟とも崩壊)、1機はワシントンの国防総省へ突入、1機はピッツバーグ近郊へ墜落。(9月11日) ● 千葉県で日本初のBSE (牛海綿状脳症) 感染を確認。(9月22日) ● 野依良治、ノーベル化学賞受賞決定。(10月10日) ● イチロー選手アメリカンリーグで首位打者と盗塁王、新人王に加えて最優秀選手 (MVP) に。(11月20日) ● 文化講演会「冒険と探検〜未来の挑戦」河合雅雄氏 (兵庫県立人と自然の博物館館長・京都大学名誉教授) (11月22日) ● 皇太子ご夫妻に初めてのお子さま (内親王) が誕生。お名前を愛子 (あいこ)、称号を敬宮 (としのみや) と命名。(2月1日) 	

2002 (平成14年) [壬午]	
第1次小泉純一郎内閣	
第25代館長 末永照元	
<ul style="list-style-type: none"> ● 第82回全国高校ラグビー 優勝戦 啓光学園26―20東福岡 	<ul style="list-style-type: none"> ● 海上保安庁巡視船、奄美大島北西で停船命令の無視を理由に不審船と交戦、不審船は沈没。 (12月22日) ● ノーベル平和賞 コフィ・アナン(国連事務総長)――秩序ある平和的世界実現に向けた努力――。 ● ヨーロッパの12カ国で単一通貨ユーロの現金流通が始まる。 (1月1日) ● 雪印食品、輸入牛肉を国産と偽装、BSE発生による国の買取制度を悪用、2月22日会社解散を決める。8月6日日本ハム株式会社でも偽装が発覚。 (1月23日) ● ブッシュ大統領、北朝鮮・イラク・イランを「悪の枢軸」と一般教書演説で非難。 (1月29日) ● 鈴木宗男衆議院議員、北方4島支援業者選定に関与の疑惑、自民党離党、6月12日幹旋収賄罪で逮捕。 (3月4日) ● 辻元清美社民党衆議院議員、秘書給与の詐取疑惑の責任をとり議員辞職。 (3月12日) ● 第24回応援歌伝承会。歌唱指導は東野浩(昭和2年卒)ほか。 (3月13日) ● 加藤紘一衆議院議員、秘書の脱税容疑逮捕で自民党離党、4月9日議員辞職。 (3月18日) ● 文科省よりスーパーサイエンスハイスクールの指定を受ける。 (4月) ● 創立記念講演「時代の変化とこれからの社会―霞ヶ関から見たパラダイムシフト―」谷口博文氏(財務省大臣官房信用機構課長) (5月30日) ● 第17回サッカー・ワールドカップ日韓大会、ソウルで開幕、6月30日横浜で閉幕。 (5月31日～6月30日) ● 第8回つくば・東京研修旅行(第2学年) (8月4～7日) ● 田中真紀子衆議院議員、公設秘書給与流用疑惑の責任をとり辞職。 (8月9日) ● 弓道部・ヨット部・陸上部・水泳部インテターハイ出場。 (8月) ● 水泳団体少年女子の部200m個人メドレー、200m平泳ぎ優勝 山本千恵美。 (8月) ● 小泉首相、初の訪朝で金正日総書記と会談。日本は植民地支配を謝罪、国交正常化交渉の再開で一致、「日朝平壤宣言」に調印。 (9月17日)

(平成15年)〔癸未〕	年代
第2次小泉純一郎内閣 (11月19日成立)	内閣名
末永照元	館長名
<p>●第83回全国高校ラグビー 優勝戦 啓光学園15-0大分舞鶴</p>	<p>ラグビー関連記事</p>
<p>●世界約60カ国、600以上の都市で、イラク戦争反対の平和デモ、1,000万人以上が参加。 (2月15日)</p> <p>●韓国・大邱市で放火による地下鉄火災。192人死亡。 (2月18日)</p> <p>●北京で脱北者1,000人が日本人学校に駆込み。 (3月12日)</p> <p>●第25回応援歌伝承会。歌唱指導は東野浩(昭和2年卒)ほか。 (3月)</p> <p>●修猷フェスト。土曜日自己開発講座第2回目出前授業。 (3月)</p> <p>●イラク戦争開始。4月9日米英軍、バグダッド制圧、フセイン体制崩壊。5月1日ブッシュ大統領、戦闘終結宣言。 (3月20日)</p> <p>●宮崎駿監督の「千と千尋の神隠し」アカデミー賞受賞。 (3月23日)</p> <p>●国立歴史民族博物館、弥生時代の始まりを通説より500年早い紀元前1,000年ごろとする新説を発表。 (5月19日)</p> <p>●創立記念講演「人間とコンピューターが共生する社会」九州大学大学院情報科学研究員教授 谷口倫一郎(昭和49年卒) (5月30日)</p> <p>●第7回海外研修旅行(イタリア・スイス・オランダ)。 (7月10〜28日)</p> <p>●ヨット部・陸上部・水泳部インターハイ出場。陸上男子八種競技優勝 中野陽平。 (8月)</p> <p>●第9回つくば・東京研修旅行(第2学年) (8月5〜8日)</p>	<p>その他の主な出来事</p> <p>●小柴昌俊、ノーベル物理学賞、田中耕(島津製作所)ノーベル化学賞決定。 (10月8日)</p> <p>●修猷フェスト。土曜日自己開発講座第1回出前授業。 (10月)</p> <p>●北朝鮮による日本人拉致事件被害者5人が帰国、24年振り肉親と再会。(10月15日)</p> <p>●文化講演会「物質の構造はどこまで分かったか」有馬朗人氏(参議院議員・元東京大学総長・元文部大臣) (11月18日)</p> <p>●ノーベル平和賞 ジミー・カーター(元米大統領)——国際紛争の平和的解決への努力と民主主義・人権の拡大——。</p>

2003年	
第1次小泉純一郎内閣・	
第25代館長	
<p>● 第84回全国高校ラグビー優勝戦 啓光学園31―14天理高校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 北朝鮮の核問題などをめぐり、初の6カ国協議（北朝鮮・米・中・韓・ロ・日）。（8月27日） ● 日本産のトキ絶滅（新潟県佐渡島）（10月10日） ● 修猷フェスト。土曜日自己開発講座第3回出前授業。（10月25日） ● 文化講演会「歴史を深く吸込み、未来を思う―寺島実郎氏（三井物産戦略研究所長）」（11月 日） ● 日本人外交官2人（奥克彦・井上正盛）とイラク人運転手、イラク北部で殺害される。（11月29日） ● テレビ地上デジタル放送開始。（12月1日） ● イラク駐留米軍、イラク、ティクリート近郊でフセイン大統領を拘束。（12月13日） ● リビア、大量破壊兵器の廃棄表明。（12月19日） ● 米でBSEの牛発見。12月24日日本政府、米国産牛肉の輸入を停止。（12月23日） ● ノーベル平和賞 シリン・エバディ（イランの人権活動家・女性―イスラム体制下で女性と子供の人権擁護に努力―）。（1月15日） ● 小泉首相が靖国神社に参拝。4年連続4回目。「私的な参拝」と説明（1月1日） ● 芥川賞に最年少受賞者。金原ひとみさん（20）と綿矢りささん（19）。それまでの23歳を一気に更新。（1月15日） ● 東京地裁が、青色発光ダイオードの特許権について、発明者に払われるべき対価として604億円を認定。日亜化学工業に200億円全額の支払いを命じる。（1月30日） ● 陸上自衛隊の派遣本隊第1陣がイラクの南部サマワに到着。3月下旬、給水や学校の補修などの支援活動を開始。（2月8日） ● 第26回応援歌伝承会。（3月11日） ● イラクの武装勢力が日本人ボランティア活動家ら男女3人を拉致し拘束、自衛隊に撤退を求めたが、イスラム宗教者委員会の説得などで15日に解放。14日にはフリージャーナリストら邦人2人が拉致されたが17日に解放された。（4月8日）

(平成16年) [甲申]	年代
第2次小泉改造内閣 (9月27日発足)	内閣名
古田智信	館長名
	ラグビー関連記事
<p>● 是枝裕和監督の映画「誰も知らない」に主演した柳楽優弥さんがカンヌ国際映画祭で最優秀男優賞を獲得。14歳での同賞受賞は史上最年少。 (5月22日)</p> <p>● イラクのバクダッド近郊で、日本人フリー記者橋田信介さん(61)と、おいの小川功太郎さん(33)が襲撃されて死亡。 (5月27日)</p> <p>● 創立記念講演「人間型ロボットと人間研究」 早稲田大学理工学部教授 高西淳夫 (昭和50年卒) (5月30日)</p> <p>● 長崎県佐世保市立小の6年女子が同級生に首をカッターで切られ死亡。家裁は同級生の女子を児童自立支援施設へ送致。 (6月1日)</p> <p>● 米英政府でつくるイラク暫定占領当局がイラク暫定政府に主権を委譲し、解散。03年4月に旧フセイン政権が崩壊して以来、占領統治は約1年3カ月で終わる。参院選で自民党は改選議席を下回る49議席にとどまった。民主党は50議席を獲得。 (7月11日)</p> <p>● 北朝鮮拉致被害者の曾我ひとみさんと夫のジェンキンスさん、娘2人が再会したジャカルタから帰国・来日。 (7月18日)</p> <p>● 第8回海外研修旅行(ニューヨーク・ワシントン)。 (7月18日〜26日)</p> <p>● 東京都心、観測史上最高の39・5度を記録。この夏は全国的に猛暑で真夏日が長く続いたほか、台風上陸ラッシュや集中豪雨などの異常気象、それに伴う災害が多発。 (7月20日)</p> <p>● 第10回つくば・東京研修旅行(第2学年) (8月4日〜7日)</p> <p>● 全国高校野球選手権決勝で、駒大苫小牧(北海道)が済美(愛媛)を下す。北海道勢としても東北以北の学校としても、春夏を通じて初の快挙を達成。(8月22日)</p> <p>● アテネ五輪で日本勢、史上最多メダル獲得。メダル総数37個は史上最多。金メダル数16個は東京五輪(64年)と並ぶ史上最多タイ。柔道の谷亮子、水泳の北島康介、女子マラソンの野口みずき、体操男子団体などが活躍した。 (8月)</p> <p>● 球界再編成問題をめぐってプロ野球選手会が史上初のスト決行。両リーグ計12試合が中止になる。 (9月18〜19日)</p>	その他の主な出来事

2004

第1次小泉純一郎内閣・

第26代館長

- ダイエーの松中信彦がパ・リーグ三冠王。プロ野球7人目、18年ぶり。(9月27日)
- イチローが大リーグ年間最多安打記録を更新。最多記録257安打を84年ぶりに更新。262本に伸ばす。(10月1日)
- 台風23号が列島縦断、死者・行方不明者90人超。高波や土砂崩れ、河川のはんらんによる被害が相次ぐ。年間10個の上陸は過去最多。(10月20日)
- 午後5時56分ごろ、新潟県中越地震(M6.8)が発生。死者40人、負傷者4559人。住宅の全半壊1万3877棟にのぼる。(10月23日)
- イラクでアルカイダ系の武装集団が香田証生さんを拉致。映像をネットに流し自衛隊撤退を要求するが、小泉首相は即座に拒否を表明。バクダッド市内で香田さんの遺体が発見される。(10月26〜30日)
- 文化講演会「21世紀を担う君たちへ」藤原正彦(御茶ノ水女子大理学部教授)(10月31日)
- 日本銀行が新紙幣3種類を発行。千円札は野口英世、5千円札は樋口一葉の肖像。(11月1日)
- 日本プロ野球組織が来季からパ・リーグに参入する球団を楽天と決定。新規参入は51シーズンぶり。(11月2日)
- インドネシアのスマトラ島沖で起きたマグニチュード9.0の地震で、東アフリカ沿岸を含むインド洋沿岸諸国を津波が直撃。死者数はインドネシアやスリランカなどで計30万5276人(平成17年2月末ロイター通信集計)。被災者は数百万人に及んだ。津波による被害は20世紀以降最大級。(12月26日)
- 天皇家の長女紀宮さまの婚約内定発表。お相手は秋篠宮さまの同級生で東京都職員黒田慶樹さん。(12月30日)
- ノーベル平和賞 ワンガリ・マータイ(アフリカ・ケニア)女性——環境保護・植林に尽力、民主主義・平和への貢献——。

16

ラグビー憲章
IRB

Playing Chapter

IRB ラグビー憲章 Playing Charter

(1997年7月改訂)

序 文

IRB はラグビーの基本原則を定めるラグビー憲章 (Playing Charter) をここに制定する。

この憲章は、すべての協会に原案に対しコメントをする機会を与えた後に承認したものである。その目的は、ラグビーの競技方法に対して、ある一定のチェックリストを設けることにある。これは同時にラグビーがもつ独自の特性を失わせないためのものでもある。

プレーとコーチングに適用するラグビーの原則に付け加え、2つの新しいチェックリストを追加した。競技規則の適用 (レフリング)、と競技規則制定に関してである。

ラグビー憲章の存在はラグビーに大きな恵みをもたらすものとなるであろう。ラグビー憲章に照らし合わせることにより、あらゆる基準が明確になる。そして、このことが根拠の曖昧な変更を防ぐことにつながり、いかなる変更も、ラグビー独自の特性との一貫性を持つことになるからである。

したがって、ラグビー憲章は、ラグビーとは何かを説明する競技規則を補う重要な性格を担うものであり、プレーヤー、コーチ、レフリー、そして競技規則を制定するものに、一定の規範を示すものとなる。

1. ラグビーの目的 The Object of The Game

ラグビーの目的は、それぞれ15名、10名、または7名からなる2つのチームが、競技規則およびスポーツ精神に則り、フェアプレーに終始し、ボールを持って走り、パス、キックおよびグラウンディングして、できるかぎり得点を多くあげることであり、より多くの得点をしたチームがその試合の勝者となる。



Sure You Can !



Shuyu Fighting Fifteen

Designed by Itim Shimizu 2004

17

随
想

守田基定先生のこと

「ジイサン」と「オヤジ」と…



昭和41年卒業

安部直幸

(瀬岩田屋 常務取締役)

修猷館高校ラグビー部は現在、岡本・瀬尾・御領園・清水という有能な4人の先生方によりしっかりとした万全の指導体制が生まれ、現役諸君はその恩恵にあずかり、この10年来目覚ましい成果を挙げている。

修猷館ラグビー80年間の歴史の中でも、戦前および戦後の2つのピーク時期と比べても遜色のない隆盛期に近づいていると思われる。とくに現在は部員の保護者の方々の理解も深く、各家庭における支援体制も申し分なく、我々の現役時代と比べて隔世の感がある。

「ジイサン」と守田基定先生（S14年卒）が、母校修猷館に教師として戻ってこられたのは第2のピーク時期のあと長い冬の時代を経て、一気に曙光が見え出した昭和51年の春であった。

当時のラグビー部の指導体制は、赴任後10年を経過し脂の乗り切った故淵本武陽先生（S25年卒）を中心に、大学を出て間もない若手OBの武藤英治・原田隆両君（いずれもS45年卒）がフオワードを、私がバックスをというように分業体制も確立され、チームもようやく県大会に出場し花園出場も狙える実力までになっていた。

我々当時の若手コーチ陣は言うに及ばず、淵本先生にとっても大

先輩となる守田先生は、この既存指導体制を評価され、練習グラウンドでは我々の気づかぬ現役指導上の精神的留意点などをさりげなくアドバイスされるにとどめ、主に部活動に関する学校側との折衝やOB会との調整などの裏方に徹しておられた。

淵本先生から聞く守田先生の若い頃の逸話は、「柳の枝を鞭（むち）がわりに片手に持ち、スクラムを組む我々の背中にスパイクのまま飛び乗っては『姿勢が高いいよろうが！』』とってはケツをひっぱっていた。」といったたぐいも多く、グラウンドの小石拾いや草むしりをなさっていたその頃の好々爺然とした横顔からは、そんな激しさはとでも想像できなかった。（時折その一端を垣間見ることもあったが・・・）

したがって、すでに淵本先生を「オヤジ」と呼んでいた現役生徒たちが、いつの頃からか畏敬（いけい）の念と親しみを込めて守田先生を「ジイサン」と呼ぶようになったのもごく自然な流れだった。このように先輩でもある「ジイサン」と「オヤジ」の2人の先生たちに育まれた現役たちは、その後も順調な成長を重ね、ついに奥山清隆君を主将とする昭和52年度のチームは実に18年振りに念願の花園の地に立つことが出来たのであった。

その祝賀会の折に「教員生活も終わりに近いこの時期に、このように至福の時を現役の子供たちと共有できるのは望外の幸せだ。」と守田先生が破顔一笑されたのを昨日のことのように思い出す。

守田先生はこのち更に4年間を修猷館で教壇に立たれた後定年退職されたが、今に至るも練習のある日はほぼ毎日のようにグラウンドを訪れ、後輩たちに優しい目を注いでおられる。

（注：守田先生は、平成16年の第84回全国大会県予選準決勝前日の



11月6日、修猷館グラウンドで突如倒れられ救急病院に搬送後、脳内出血と診断され手術を受けられた。幸い大事には至らず、現在はリハビリテーションに励んでおられる。いつときも早いご回復を切に祈念する次第である。



溝口先生・名誉会長就任祝賀会

18

創立80周年記念企画（要旨）

募金趣意書、祝賀行事

修猷館高校ラグビー部創立八十周年記念行事のお願い

趣 意 書

謹啓 皆様には益々の活躍、心からお喜び申し上げます。
さて福岡県立修猷館高校ラグビー部は平成十七年春、創立八十周年を迎えます。

大正十四年四月頃々の声を挙げて以来、団体優勝や全国大会出場を通して長年にわたり、幾多の優秀なラグーマンを輩出してきました。九州の高校ラグビー界では福岡高校に一年遅れの創部でしたが、その後の修猷、福高両チームの角運は今日に至るまで連続として続き、数々の名勝負物語を残してきました。全国的には、秋田工、天理などと並ぶ屈指の伝統校です。歴史もさることながら、「九州に修猷館あり」の名を高めたのは、洗練されたチームプレーとラグビースピリットです。

昭和二十四年の団体下、全国制覇し、又昭和三十年の第三十四回大会一回戦では、この大会に於いて準優勝した秋田工と相手に修猷館高は6対8と善戦しました。小柄な修猷館選手の鋭いタックルと卓越したスキルを眺めた北大西勉之祐氏元全日本監督は、「これが高校チームかと驚嘆したといひます。

また「ノースサイド」の精神を具現したのが、昭和三十二年の特岡団体決勝で城北東東に3対9で惜敗した修猷館ファイフティーンでした。平成六年初秋、この時の両校選手が三十七年振りに静岡県熱海のホテルに相集いました。修猷館の呼びかけで実現したこの会合について、当時の城北監督、江田昌祐氏後に日本ラグビー協会理事は修猷館ラグビー七十年史に次のような一文を寄せています。「青春の思い出の地で、激戦の模様を回顧しながらお互いの健闘をたたえ、さらなる友好を深めることができました。この集いは「猷城会」と名付けられました。」

平成十六年春、修猷館高校ラグビー部は二十二名の新部員を迎えました。総勢六十七名、男女の比率がほぼ同一の時代にあつて男子生徒六百名中一割強の若者がラグビーを志す姿は壮観です。他に女子マネージャー六名、まさに「校技」と云つても過言ではありませぬ。指導者は監督岡本先生、修猷館OBをはじめ五名、充実した指導体制です。あまたのOB、父母は「花園」を目指す復讐、愛見に大いなる期待を抱き、応援しています。一年後に創部八十周年を迎え、選手ともども全員が一丸となつて燃えています。この時期にあたり、蒸だれ選手ではございますが八十周年記念の特別会費をお願いすることと致しました。目標金額は三百万円、全国のラグビー部OB、卒業生、企業、団体を対象に募り、トレーニング機器購入や八十周年記念行事の原資に当てたいと存じます。一口一万円、個人は一口以上、をお願い致します。

現下の経済情勢のもとでこのようお願いをするのは心苦しい次第ですが、二十一世紀の日本を背負う修猷館ラグビーのひたむきを精進を志して頂きたく、ここにお願い申し上げます。 敬具

平成十六年夏

修猷館高校ラグビー部OBクラブ
名誉会長 古川 博
会長 柴田 忠敏

八十周年記念行事実行委員会
委員長 齊藤 雄
委員(兼務) 若田 至道

注記
特別会費を納入いただきました皆様には、修猷館ラグビー八十年史と八十周年特別記念品を贈呈致します。

募金400万円余

目標を大きく上回る



80周年記念実行委員長

齋藤 雄

（昭和30年卒）

部創立80周年記念事業実行委員会は2年前の平成15年、募金活動の準備を手始めに事業内容の詰め作業を開始した。相前後して東京OB会も協力態勢を固めた。その間、現役諸君の目覚ましい活躍があり、気運は大いに盛り上がった。特別寄付の募金活動は目標の3百万円を突破、400万円を超えた（平成17年3月現在）。4月29日の祝賀行事には約400人の出席が見込まれ、次のような諸行事を予定している。

【第1部】記念試合（修猷館高校グラウンド・同食堂）

▽ 正午〓OB懇親試合（關魂碑前集合）

開会挨拶 安部直幸副会長。物故部員に対し黙祷。

記念撮影。

① 修猷館超OB（40代以上）同士の対戦。

② 修猷館超OB 対 福高超OB

▽ 午後1時〓対福岡高定期戦

① 溝口杯 修猷館OB 対 福高OB

▽ 同4時〓懇親会（食堂）。両校現役、OB参加。

② 新島杯 修猷館現役 対 福高現役

③ 表彰式（關魂碑前）

④ 記念撮影（關魂碑前）

① 挨拶 高谷祐二福高OB会長。

② 乾杯 柴田忠敏修猷OB会長

③ 現役紹介 両校現役部員全員

④ 懇談、エール交換

【第2部】記念式典（JALリゾートシーホークホテル福岡）

▽ 午後7時〓司会・RKB毎日放送 茅野正昌アナウンサー

（昭和61年卒業）

① 開会挨拶 齋藤雄実行委員長

② 会長挨拶 柴田忠敏修猷OB会長

③ 来賓祝辞 古田智信修猷館館長

④ 同 日比野弘日本ラグビー協会会長代行

⑤ 同 土屋俊明九州ラグビー協会会長

⑥ 同 高谷祐二福高OB会長

⑦ 現役部員決意表明 山口和也主将ほか副主将

及びリーダー

⑧ 目録贈呈 柴田OB会長

（現役に対し用具など老百万円相当）

⑨ 監督挨拶 岡本圭吾監督

⑩ 顧問紹介 岡本圭吾監督

〔80周年記念事業〕

1. 現役に対し、記念ラグビー用具贈呈
2. 80周年記念部誌の刊行
3. 記念品作成
 - ① 80周年マグカップ
 - ② 記念ネクタイ
 - ③ エンブレム
4. 修猷館高校ラグビー部ホームページの立ちあげ



- ⑪ 鏡割り
平島正登修猷OB会副会長
(懇談)
- ⑫ 祝電披露
茅野正昌アナウンサー
(全国高校ラグビー県予選決勝VTR
上映)
- ⑬ 表彰
功労者へ記念品贈呈 柴田OB会長
被表彰者 古川博(昭和14年卒業)、
渡辺雄二(同23・24年卒業)、秋吉
包雄(同26年卒業)、石橋学(同27
年卒業)、藤田義雄(同27年卒業・
故人)、森久協一(同31年卒業)
- ⑭ 挨拶
古川博名誉会長
- ⑮ 館歌斉唱
- ⑯ 閉会挨拶
岩田至道・東京実行委員長

80周年記念事業実行委員会

- 〔委員長〕 斉藤雄(昭和30年卒業)、東京・岩田至道(同30年卒業)
- 〔企画〕 堀川大助(昭和31年卒業)
- 〔財務〕 柴田進(昭和41年卒業)
- 〔会計〕 左座正弘(昭和41年卒業)、十時広二(同57年卒業)
- 〔年史〕 顧問・守田基定(昭和14年卒業)、堀川大助、西牟田耕治
(同31年卒業)、相浦弘二(同32年卒業)、岡本圭吾(同
56年卒業)、真鍋泰輝(平成7年卒業)
東京・森田博(昭和58年卒業)
- 〔式典〕 田中大輔、調誠(平成4年卒業)、小山一英(昭和55年卒
業)、広佐古勉(同57年卒業)
- 〔記念品〕 安部直幸(昭和41年卒業)、斉藤雄、広佐古勉
- 〔事務局〕 濱田政司(昭和52年卒業)、堀川大助、十時広二、広佐古
勉
東京・林克己(同32年卒業)、安川裕行(同44年卒業)、
山内章(同45年卒業)



編集後記

守田基定（昭和14年卒）の労作「70年史」の路線を引継ぎ、この10年間を俯瞰（ふかん）しつつ来るべき90年、100年史にいかにかに備えるか。リレーの中間走者の心積もりで編集に当たりました。

ただ最近10年間の事跡が中心なので内容はやや変え、主将経験者のほか指導陣やマネジャー、保護者にも目配りし、活躍する卒業生にもページを割いて、より親しみ易いものに仕立てました。

また新聞、専門誌の記事、写真を積極的に取り上げ、内容に幅を持たせています。

表紙の「闘魂」は母校グラウンドそばに建つ闘魂碑から借用しました。歴代の部員を見守ってきた守護神のイメージです。

サブタイトルの「Where there is a Will, There is a Way」（意志あるところに道あり）は格言です。

花園への道は険しいものがありますが、母校はその1歩手前まで幾度となく勝ち進みました。「道」は必ずや開けると確信し、10年間の足跡を（攻めの10年）としました。

全校男子生徒の10数%に相当する部員を擁し、まさに校技たらんとする近年の勢いと、文武両道に真摯（しんし）な努力を重ねる部員の姿を表紙に凝縮しました。

この10年間に鬼籍に入ったOBは32人（平成17年3月末現在）。OBクラブの発展に多大な功績を残した故溝口博初代会長（昭和4年卒OB・平成13年10月13日没）の思い出を長男、溝口知行（昭和41年卒）が寄稿しています。

文中や記録の表記は70年史との整合性を考えながら洋数字を多用。編集委員間で議論のあった卒業年の記述は、「××年卒」が定着しているとの意見が強く、年度表記は見送っています。

今後10年間、新入部員のガイダンスにも使えるよう、指導陣の了解を得て各年次20冊、計200冊を学校に保管し、毎春配布することにしています。また、館長室にも置いていただき来客に「修猷館ラグビー」の真髄は何か、この小冊子からエッセンスを読み取ってもらうよう計らいました。

編集委は平成16年夏に立ち上げ、西牟田が素案を作成して80周年記念実行委員会に諮りました。守田は長年蓄積した豊富な資料をもとに年表などのデータ類を担当。堀川は同委員会との調整。相浦は体技や工程に専門知識を発揮し、森田は在京の窓口を務めました。監督の岡本は教え子の原稿集めに奔走し、これを真鍋がサポートしました。

編集作業たけなわの昨春秋、守田はグラウンド周辺の雑草刈りのボランティア作業中、脳内出血で倒れました。幸い一命は取り止め、現在はリハビリに励んでいます。

一日も早い再起を願って安部直幸（昭和41年卒）が筆をとり、修猷館ラグビー一途の守田に励ましのエールを送っています。

慣れない作業の間、常に考えたのはメッセージ性でした。この年史がOBの皆様はじめ次代の挑戦者たちに広く読まれることを編集委員一同切に願っています。（西牟田記・敬称略）

（修猷ラグビーOBクラブ年史編集委員会）

守田 基定（昭和14年卒） 岡本 圭吾（昭和56年卒）
堀川 大助（昭和31年卒） 森田 博志（昭和58年卒）
西牟田 耕治（同） 真鍋 泰輝（平成7年卒）
相浦 弘二（昭和32年卒）

☆主要参考資料・写真☆

修猷館ラグビー70年史、毎日新聞、朝日新聞、読売新聞、西日本新聞、雑誌「ラグビーマガジン」、九州ラグビー史、九州ラグビーフットボール協会公式戦記録、ラグビーこそ我が人生（溝口博米寿記念出版）、写真撮影：吉村公介（昭和32年卒）

修猷館高校ラグビー部創立80周年記念
部 史「闘 魂」——平成7年～同16年——

平成17年4月1日発行

編集・発行 修猷館ラグビーOBクラブ
福岡市早良区西新6丁目1番5号
福岡県立修猷館高等学校内
電話 092(821)0733
制作・印刷・製本 株式会社 セイコー社
福岡市博多区冷泉町9番3号
電話 092(281)0501

[非売品]